大月市埋蔵文化財報告書

山梨県大月市 太田ヶ原遺跡

平成 13 年6月

大月市教育委員会
大月市遺跡調査会

山梨県大月市 太田ヶ原遺跡

平成 13 年6月

大月市教育委員会
大月市遺跡調査会

例　言

1　本書は東京電力株式会社駒橋工務所建設に伴う太田ヶ原遺跡の発掘調査報告書である。

2　本遺跡は平成８年２月９日に試掘調査を行い、平成８年４月25日～同年９月30日迄、また平成９年３月６日～平成９年３月 31日迄本調査を実施した。

3　調査は大月市遺跡調査会(会長 大月市長 西室　覚)を主体者とし、大月市教育委員会 杉本正文・福田正人が調査にあたった。

4　本書は福田が作成した。

5　発掘調査・報告書作成にあたり、次の方々、関係機関から御教示、御協力をいただいた。記して厚く謝意を表する。

坂本美夫、中山哲也、小西直樹、上原学、小林公治、笠原みゆき

発掘・整理参加者

(発掘)石川実・加藤重利・宮野昭・佐藤友紀・井上久子・松村恭子・杉本義一・幡野枝美子・小田桐秀子・堀内知仁・古河千枝・清水由紀子・藤原佳子・故柳川志郎・清水真寿美・清水光子・鈴木美智恵・西室春子・高鳥英子・高鳥はま子・芦沢岳人・稀代玲央・奈良昌幸・山崎公江・山崎恵子・佐藤美千代・河野保子・河野てるよ・林　寛・奥野久代・藤本しおり・中澤郁子・堀内通男・堀内照子・小林鶴子

(整理)天野晋司・奥野久代・久保田美弥子・佐藤友紀・佐藤洋美・佐藤美千代・佐藤裕介・清水由紀子・中山京子・藤原佳子・藤本しおり・井上久子

凡　例

1　各時代・各遺跡を分別しやすいように記号化し、組み合わせて使用した。

時代　Ｊ－縄文　Ｙ－弥生　Ｈ－歴史　Ｘ－時期不明

遺跡　Ｄ－土坑（落とし穴）　Ｔ－竪穴式建物跡　Ｏ－掘立柱建物跡　Ｍ－溝跡　Ｐ－穴跡

例　歴史時代１号住居跡（HT－１）

2　挿図中に使用したスクリーントーンは カマド・粘土、 焼土

3　遺跡・遺物の縮尺は以下のとおりである。

遺跡　土坑・穴跡・建物跡１／60、カマド１／30

遺物　石鏃１／１、石・鉄製品１／２、他１／３

目　次

はしがき

遺跡環境……5
確認調査……5

遺跡と遺物

縄文時代
土坑跡(落とし穴)……10
調査区内出土遺物……11
弥生時代
調査区内出土遺物……18
歴史時代
竪穴住居跡……19
調査区内出土遺物……51
その他
穴跡……54
掘建柱建物跡……66
溝跡……68
その他……74
結　び……75

挿　図

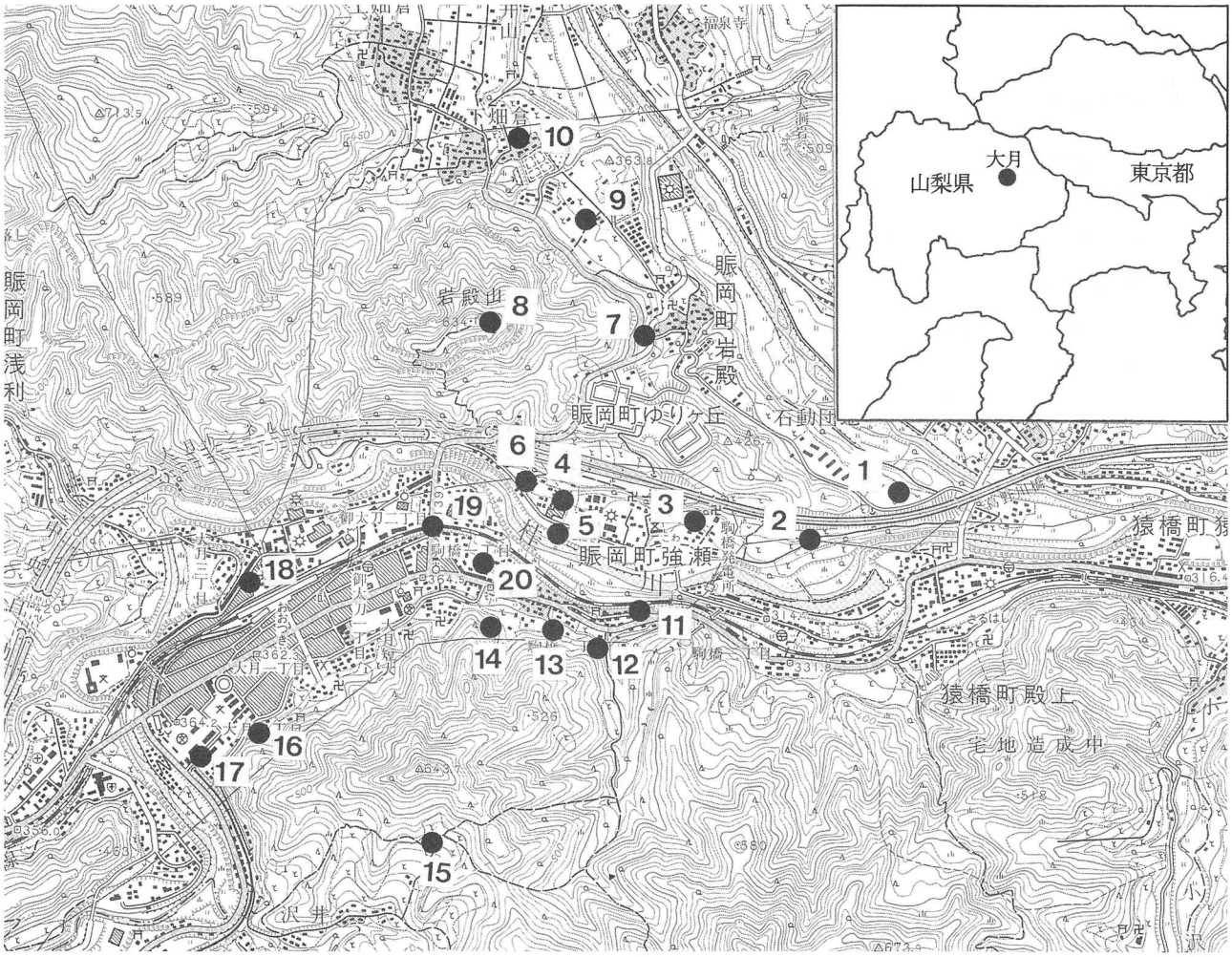
第1図……遺跡位置図
第2図～第4図……確認調査出土遺物
第5図……遺跡全体図
第6図～第7図……土坑
第8図～第13図……調査区内出土遺物
第14図～第56図……HT－1～HT－12
第57図～第58図……調査区内出土遺物
第59図～第69図……穴跡
第70図～第71図……HO－1、HO－2
第72図～第77図……XM－1
第78図……その他

表

第１表……周辺遺跡
第２表……確認調査出土遺物
第３表……縄文時代調査区内出土遺物
第４表……弥生時代調査区内出土遺物
第５表……歴史時代調査区内出土遺物
第６表……撹乱等穴跡
第７表……溝跡出土遺物
第８表～第９表……甲斐型土器

図　版

第１図……遺跡全景
第２図……遺跡遠景
第３図……HT－１～HT－12
第４図……HT－１～４、６、７、11（遺物出土状態）
第５図……HT－１、２、６、７、12（カマド）・HT－５、６（遺物出土状態）
第６図～第７図……穴跡
第８図……穴跡・XM－１
第９図……HT－１出土遺物
第10図～第12図……HT－２出土遺物
第13図～第14図……HT－３出土遺物
第15図～第16図……HT－４出土遺物
第17図……HT－５出土遺物
第18図～第19図……HT－６出土遺物
第20図～第21図……HT－７出土遺物
第22図……HT－８出土遺物
第23図～第25図……HT－９出土遺物
第26図……HT－10出土遺物
第27図～第28図……HT－11出土遺物
第29図……HT－12出土遺物
第30図……土坑・穴跡出土遺物
第31図～第33図……縄文時代調査区内出土遺物
第34図……弥生時代調査 区内出土遺物
第35図～第36図……歴史時代調査区内出土遺物
第37図～第38図……確認調査出土遺物
第39図……XM－１出土遺物



第1図　遺跡位置図

No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代
1	太田ヶ原遺跡	集落跡	縄、弥、平	11	中組遺跡	散布地	縄
2	安楽寺東遺跡	散布地	縄	12	清水入遺跡	散布地	縄
3	強瀬子の神古墳	古墳	古	13	御所遺跡	集落跡	縄、平
4	御所平遺跡	集落跡	平	14	延命寺遺跡	散布地	縄
5	西畑遺跡	集落跡	縄、平	15	地蔵窪遺跡	散布地	縄
6	強瀬西畑古墳	古墳	古	16	献上地遺跡	散布地	平
7	円通寺跡	寺院跡	中	17	大月遺跡	集落跡	縄、奈、平
8	岩殿城跡	城跡	中	18	天神遺跡	散布地	縄、弥、古
9	岩殿中倉遺跡	散布地	縄	19	四本木遺跡	散布地	縄
10	木戸狩遺跡	散布地	縄	20	柳田遺跡	散布地	縄

第1表　周辺遺跡

はしがき

遺跡環境

地理的環境

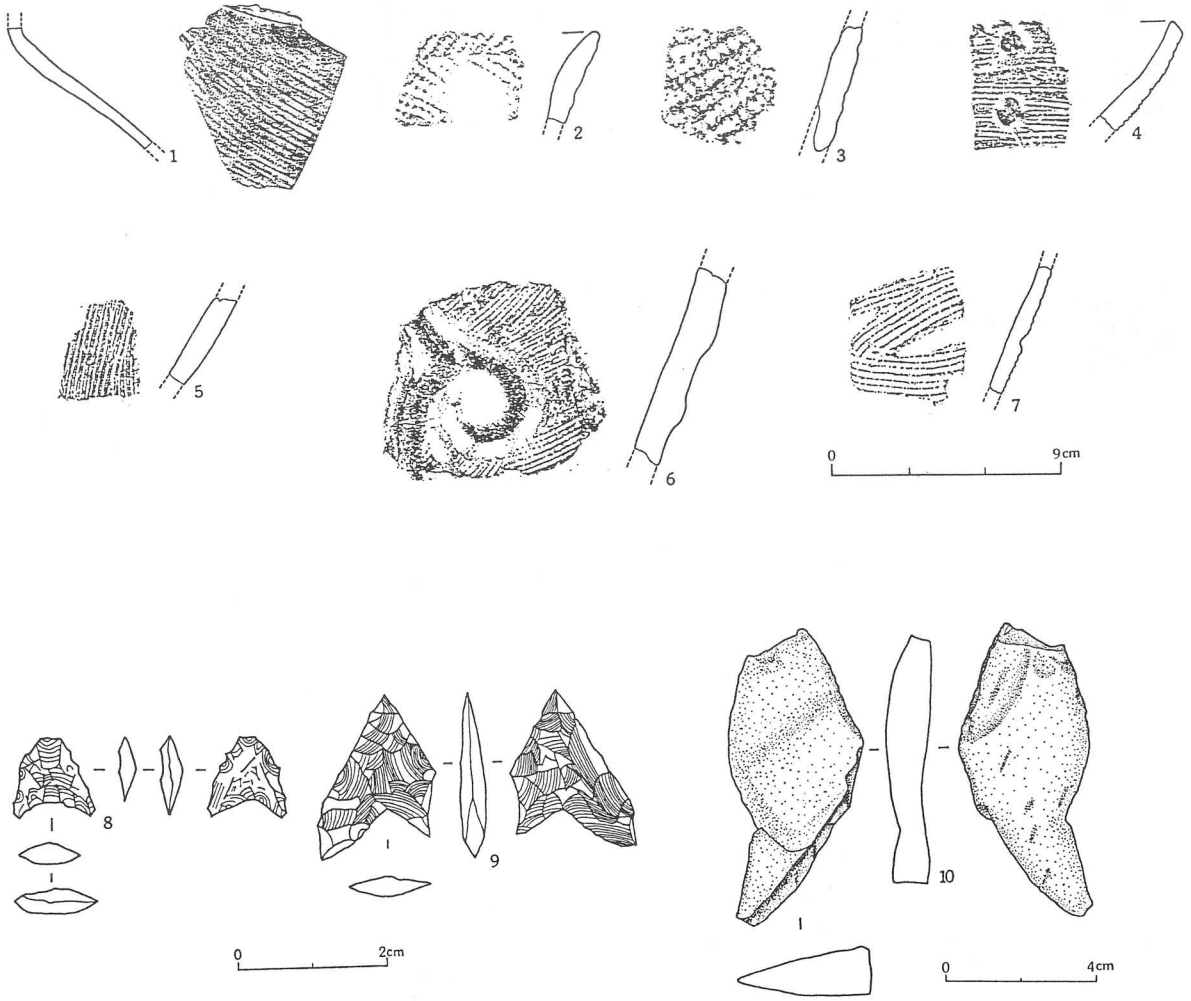
太田ヶ原遺跡は、南を桂川（相模川）、北を葛野川に挟まれた舌状台地に所在する。両河川は１キロほど下流で合流している。桂川、笹子川沿いを西に向かうと笹子峠を経て甲府盆地。また、途中を桂川に沿って南に向かうと富士の裾野を経て駿河国。葛野川沿いを北に向かうと奥多摩や秩父地方にも通じる。この様な立地からも、この地域は文物の行き交う要所であったと思われる。

歴史的環境

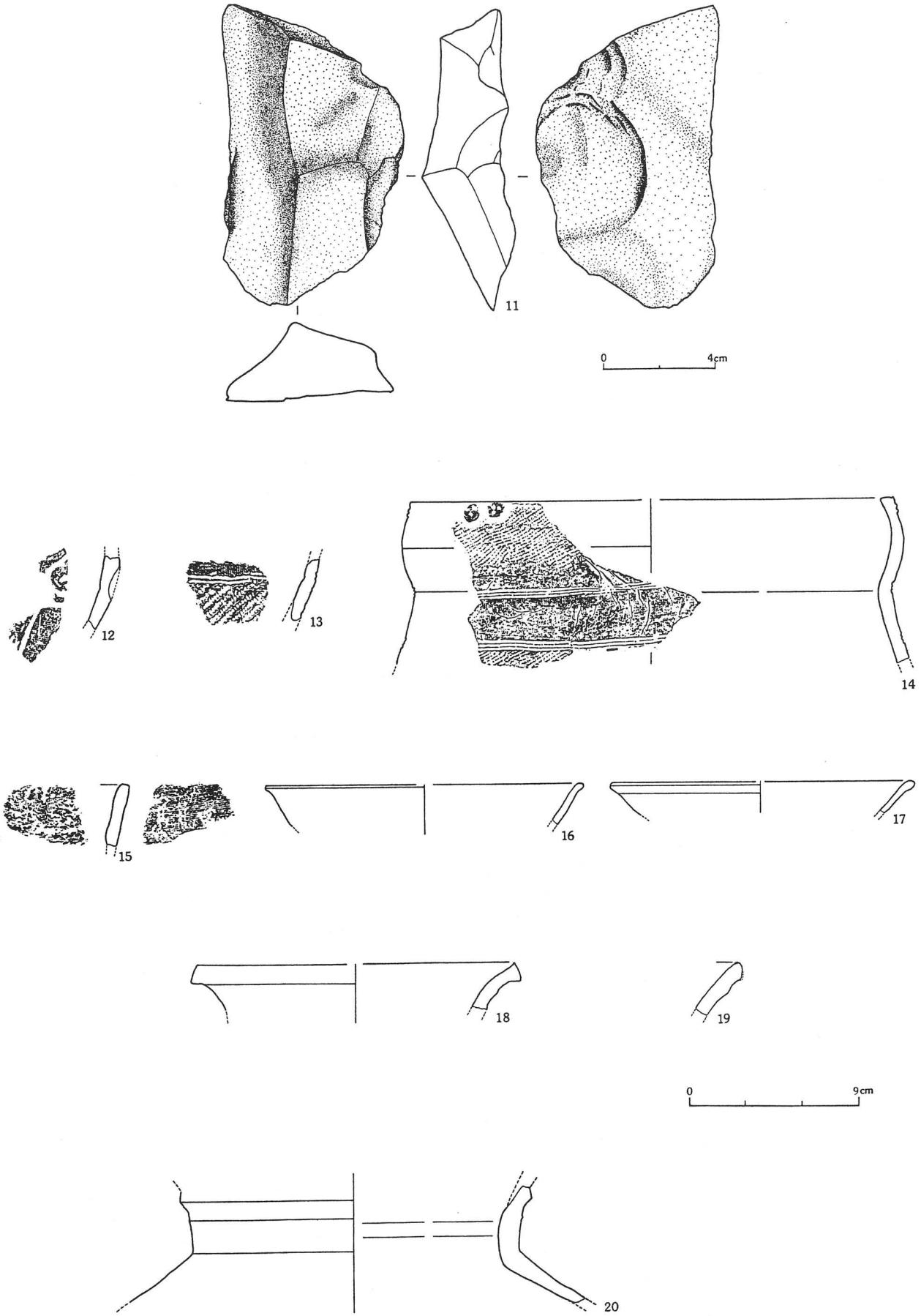
本遺跡は、岩殿山東麓に続く舌状台地上にあるが、この東麓には縄文時代の集落である岩殿中倉遺跡や強瀬子の神古墳、強瀬西畑古墳（消滅）、平安時代の集落である西畑遺跡、そして、中世の岩殿山円通寺などが点在し、脈々と続く人々の生活の場であることがわかる。

確認調査（第２図，第２表，図版37・38）

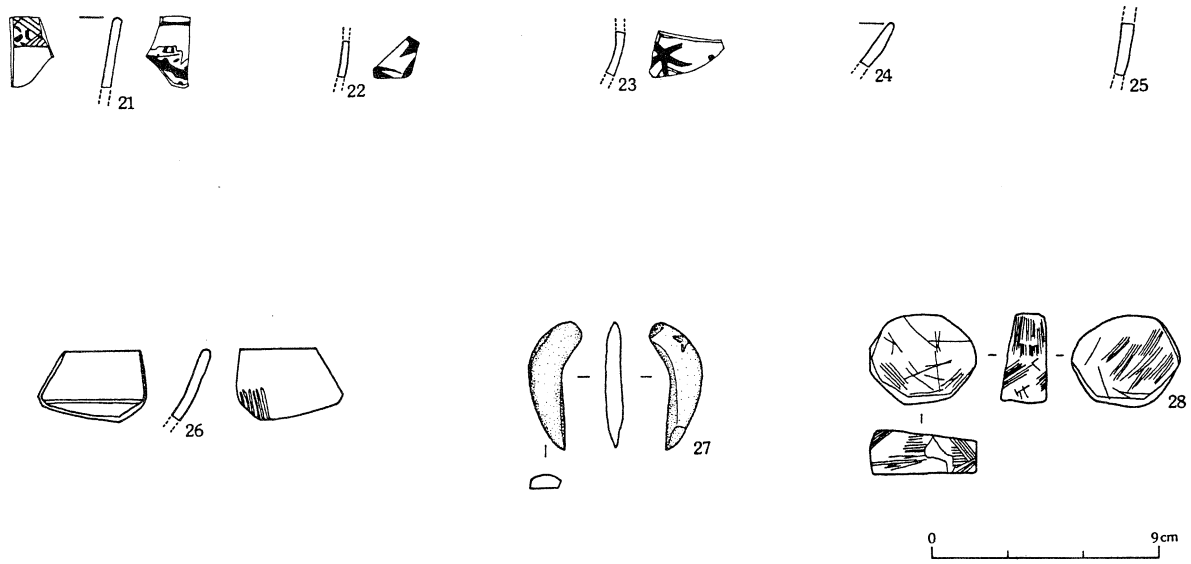
確認調査は、任意に設定した 1.5m四方のグリットの掘り下げと遺物の表面採集を行った。その結果、グリットの掘り下げでは須恵器片を確認し、表面採集では縄文土器片、弥生土器片、土師器片、須恵器片等を確認した。



第２図　確認調査出土遺物（１）



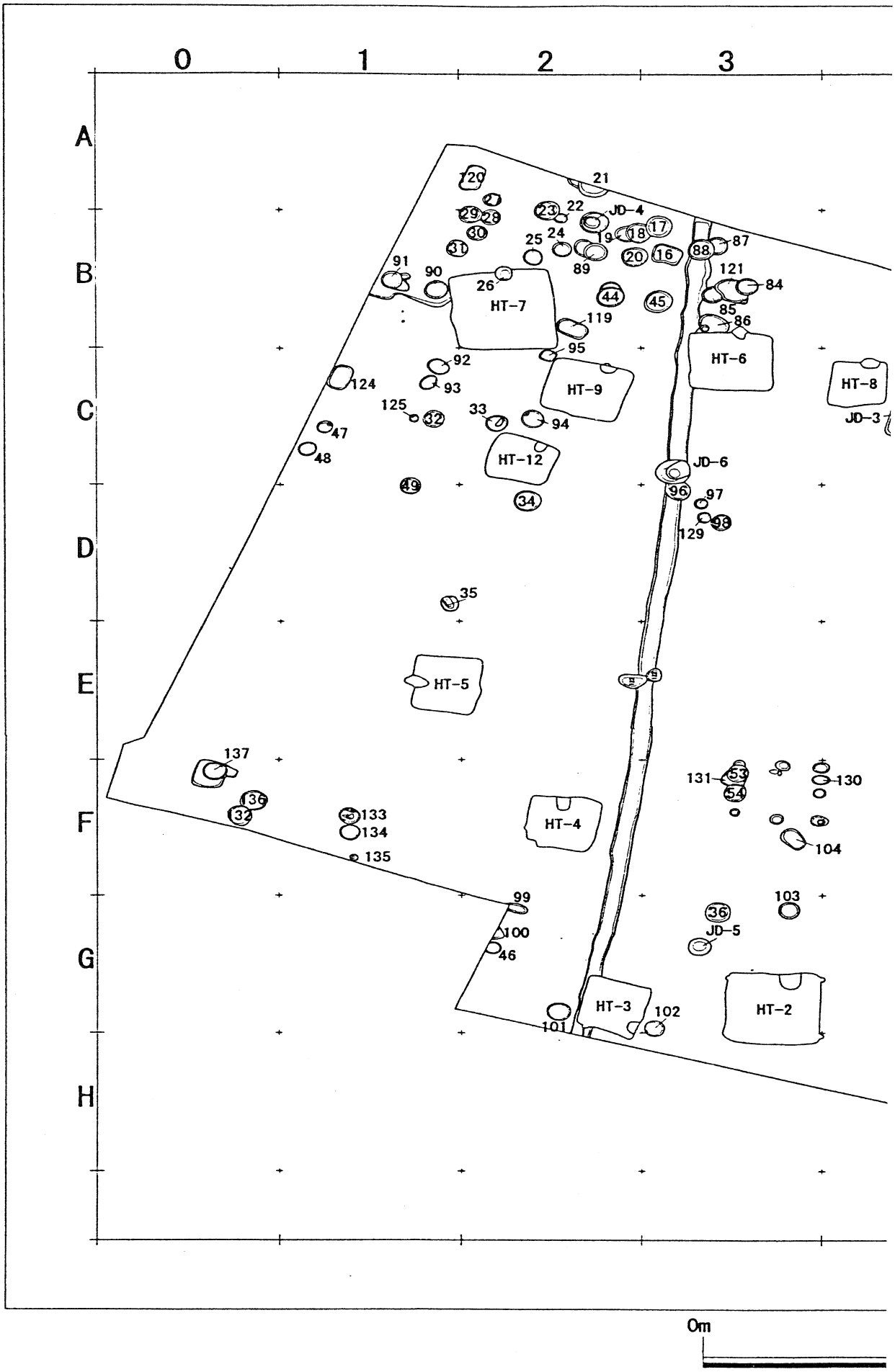
第３図　確認調査出土遺物（２）

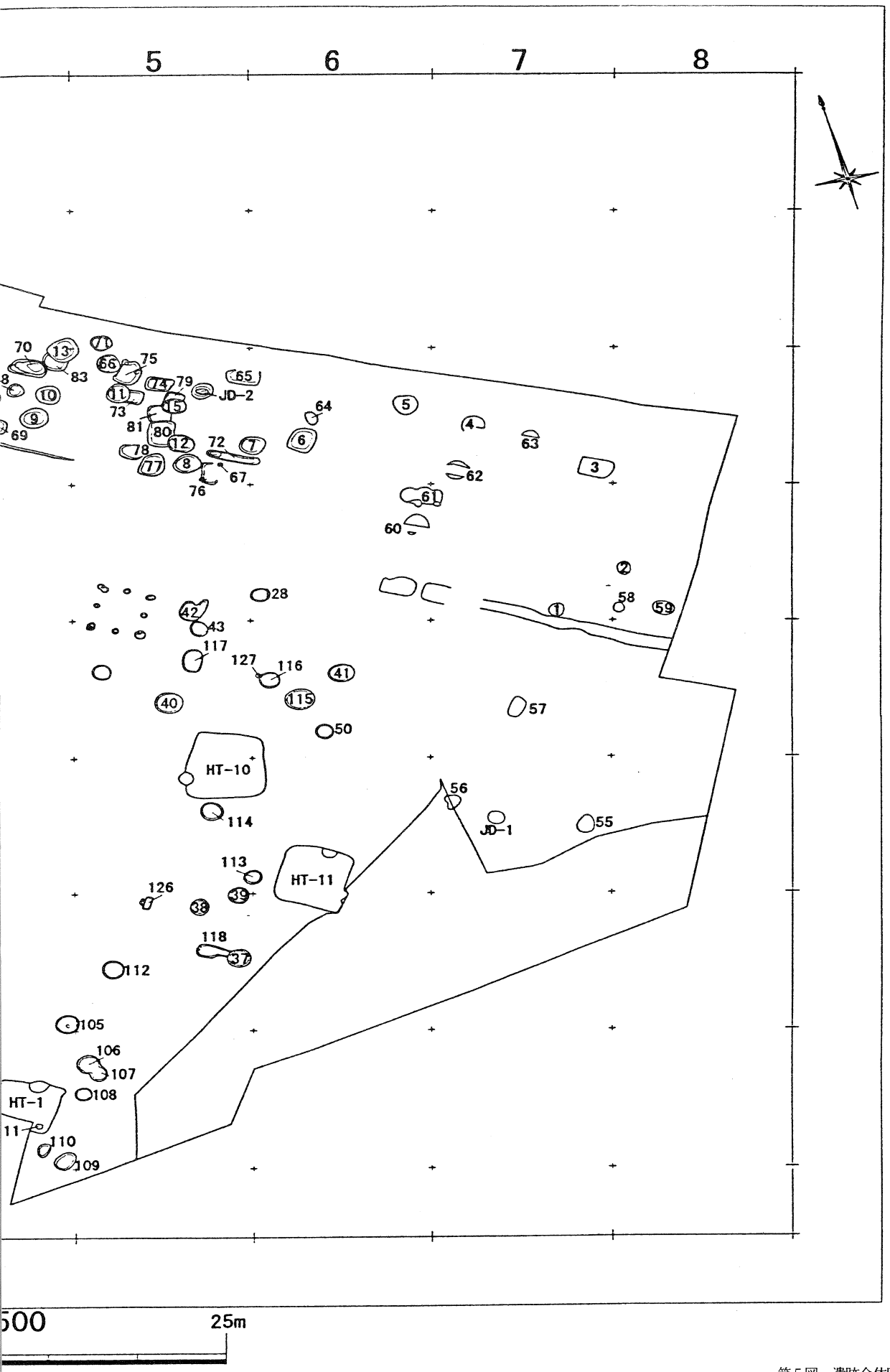


第４図　確認調査出土遺物（３）

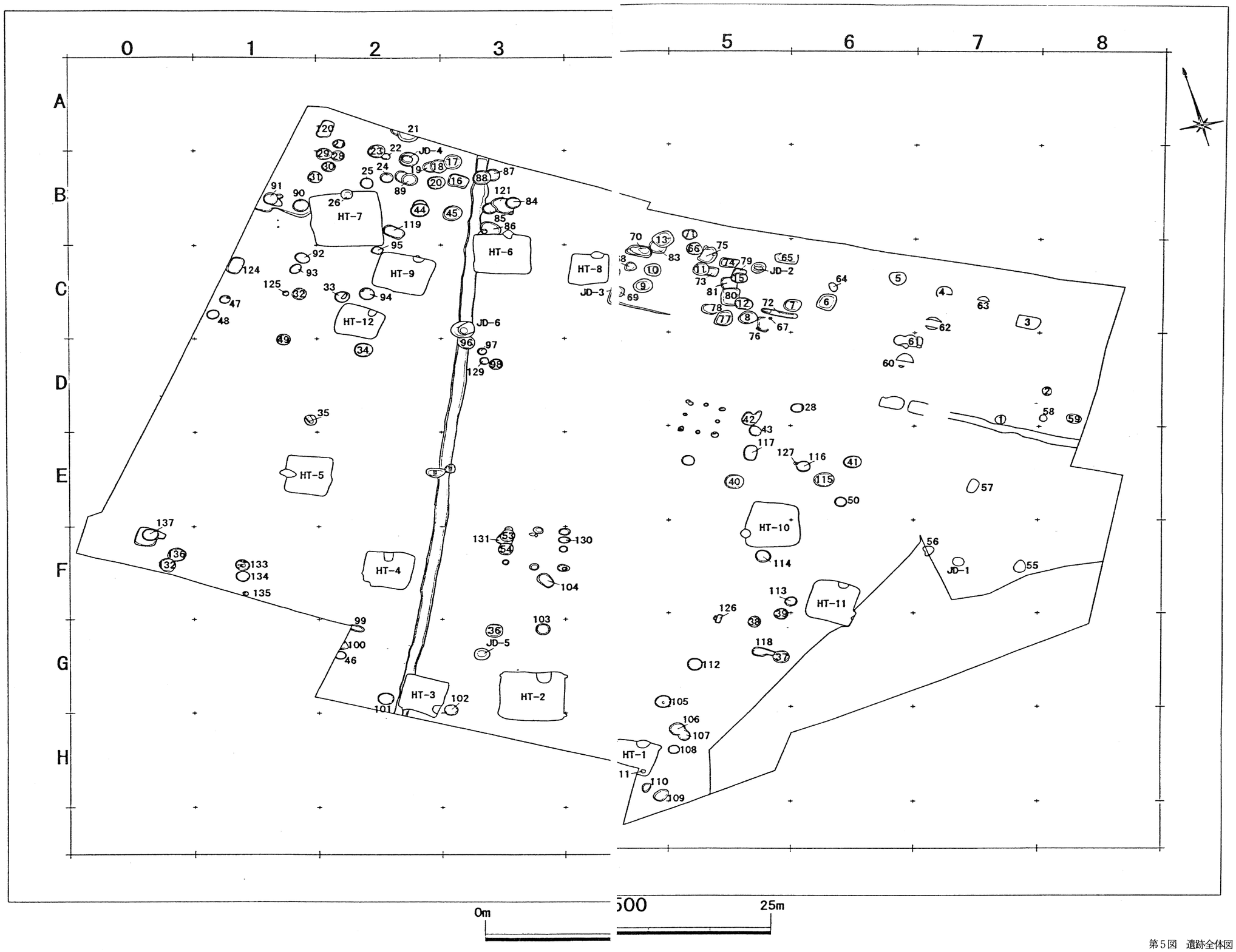
No.		器　種	器　形	備　考
1	試掘	須恵器	壺	
2	表採	縄文	深鉢	
3	表採	縄文	深鉢	
4	表採	縄文	深鉢	
5	表採	縄文	深鉢	
6	表採	縄文	深鉢	
7	表採	縄文	深鉢	
8	表採	黒曜石	鏃	
9	表採	黒曜石	鏃	
10	表採	石器		
11	表採	石器		
12	表採	弥生		
13	表採	弥生	深鉢	
14	表採	弥生	深鉢	
15	表採	土師器		切り込み痕
16	表採	須恵器	坏	
17	表採	須恵器		
18	表採	須恵器	壺	
19	表採	須恵器	壺	
20	表採	須恵器	壺	
21	表採	陶器		
22	表採	陶器		
23	表採	陶器		
24	表採	陶器		
25	表採	陶器		
26	表採	陶器		
27	表採	石製品		
28	表採	石製品		面取り

第２表　確認調査出土遺物


0
1
2
3
A
B
C
D
E
F
G
H
HT-7
HT-6
HT-8
HT-9
HT-12
HT-5
HT-4
HT-3
HT-2
JD-4
JD-3
JD-6
JD-5
21
22
23
24
25
26
87
88
121
84
85
86
91
90
89
20
16
17
18
19
44
45
119
95
92
93
124
125
32
33
94
47
48
49
34
96
97
98
129
35
137
36
133
134
135
131
53
54
130
104
99
100
46
103
101
102
0m


5
6
7
8
70
13
71
66
75
83
74
79
65
JD-2
10
11
73
15
9
69
81
80
64
5
4
63
12
72
7
6
78
77
8
67
76
62
3
61
60
2
28
42
43
58
59
1
117
127
116
41
40
115
57
50
HT-10
56
114
JD-1
55
113
HT-11
126
39
38
118
37
112
105
106
107
108
HT-1
11
110
109
500
25m

第5図　遺跡全体図


0
1
2
3
5
6
7
8
A
B
C
D
E
F
G
H
HT-1
HT-2
HT-3
HT-4
HT-5
HT-6
HT-7
HT-8
HT-9
HT-10
HT-11
HT-12
JD-1
JD-2
JD-3
JD-4
JD-5
JD-6
0m
25m

第5図　遺跡全体図

遺跡と遺物

縄文時代

土　坑（第６・７図，図版６）

ＪＤ－１

遺跡

本跡はＦ－７区に位置する。直径は約0.9m、深さは約0.8m。底面の９ヵ所に直径４㎝程の穴がさらにある。

遺物

１，２は縄文土器の深鉢片。

ＪＤ－２

遺跡

本跡はＣ－５区に位置する。直径は約1.2m、深さは約１m。底面の３ヵ所に直径８㎝程の穴がさらにある。

ＪＤ－３

遺跡

本跡はＣ－４区に位置する。直径は約１m、深さは約1.1m。底面の１ヵ所に直径８㎝程の穴がさらにある。

ＪＤ－４

遺跡

本跡はＢ－２区に位置する。直径は約1.5m、深さは約１m。

ＪＤ－５

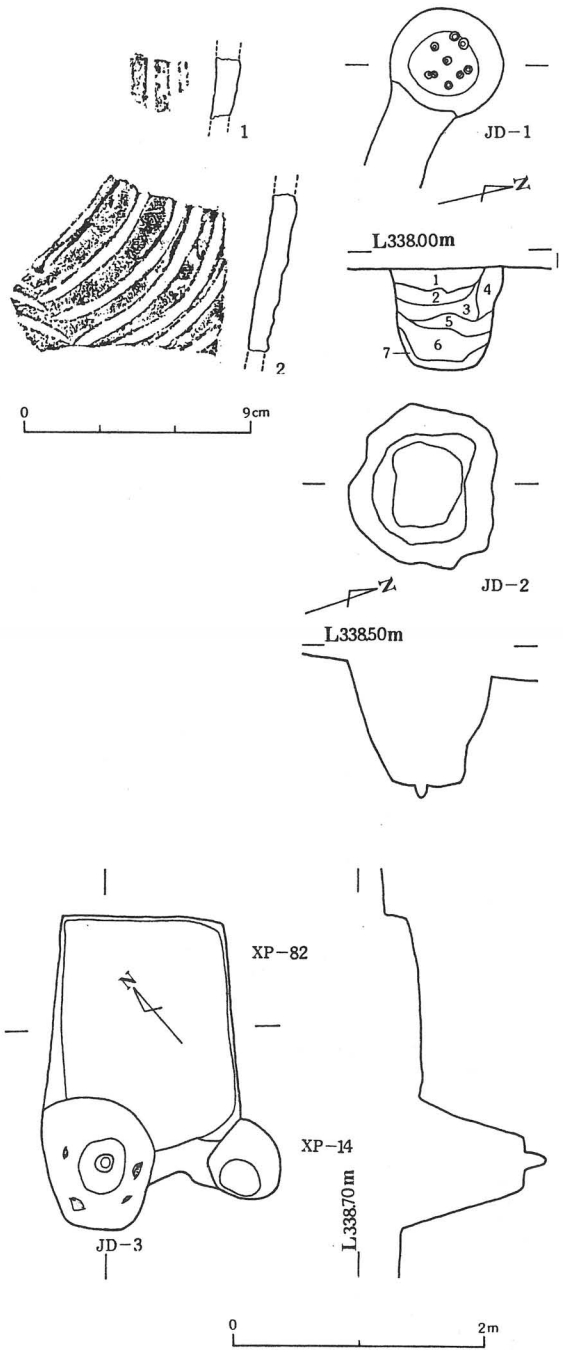
遺跡

本跡はＧ－３区に位置する。直径は約1.2m、深さは約0.9m。

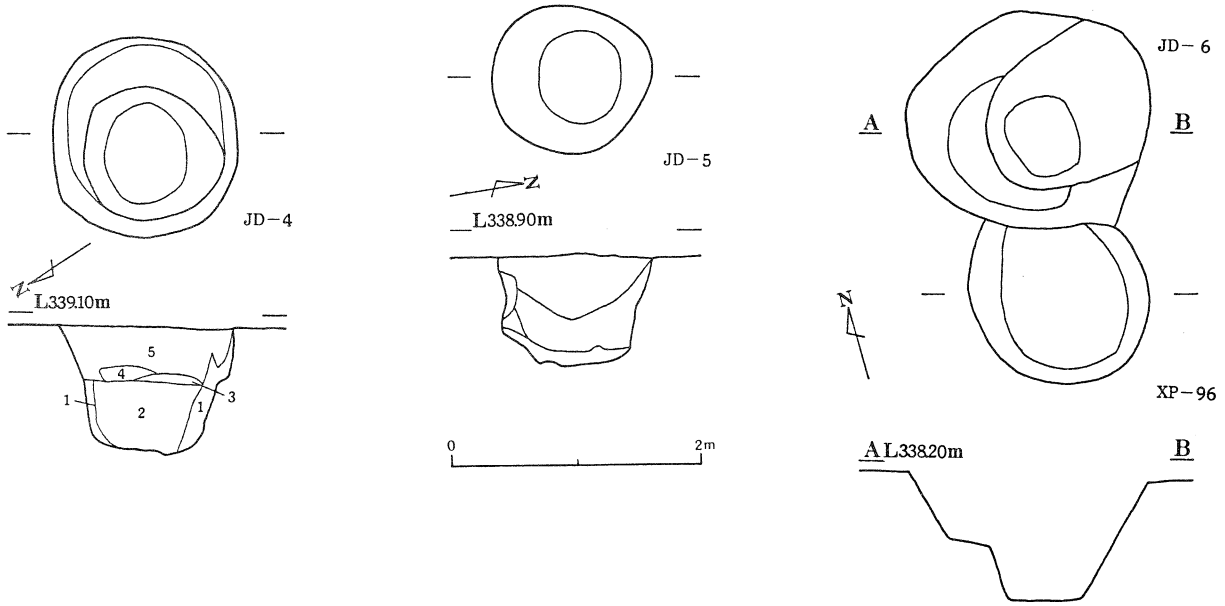
ＪＤ－６

遺跡

本跡はＣ－３区に位置する。直径は約1.2m、深さは約1.2m。



第６図　土坑（１）



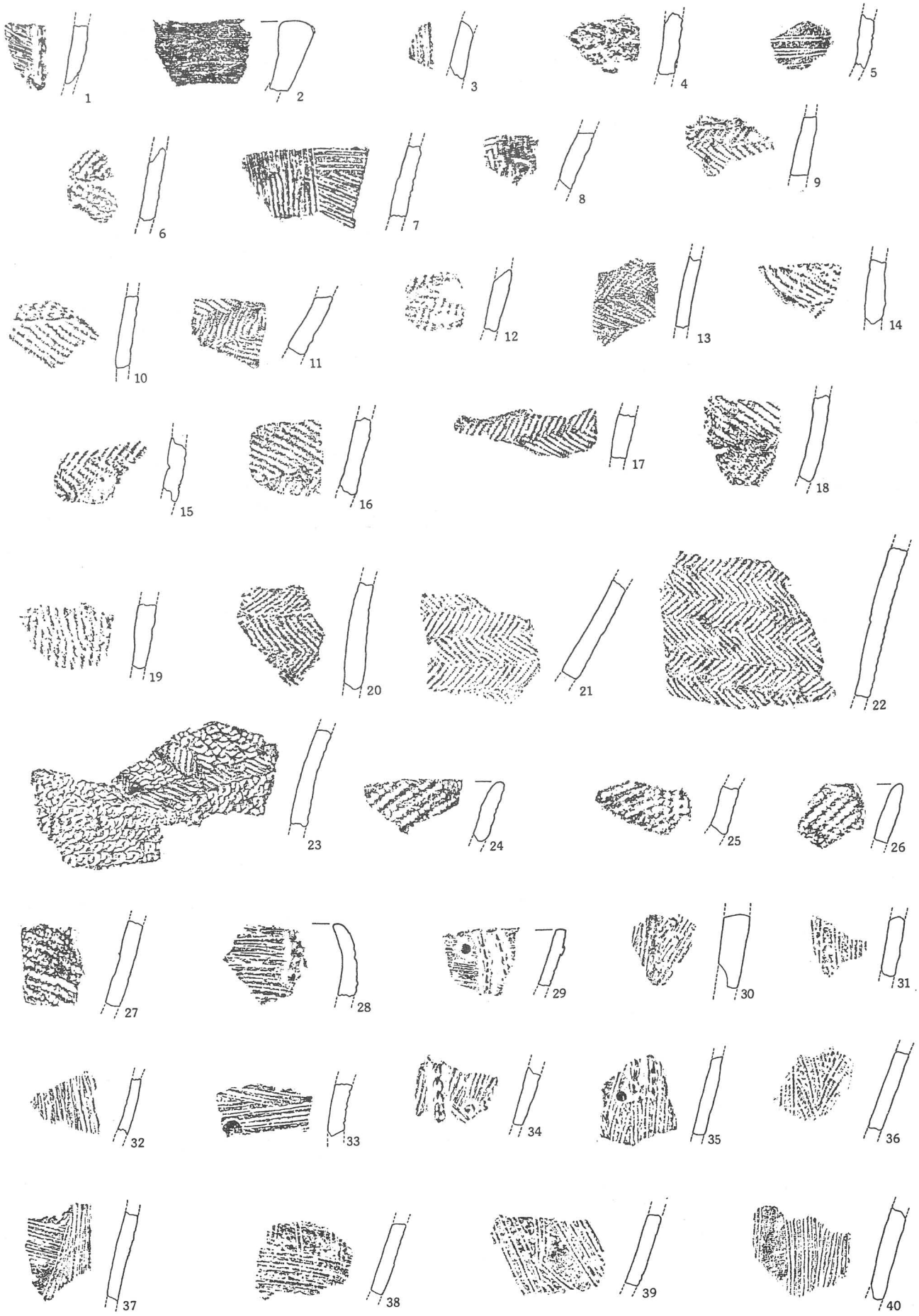
第7図　土坑（2）

調査区内出土遺物（第8～12図，第3表，図版31～33）

No.	グリット	器　種	器　形	備　考
1	C-1	縄文土器	深鉢	
2	E-6	〃	深鉢	
3	A-2	〃	深鉢	
4	A-2	〃	深鉢	
5	C-1	〃	深鉢	
6	C-1	〃	深鉢	
7	E-6	〃	深鉢	
8	E-0	〃	深鉢	
9	C-1	〃	深鉢	
10	C-1	〃	深鉢	
11	D-2	〃	深鉢	
12	C-2	〃	深鉢	
13	D-0	〃	深鉢	
14	C-1	〃	深鉢	
15	E-0	〃	深鉢	
16	F-0	〃	深鉢	
17	C-1	〃	深鉢	
18	B-1	〃	深鉢	
19	C-1	〃	深鉢	
20	C-2	〃	深鉢	
21	D-3	〃	深鉢	
22	C-1	〃	深鉢	
23	B-2、C-1	〃	深鉢	
24	G-3	〃	深鉢	
25	E-4	〃	深鉢	
26	G-3	〃	深鉢	
27	G-3	〃	深鉢	

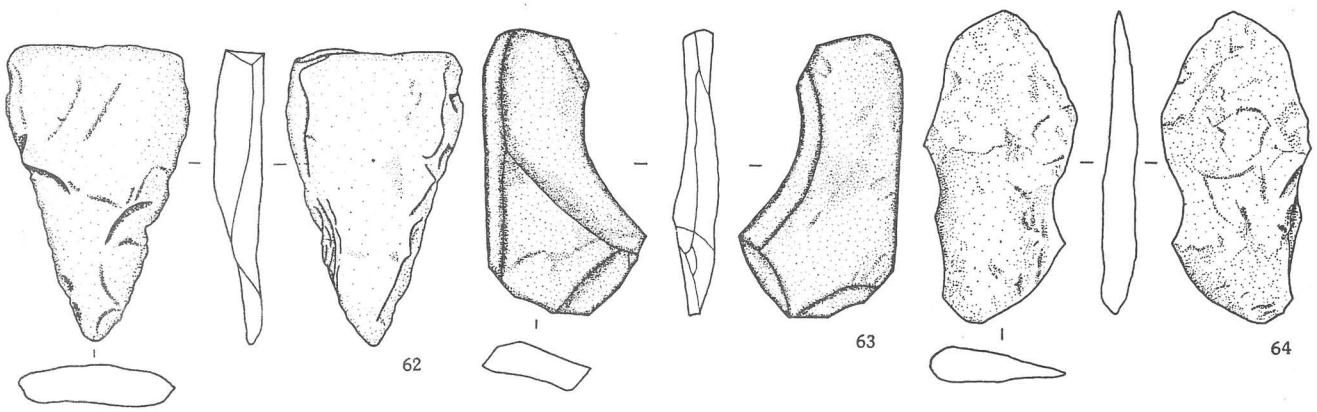
No.	グリット	〃	器　形	備　考
28	B-2	〃	深鉢	
29	C-2	〃	深鉢	
30	D-2	〃	深鉢	
31	C-2	〃	深鉢	
32	B-1	〃	深鉢	
33	A-2	〃	深鉢	
34	C-3	〃	深鉢	
35	C-1	〃	深鉢	
36	C-2	〃	深鉢	
37	C-1	〃	深鉢	
38	C-2	〃	深鉢	
39	C-2	〃	深鉢	
40	B-2	〃	深鉢	
41	B-2	〃	深鉢	
42	D-1	〃	深鉢	
43	D-1	〃	深鉢	
44	C-1	〃	深鉢	
45	C-1	〃	深鉢	
46	E-2	〃	深鉢	
47	C-3	〃	深鉢	
48	E-1	〃	深鉢	
49	D-4	〃	深鉢	
50	D-3	〃	深鉢	
51	G-3	〃	深鉢	
52	C-1	〃	深鉢	
53	E-0	〃	深鉢	
54	F-0	〃	深鉢	
55	E-2	〃	深鉢	
56	A-2	〃	深鉢	
57	C-1	土偶		
58	F-0	石器		
59	B-2	〃	石鏃	
60	E-4	〃	石鏃	
61	B-2	〃	石鏃	
62	F-5	〃		
63	E-3	〃		
64	D-4	〃	石斧	
65	G-3	〃		
66	F-2	〃		
67	C-2	〃		
68	D-1	〃		
69	F-2	〃		
70	E-3	〃		
71	D-3	〃		
72		〃		
73		〃		

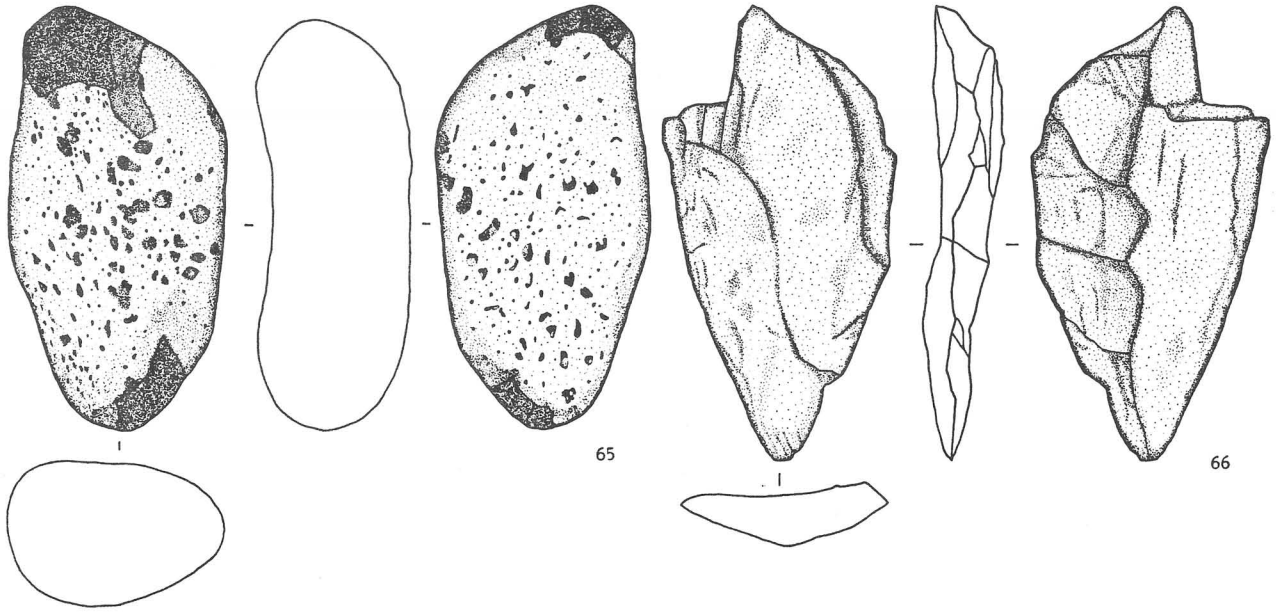
第３表　縄文時代調査区内出土遺物

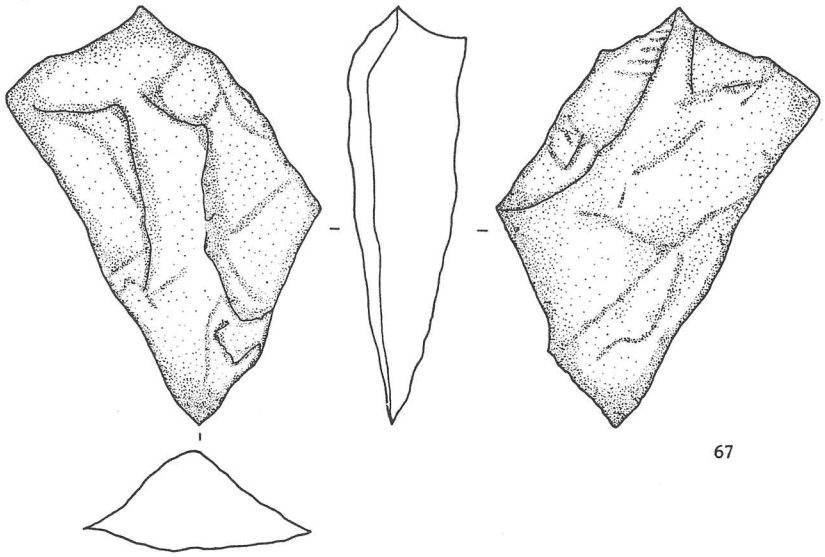


第８図　調査区内出土遺物（１）

第９図　調査区内出土遺物（２）

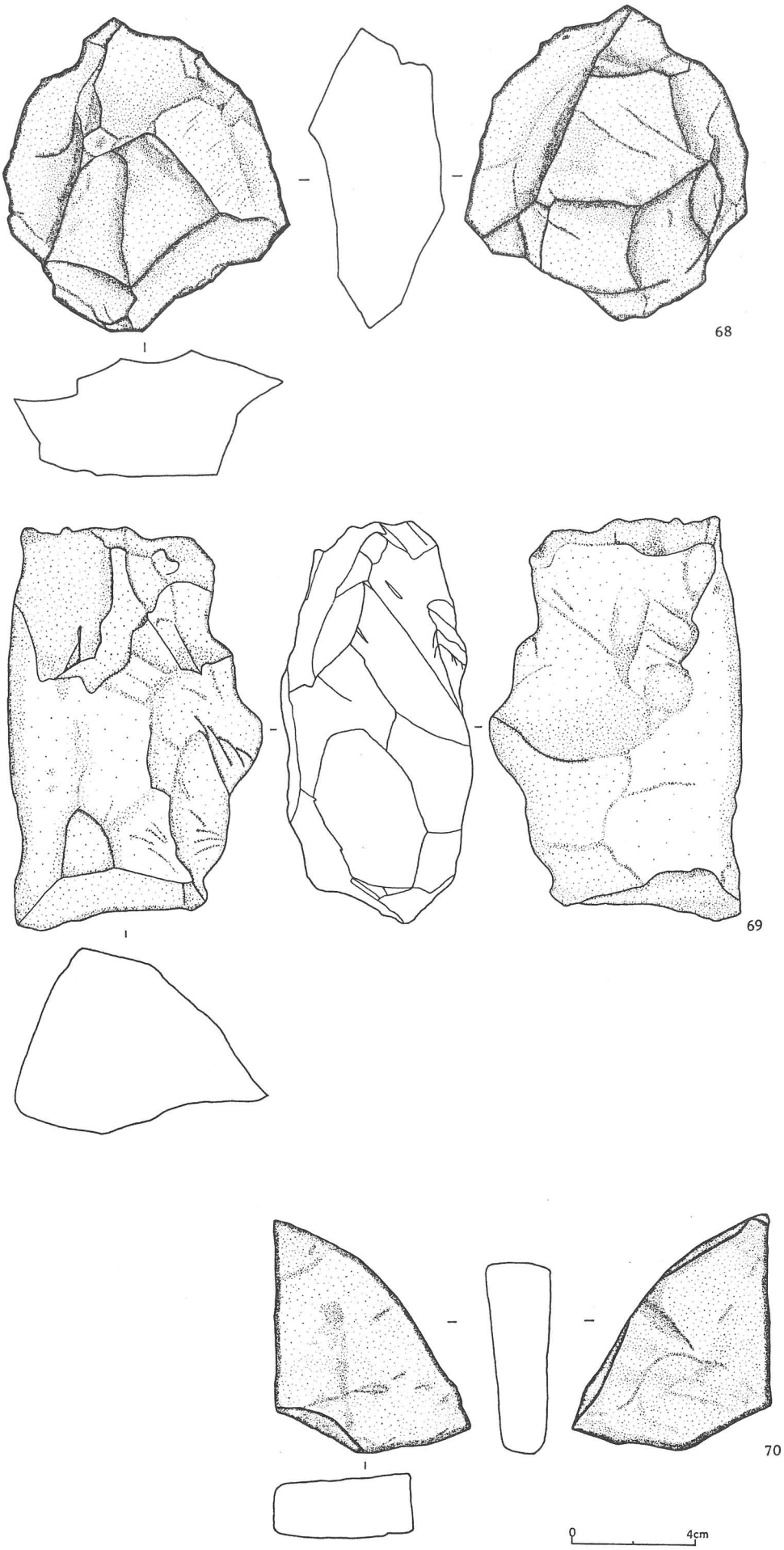




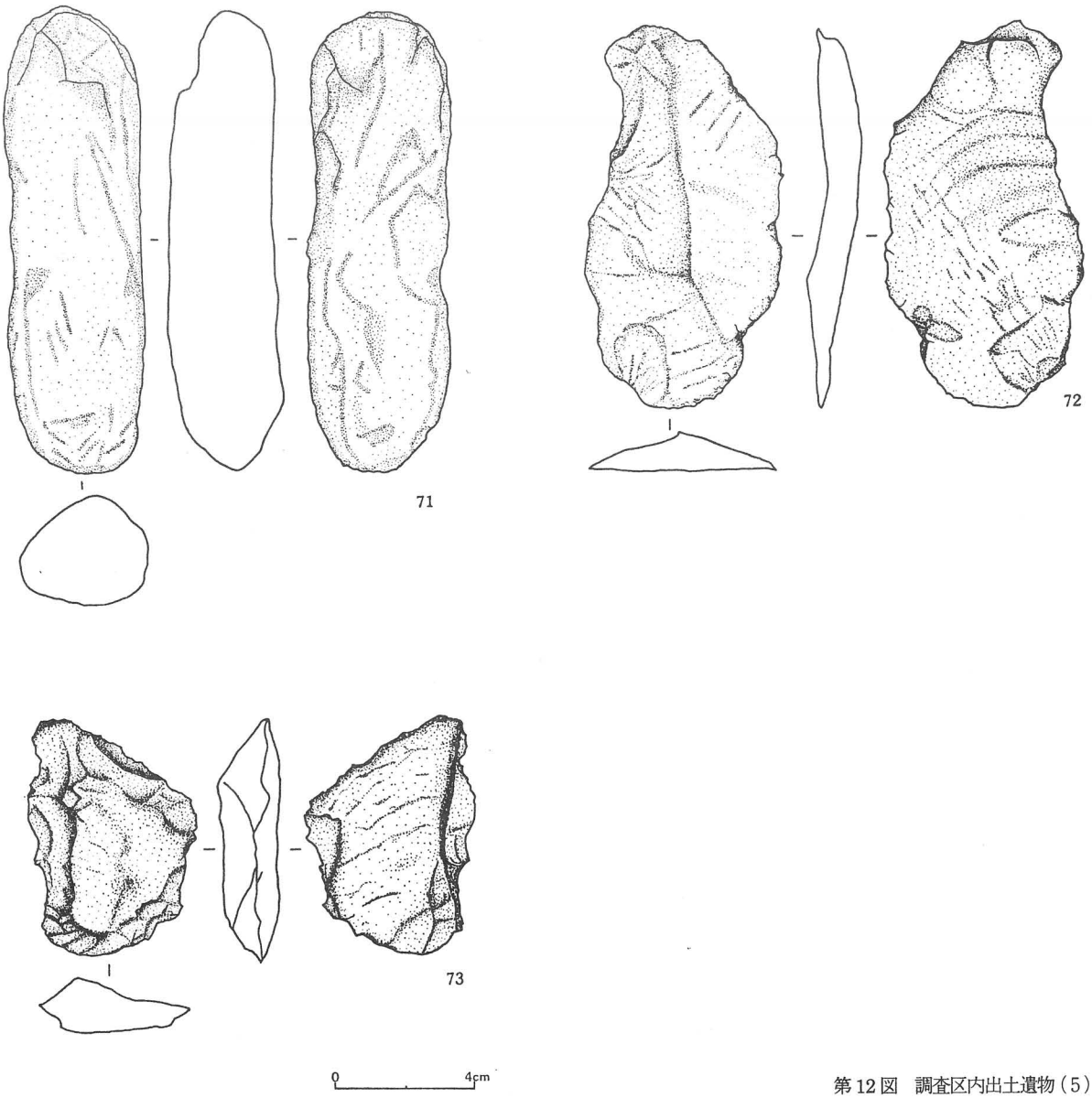


0 4cm

第10図　調査区内出土遺物（3）



第11図　調査区内出土遺物（4）



第12図　調査区内出土遺物（5）

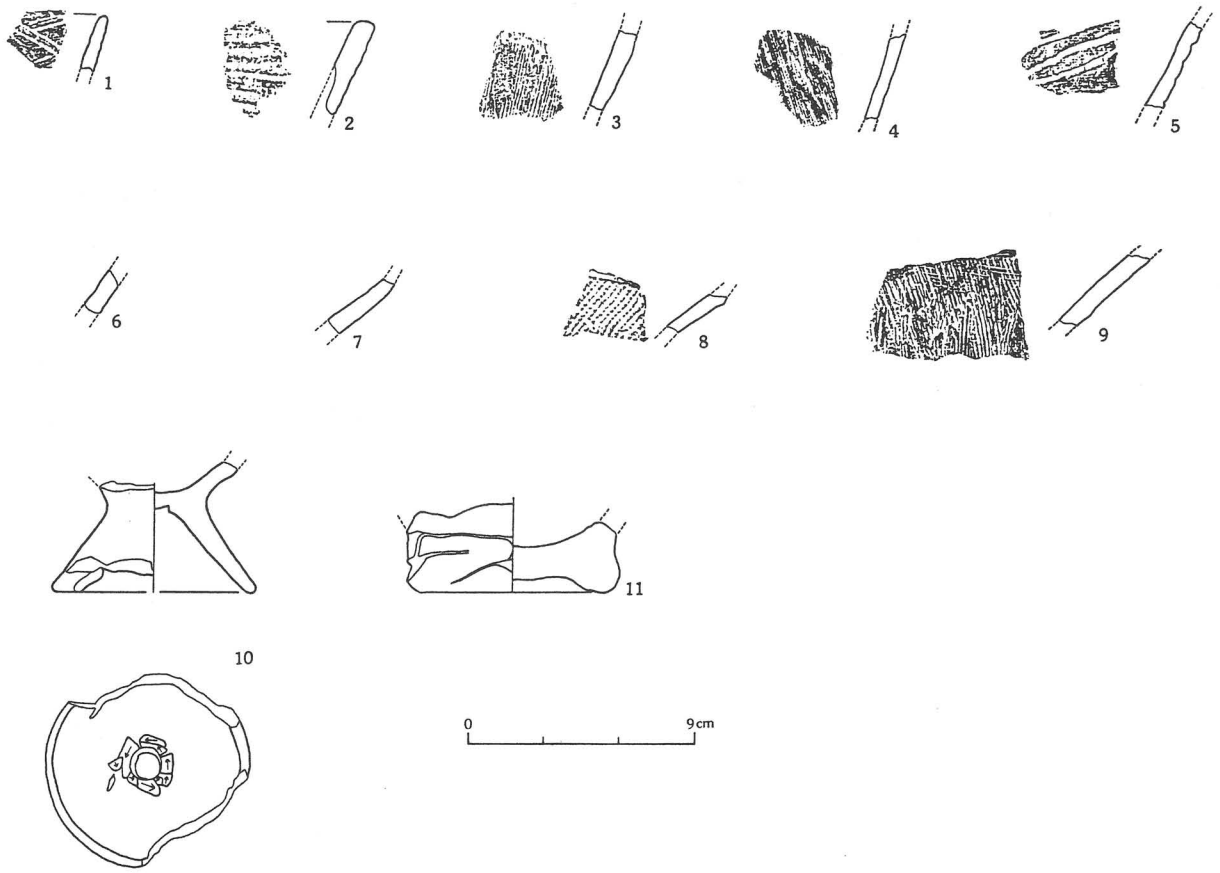
弥生時代

調査区内出土遺物（第13図，第4表，図版34）

これまで大月市内では、弥生時代の遺跡がほとんど調査されておらず、分布調査などでその存在は言われて来たものの実際に遺物を採取した事で、遺跡は確認できなかったが当地における弥生時代を垣間見る事が出来た。

No.	グリット	器　形	備　考
1	B-2		
2	C-1		
3	D-4		
4	D-1		
5	C-1		
6	HT-7		
7	HT-7		
8	HT-7		
9	D-3		
10	D-1	台付甕	
11	C-2	甕	底部

第4表　弥生時代調査区内出土遺物



第13図　調査区内出土遺物

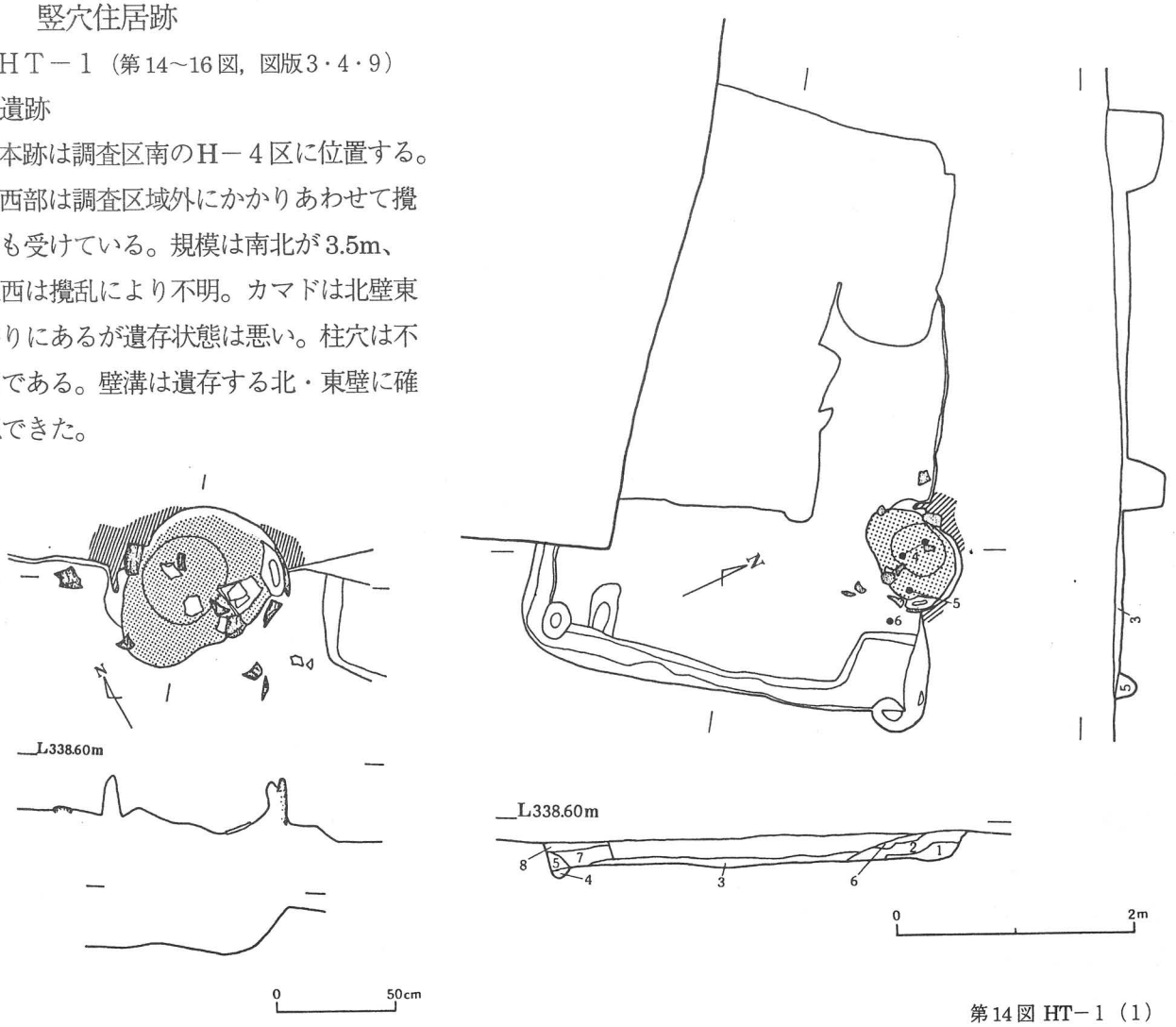
歴史時代

竪穴住居跡

ＨＴ－１（第14～16図，図版3・4・9）

遺跡

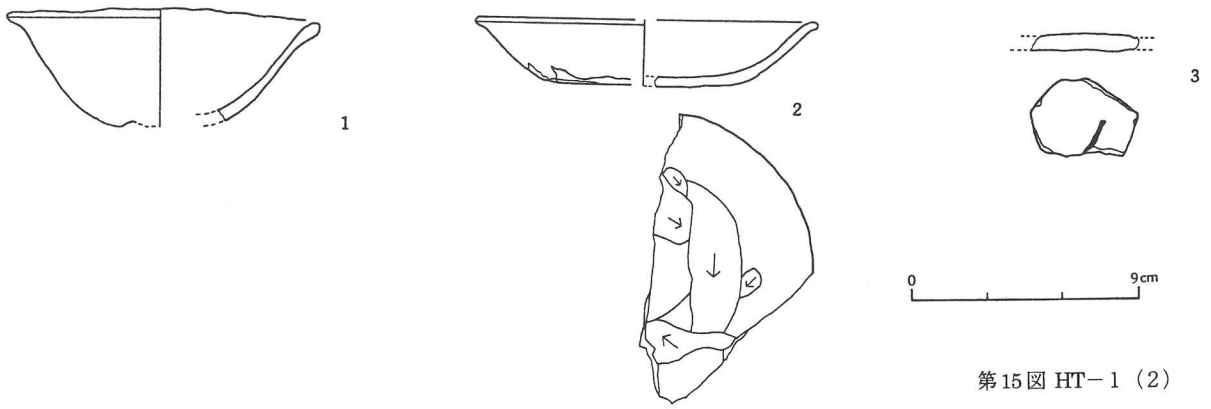
本跡は調査区南のＨ－４区に位置する。南西部は調査区域外にかかりあわせて攪乱も受けている。規模は南北が3.5m、東西は攪乱により不明。カマドは北壁東寄りにあるが遺存状態は悪い。柱穴は不明である。壁溝は遺存する北・東壁に確認できた。



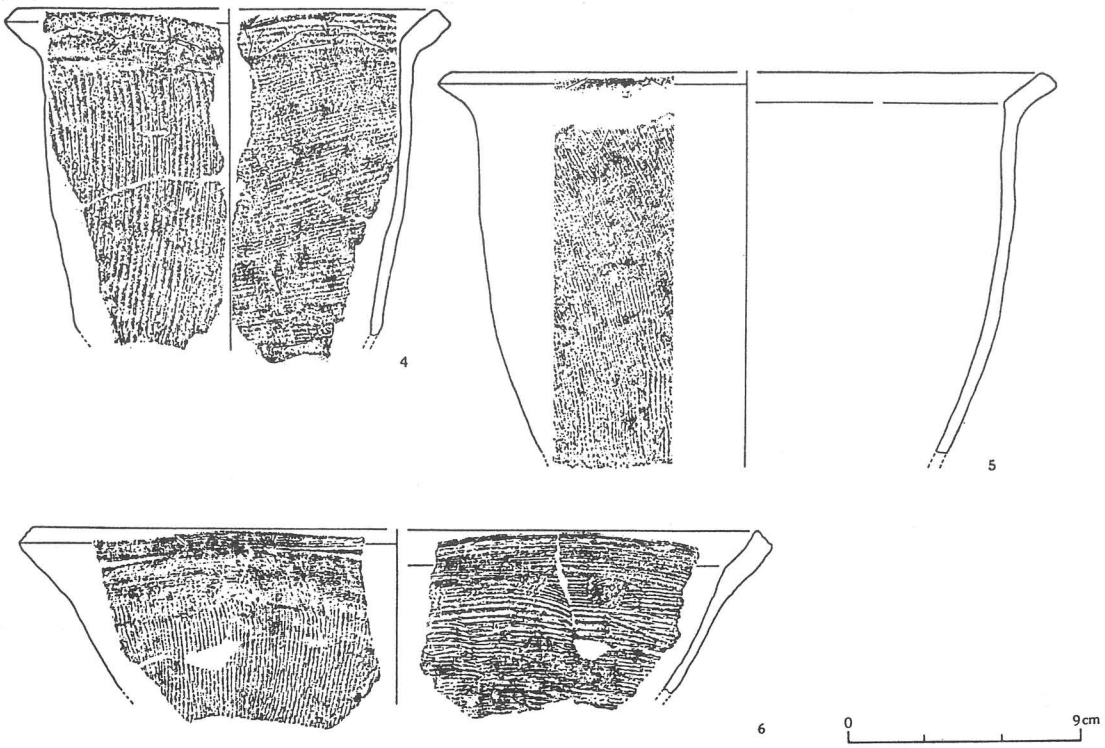
第14図 HT－１（1）

遺物

１～６は土師器で、１が坏、２は皿、４、５は甕、６は鉢である。１は体部外面下半に手持ちヘラ削り、口縁部は玉縁仕上げ。２は体部外面下半が手持ちヘラ削りで、底部は全面ヘラ削りされている。口縁部は玉縁仕上げ。４は体部外面に縦はけめ、内面は横なで仕上げ。口縁は厚口縁。５は体部外面に縦ハケ目、口縁は薄口縁。



第15図 HT－１（2）



第16図 HT－1（3）

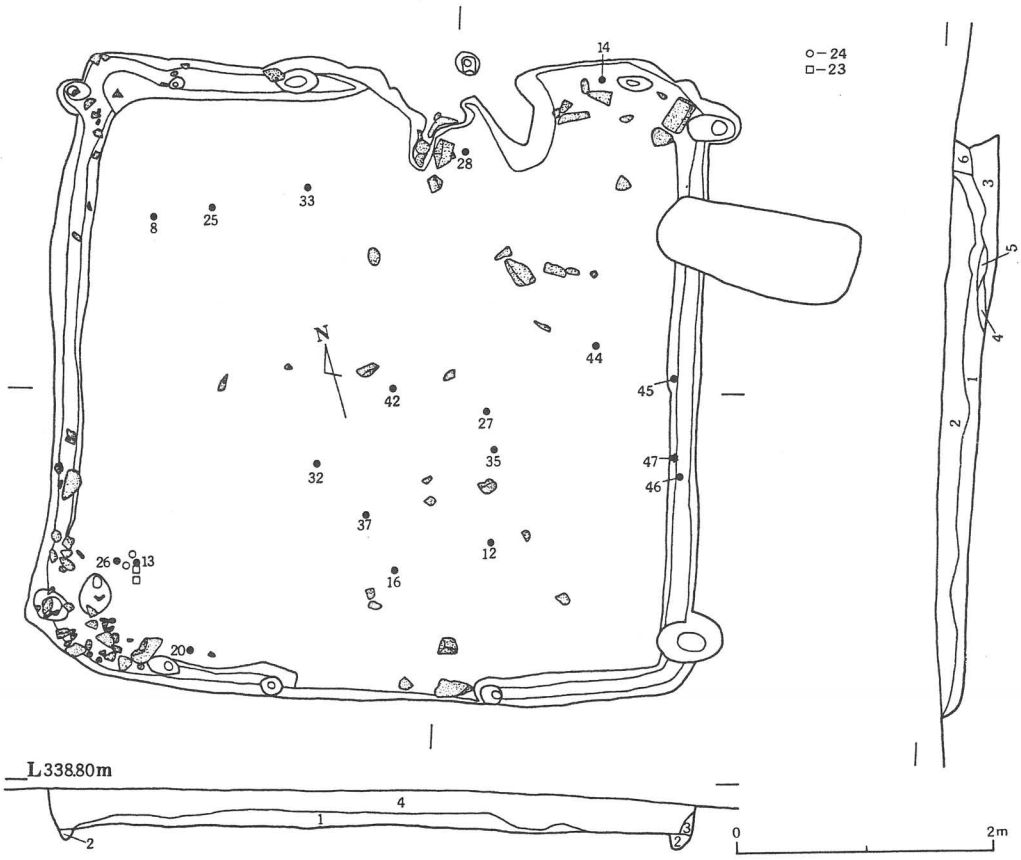
ＨＴ－２（第17～21図，図版３・４・10～12）

遺跡

本跡は調査区南のＧ－３、Ｈ－３区に位置する。南北は5m、東西は5.1m。カマドは北壁ほぼ中央にあり、煙道部などの遺存がよい。柱穴は東・西壁の隅に近い外側にある。壁溝は南西部の柱穴付近と南壁中央部分、そして北壁東部分を除いて作られている。北壁東側、カマド脇には12cmほどの掘り込みがあり、粘土で埋まっていた。

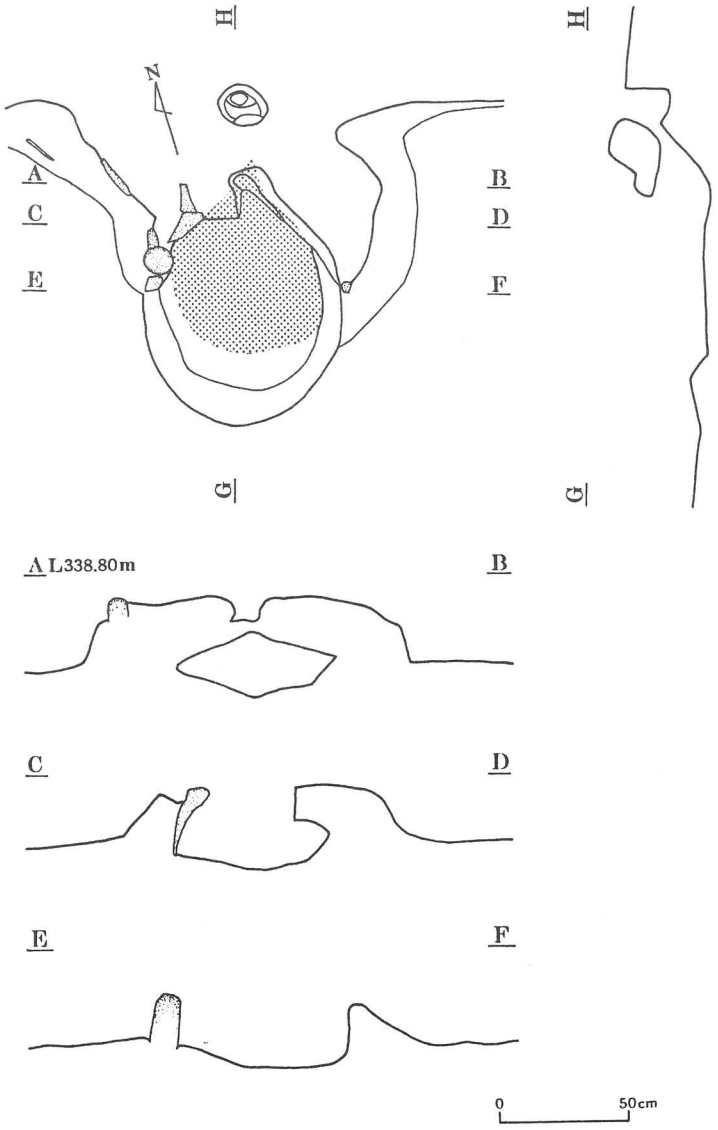
遺物

１～35はともに土師器で、１～８、10～14が坏、９、15～28は皿、29～35が甕である。36～46は須恵器で、36が坏、37が高台坏、38、41～46が壷である。47は鉄鏃。１は内

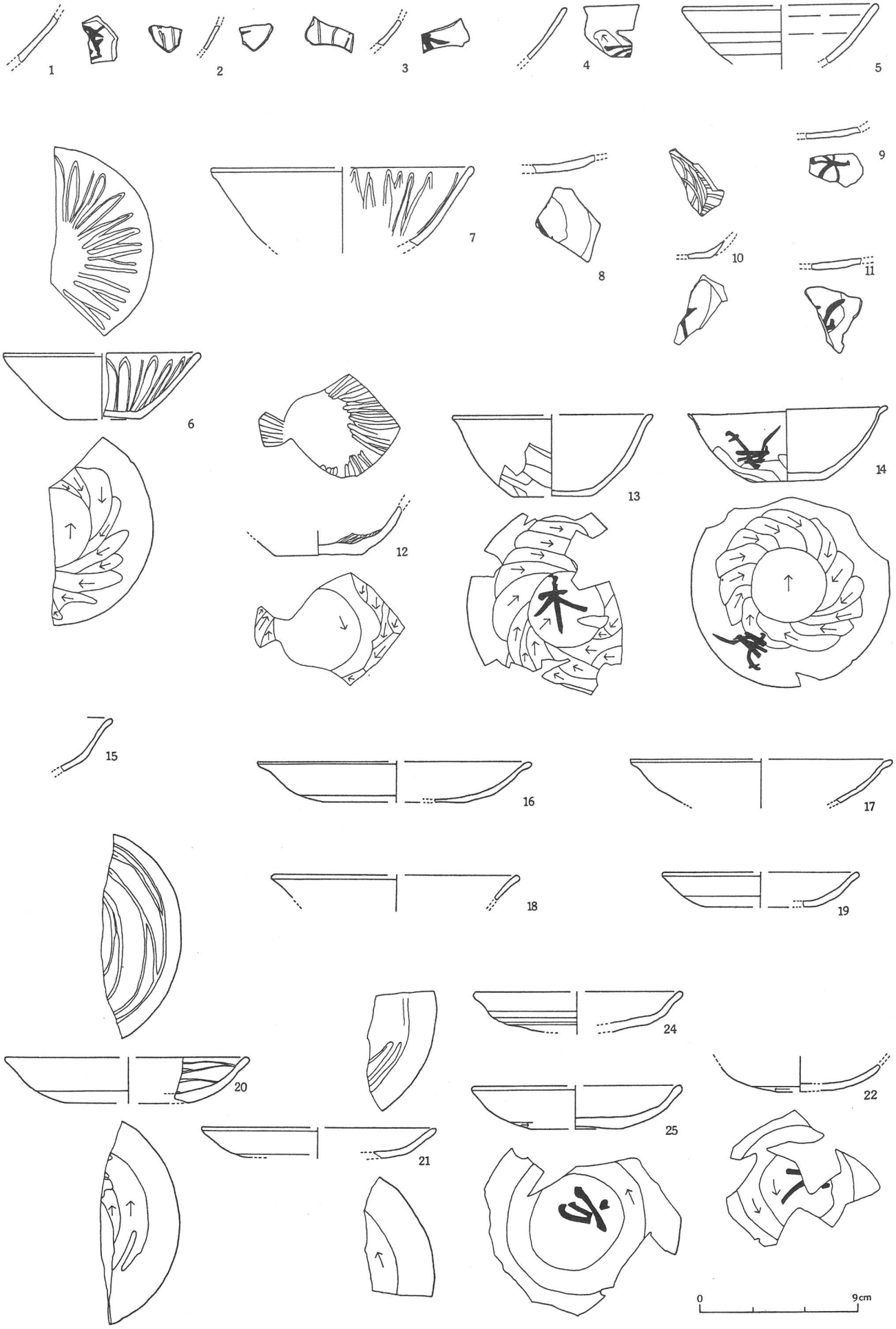


第17図 HT－2（1）

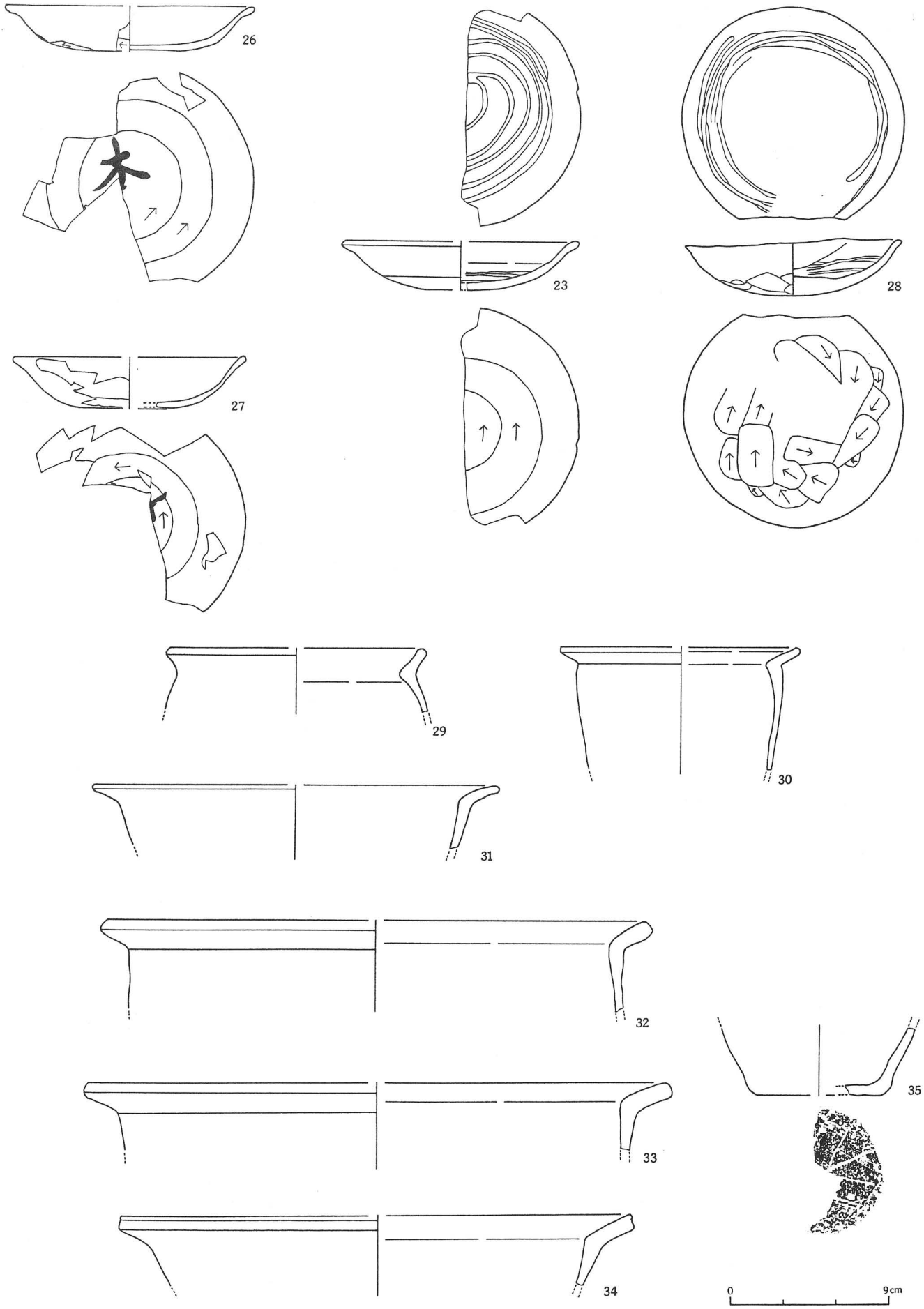
面黒色処理で暗文が施されている。体部に墨書「□」。2、3も内面に暗文が施されており、それぞれ体部に墨書「□」がある。4は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、内面は暗文が施されている。体部に墨書「□」。5は体部外面下半に手持ちヘラ削り。6は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、内面は暗文が施されている。底部はヘラ削り。口縁は玉縁仕上げ。7は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、内面黒色処理で暗文が施されている。口縁は玉縁仕上げ。8は底部外周ヘラ削り後底部ヘラ削り。底部に墨書「□」。9は底部外周ヘラ削り後底部ヘラ削り。底部に墨書「木」。10は体部外面下半に回転ヘラ削り、内面は黒色処理で、みこみ部、体部とも暗文が施されている。底部はヘラ削り仕上げで、墨書「□」。11は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、底部はヘラ削り仕上げで、墨書「木？」。12は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、内面は暗文が施されている。底部は糸きり後外周をヘラ削りしている。13、14は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、底部はヘラ削りで口縁は玉縁仕上げ。それぞれ墨書があり、13は底部に「木」。14は体部外面の口縁付近に「□」。15は体部外面下半に回転ヘラ削り、口縁は玉縁仕上げ。16は体部外面下半に回転ヘラ削り、底部ヘラ削り。17は体部外面下半に回転ヘラ削りで内面には暗文を施している。口縁は玉縁仕上げ。18は内面に暗文を施し、口縁は玉縁仕上げ。19は体部外面下半に回転ヘラ削りで内面には暗文を施している。20は体部外面下半に回転ヘラ削りで内面には暗文を施している。口縁は玉縁仕上げ。21は体部外面下半に回転ヘラ削りで内面には暗文を施している。22は体部外面下半に回転ヘラ削り。底部はヘラ削りで、墨書「木？」。23は体部外面下半に回転ヘラ削りで内面には暗文を施している。底部はヘラ削りで口縁は玉縁仕上げ。24は体部外面下半に回転ヘラ削り。底部はヘラ削りで口縁は玉縁仕上げ。25は体部外面下半に回転ヘラ削りで内面には暗文を施している。底部は糸きり後ヘラ削りで、墨書「方？」。26は体部外面下半に回転ヘラ削り。底部はヘラ削りで、墨書「木」。口縁は玉縁仕上げ。27は体部外面下半に回転ヘラ削り。底部はヘラ削りで、墨書「□」。28は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、内面は暗文が施されている。底部はヘラ削り仕上げ。29～35は体部外面に縦はけめ、内面は横なで仕上げで、29～32が薄口縁。33、34が厚口縁。35は底部に木葉痕。



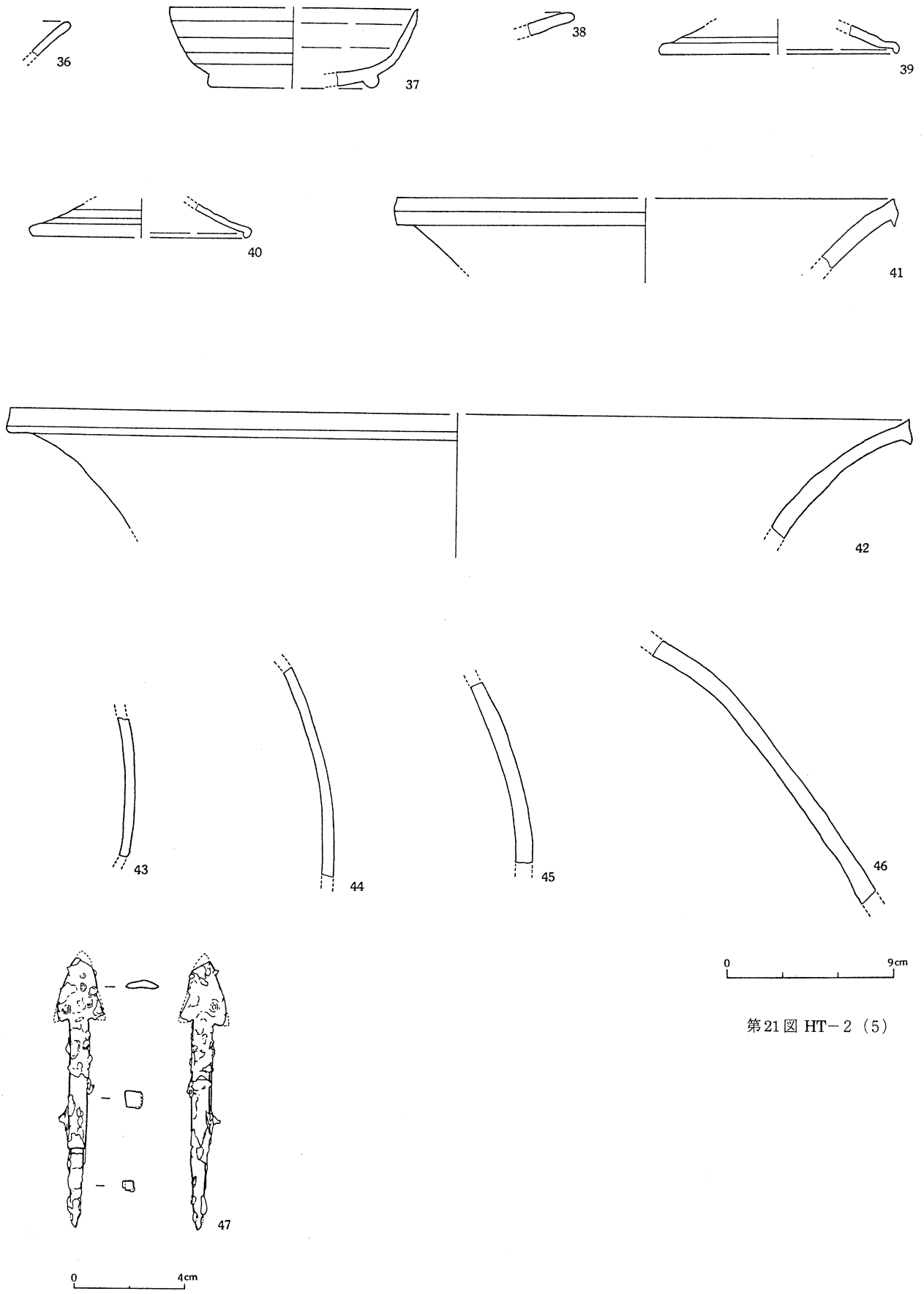
第18図 HT－2（2）



第19図 HT－2（3）



第20図 HT－2（4）



第21図 HT－2（5）

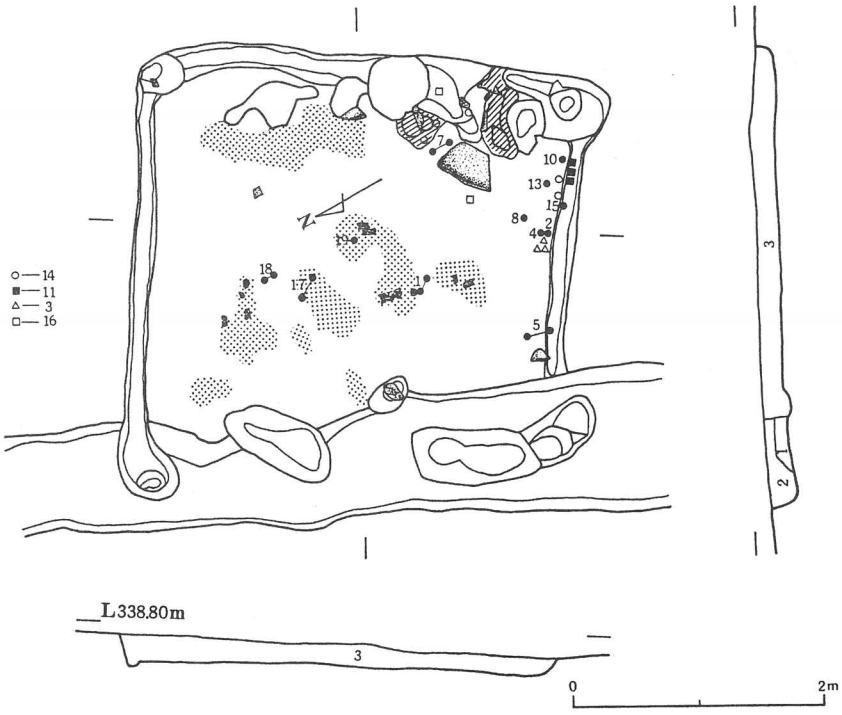
ＨＴ－３（第22～25図，図版３・４・13・14）

遺跡

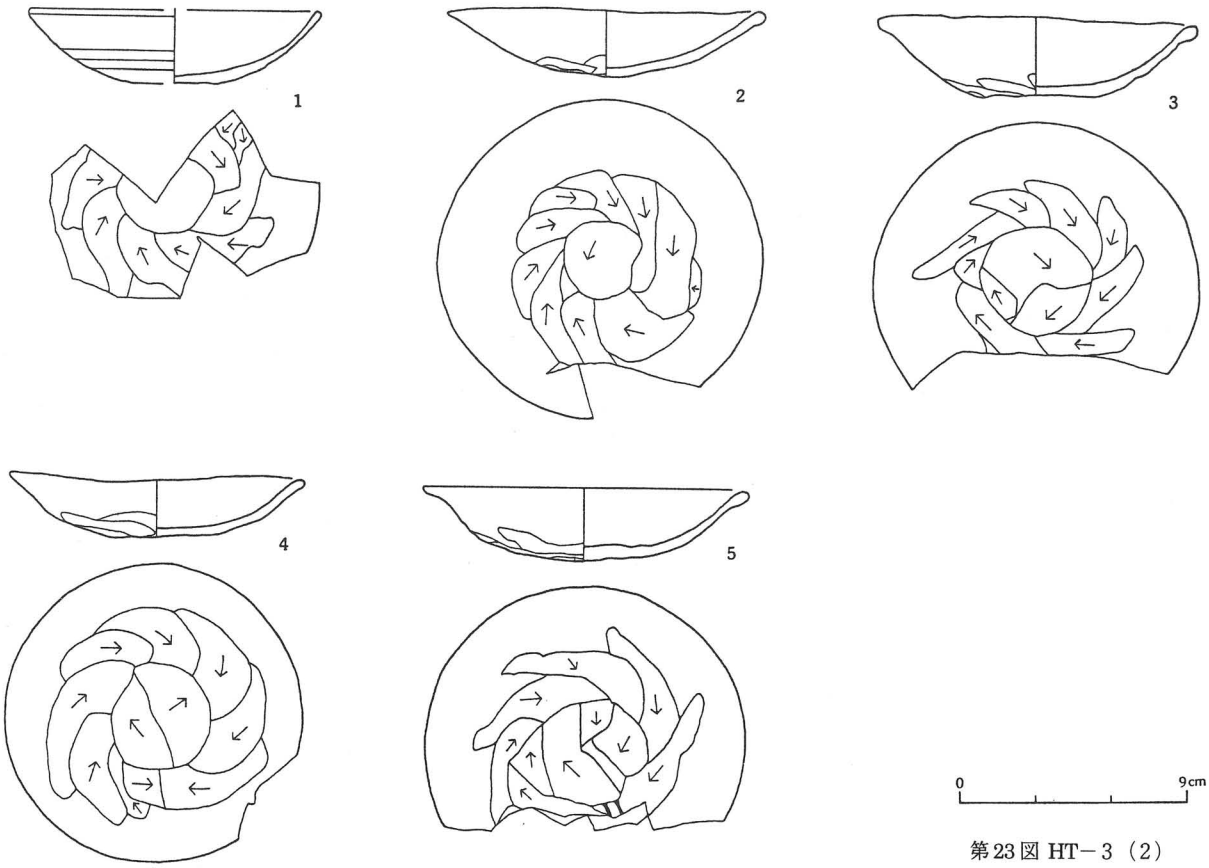
本跡は調査区南のＧ－２、Ｇ－３、Ｈ－２区に位置する。住居西側はＸＭ－１に切られている。規模は南北が3.6m、東西が3.4m。カマドは東壁南寄りにあるが、遺存状態は悪い。柱穴は四隅の壁溝内にある。壁溝は遺存する南北壁及び東壁で確認できた。貼床。火災家屋である。

遺物

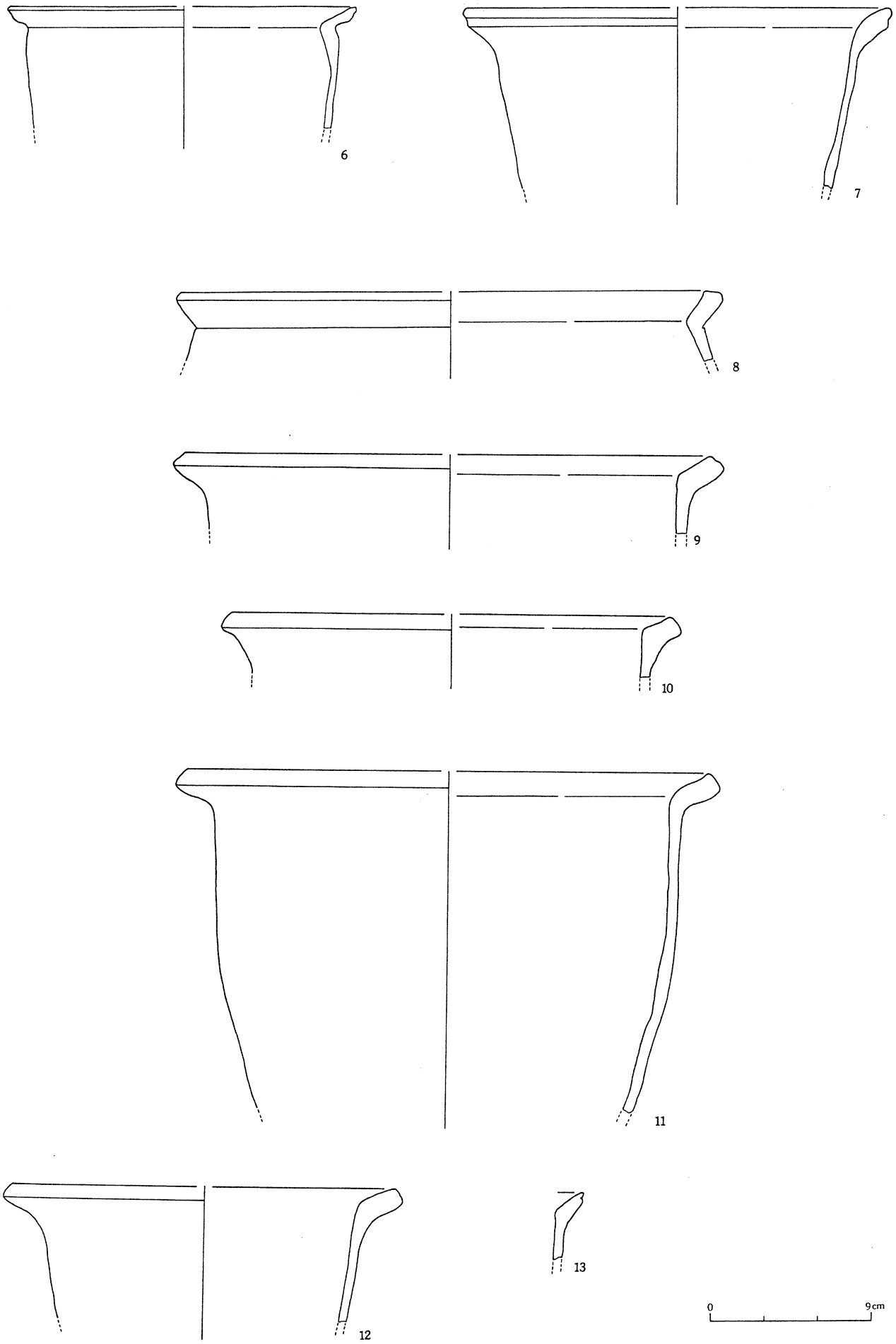
１～17は土師器で、１～５が皿、６～17は甕である。18、19は須恵器の壷である。１～５は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、底部はヘラ削り。口縁は玉縁仕上げ。６～17は体部外面に縦はけめ、内面は横なで仕上げで、６、17が薄口縁。８，９、11、12が厚口縁。７、10、13、14、16は末広口縁。15,16は底部に木葉痕。18には自然釉。



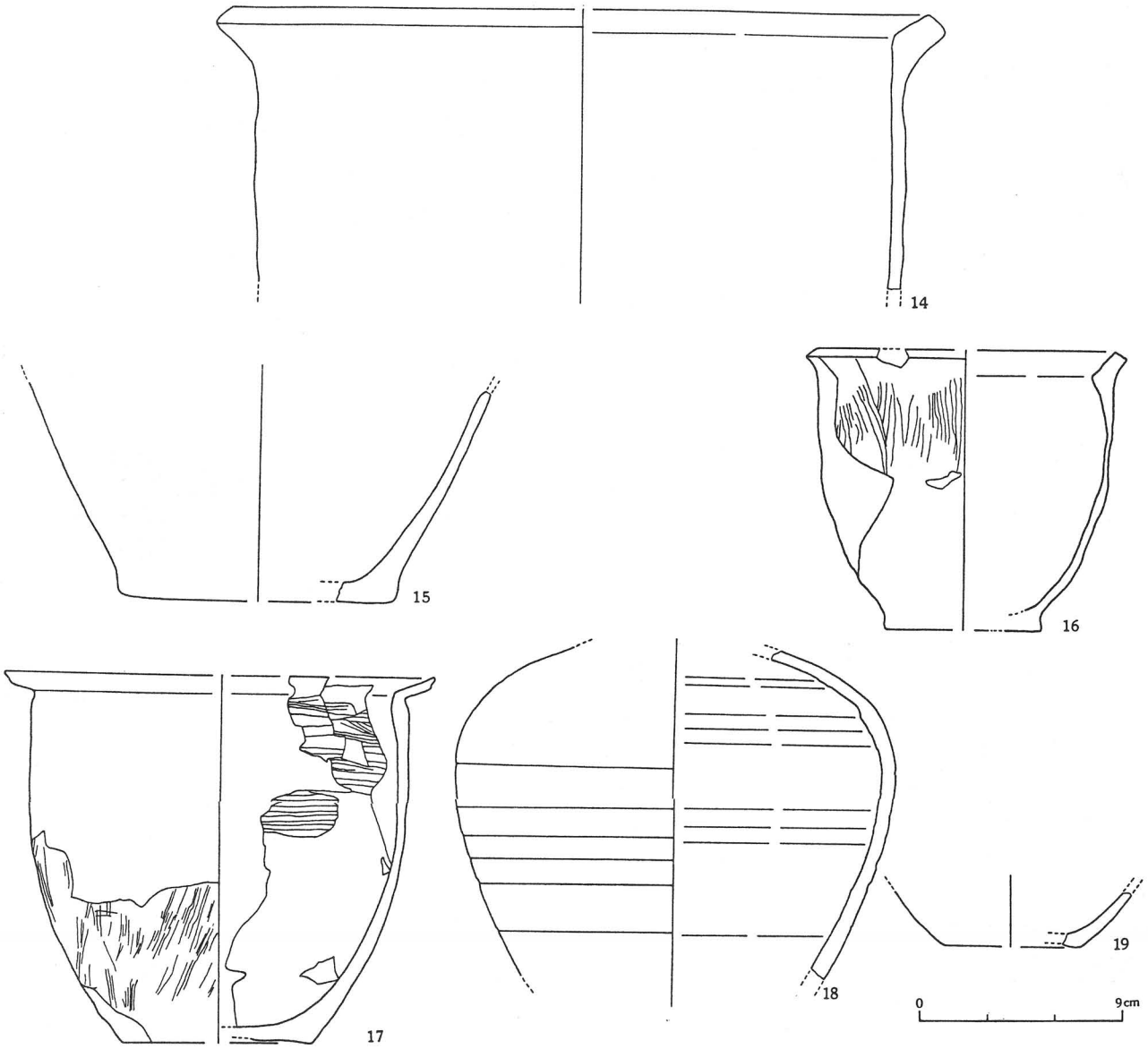
第22図 HT－３（１）



第23図 HT－３（２）



第24図 HT－3（3）



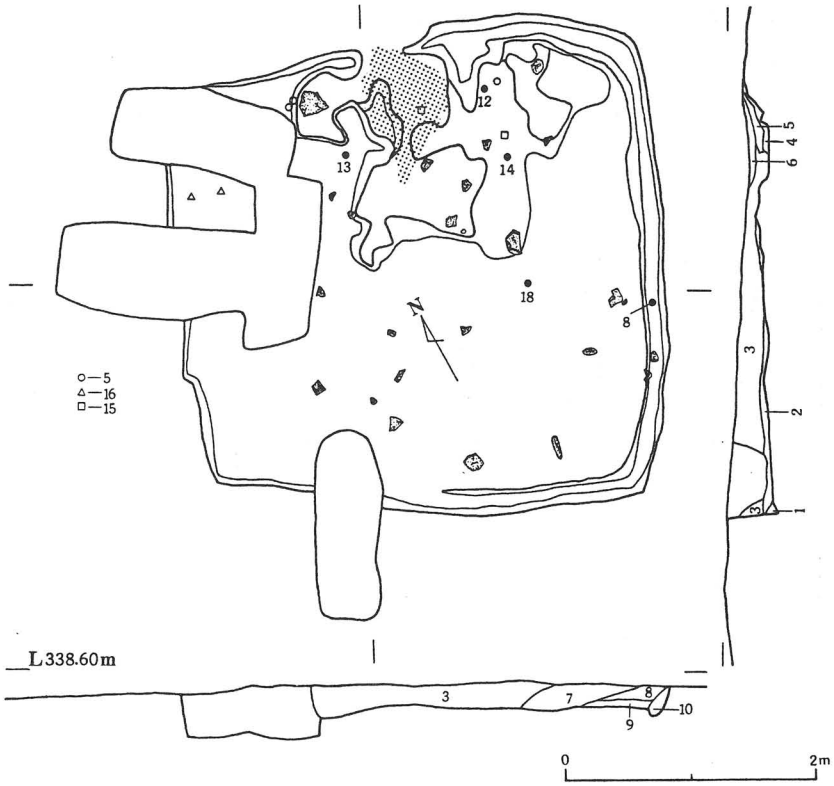
ＨＴ－４（第26～28図，図版3・4・15・16）

遺跡

本跡は調査区南西のＦ－２区に位置する。南・西壁の一部は攪乱を受けている。規模は南北が3.5m、東西が3.9m。カマドは北壁中央にあるが遺存状態は悪い。柱穴は不明である。壁溝は北壁カマド脇から東壁をまわり南壁の中央付近まで確認できた。

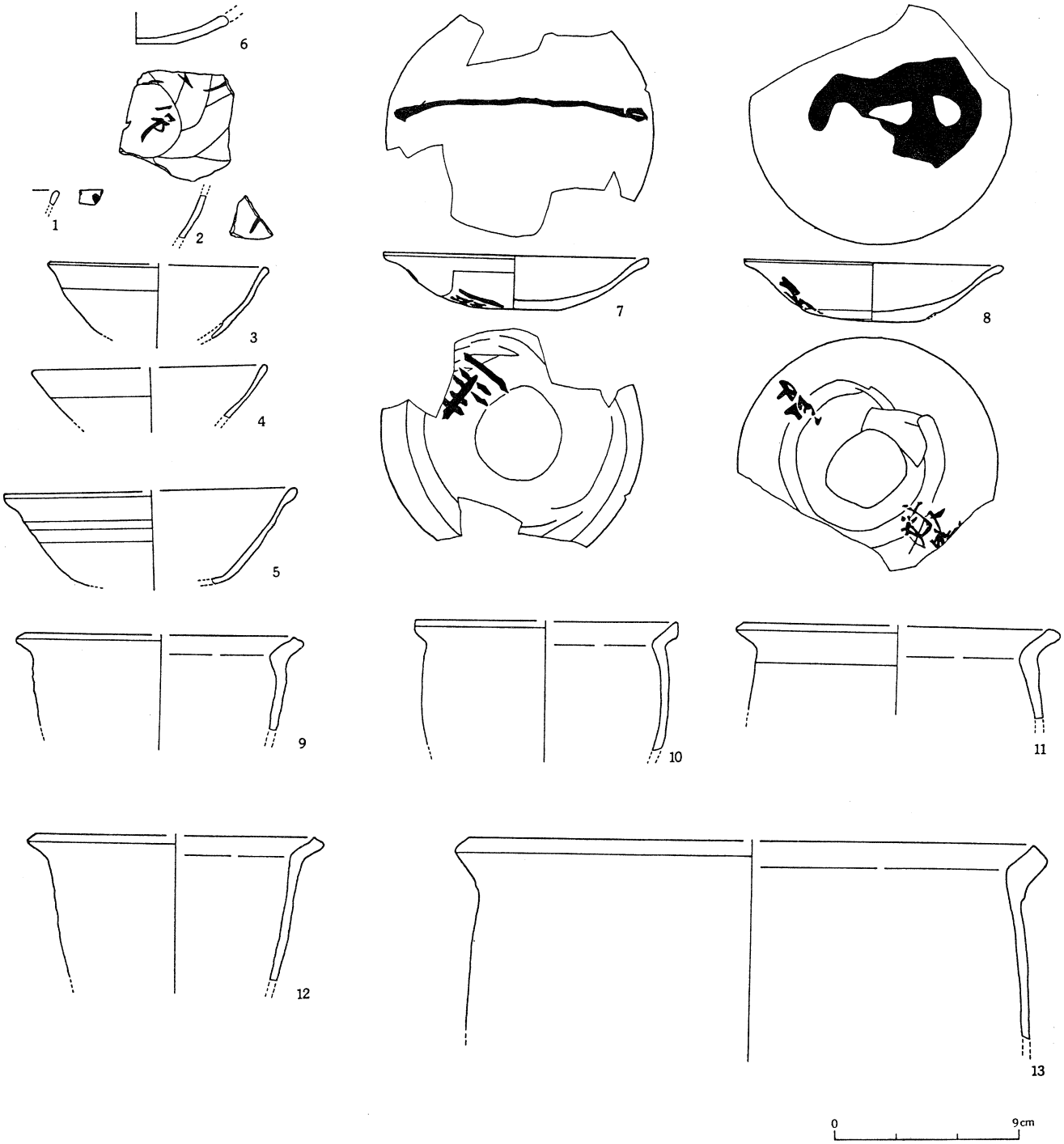
遺物

１～17は土師器で、１、２は器形不明。３～５が坏、６～８が皿、９～17が甕である。18は須恵器の壷である。１は口縁が玉縁仕上げで墨書「□」。２は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、

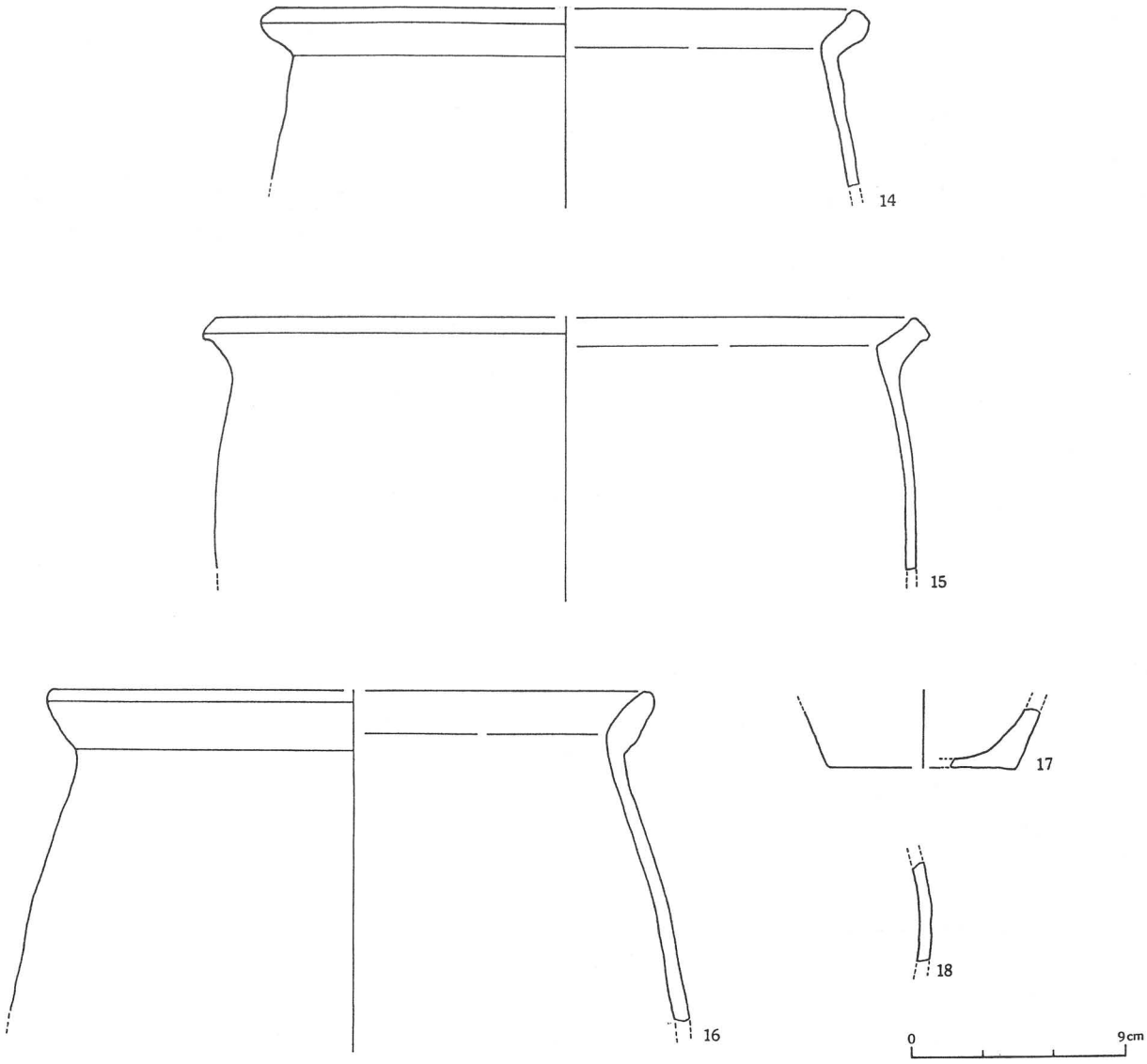


第26図 HT－４（１）

内面は暗文が施されている。体部外面に墨書「□」がある。3は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、口縁は玉縁仕上げ。4は口縁が玉縁仕上げ。5は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、口縁は玉縁仕上げ。6は体部外面下半に手持ちヘラ削り。底部はヘラ削りで、墨書「□」。7は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、底部は糸きり後ヘラ削り。口縁は玉縁仕上げ。体部内面に墨書「□」、外面に「□」。8は体部外面下半に回転ヘラ削り。底部はヘラ削り。口縁は玉縁仕上げ。体部外面に墨書「□」、内面底部に墨塗布。9～17は体部外面に縦はけめ、内面は横なで仕上げで、9～12が薄口縁。13～16が厚口縁。17は底部に木葉痕。



第27図 HT－4（2）



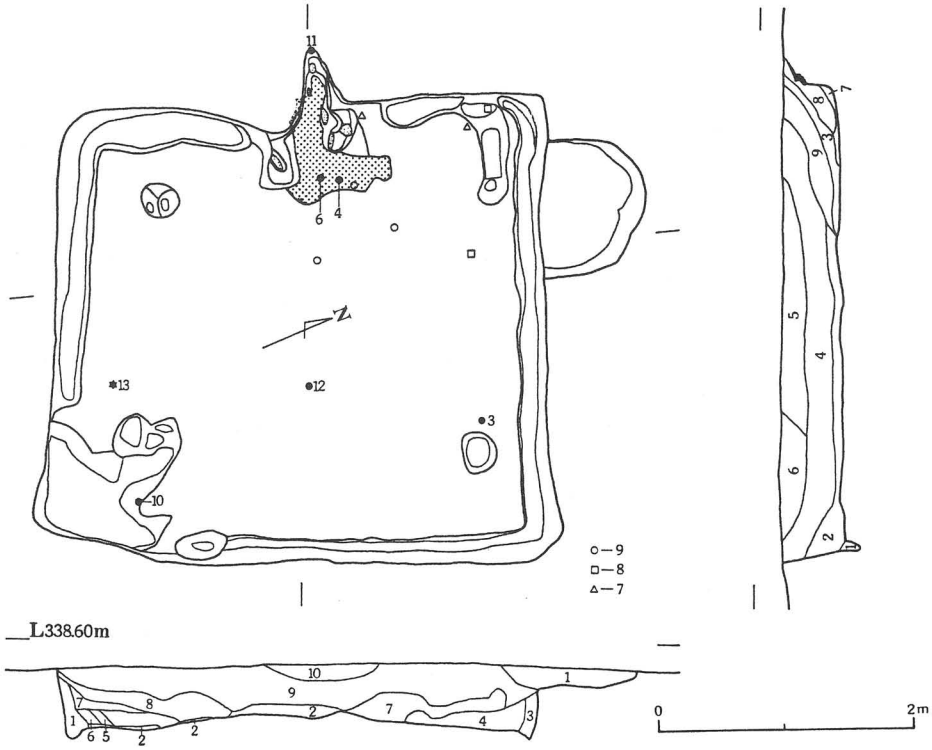
ＨＴ－５（第29～31図，図版３・17）

遺跡

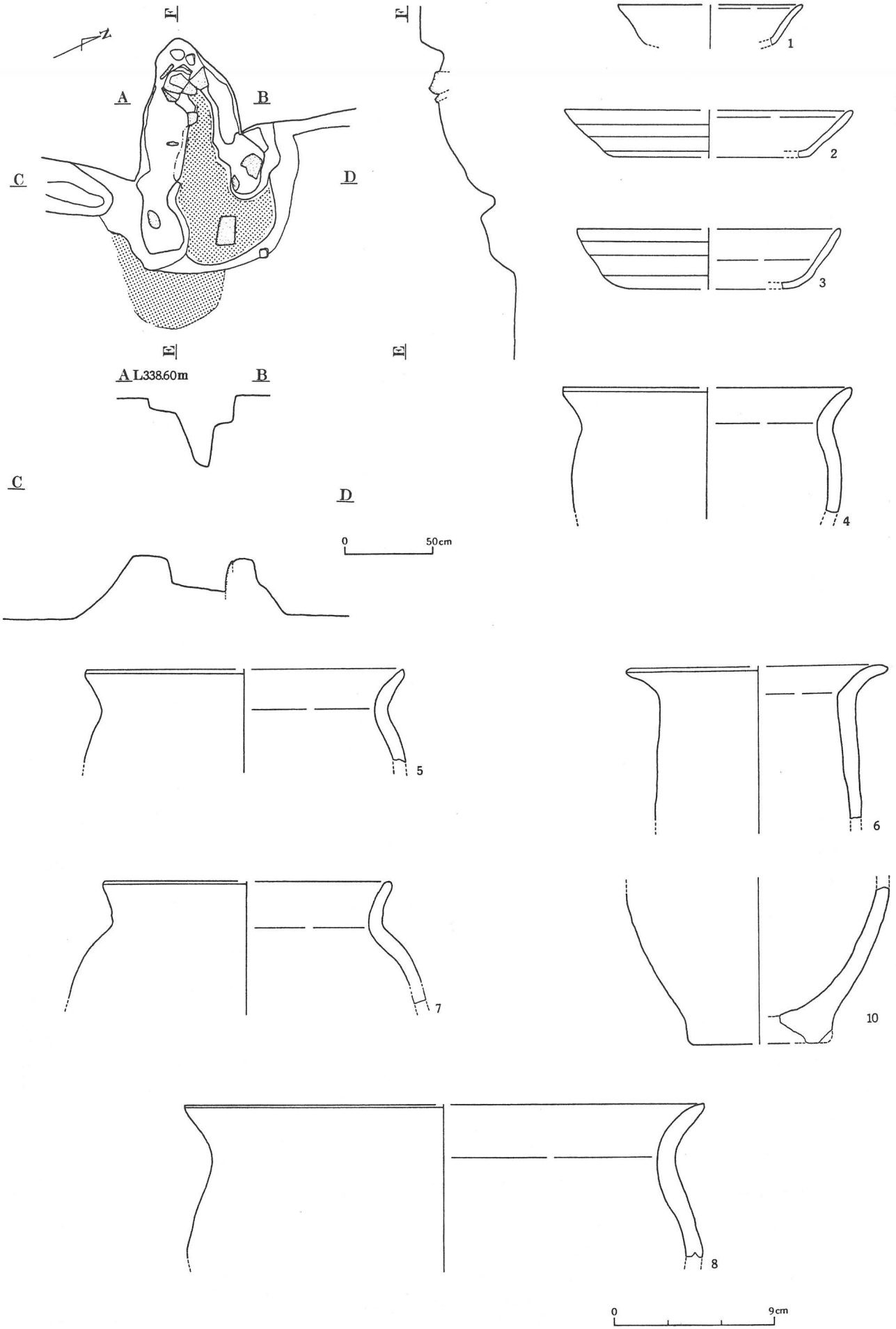
本跡は調査区西のＥ－１、Ｅ－２区に位置する。南北は4m、東西は3.6m。カマドは西壁中央にあり遺存状態は良い。柱穴は四隅にある。壁溝は南東隅を除き確認できた。貼床。

遺物

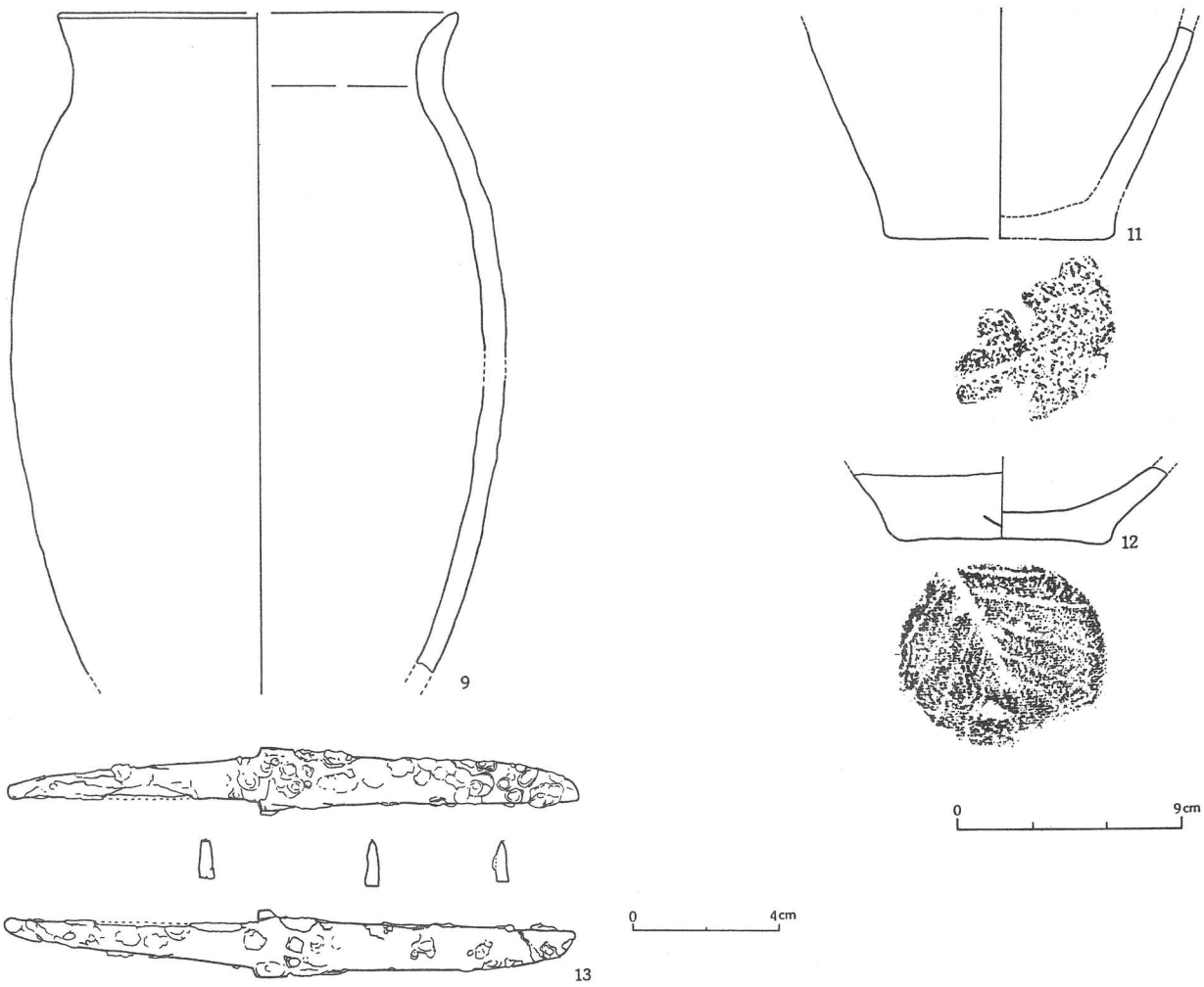
１～12は土師器で、１～３は坏、４～12が甕である。11、12は底部に木葉痕。13は刀子。



第29図 HT－５（１）



第30図 HT－5（2）



第31図 HT－5（3）

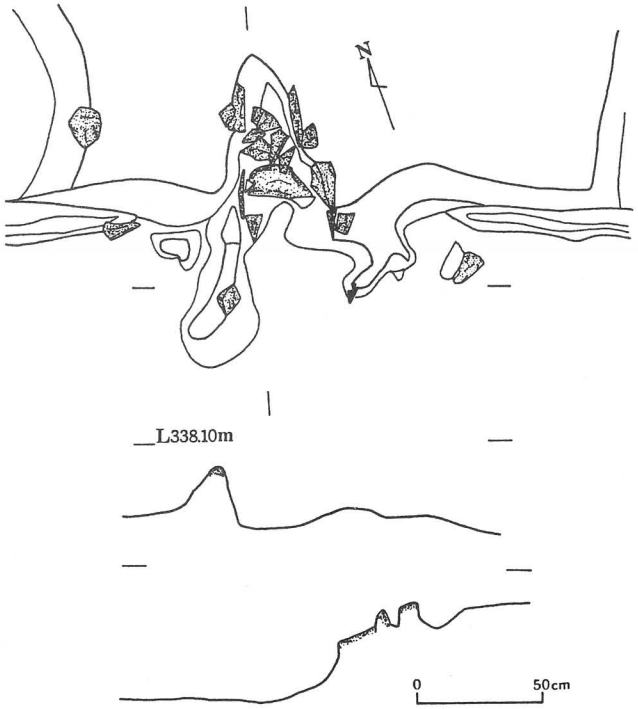
ＨＴ－６（第32～34図，図版３・４・18・19）

遺跡

本跡は調査区北のＢ－３、Ｃ－３区に位置する。西壁はＨＭ－１に切られ、東壁も攪乱を受けている。規模は南北が4.2m、東西が4.7m。カマドは北壁やや東寄りにある。柱穴は不明である。壁溝は西壁中央の攪乱付近で一旦途切れるが四方に確認できた。

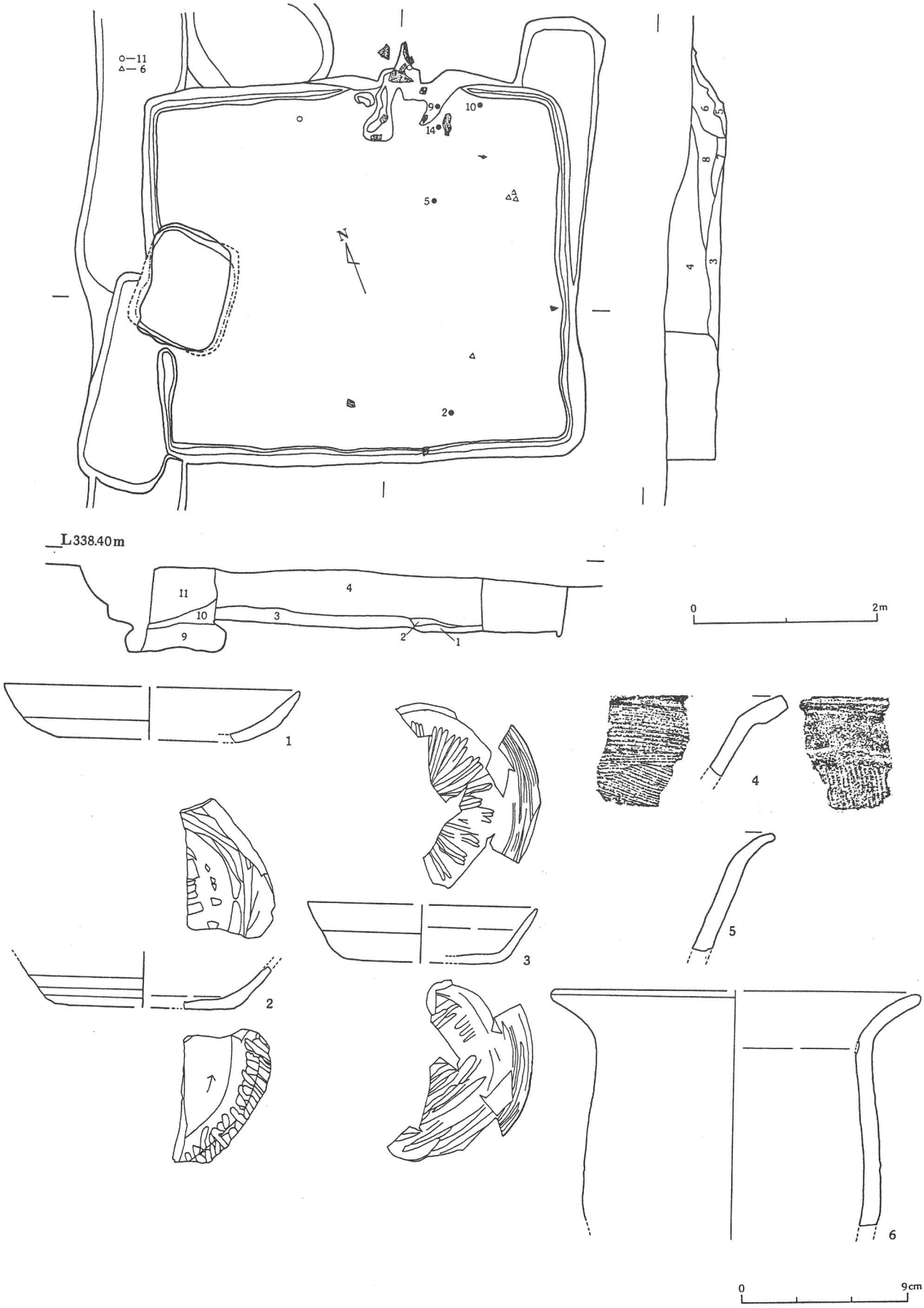
遺物

１～14は土師器で、１～３は坏。３～５が坏、４が鉢、５～14が甕である。15～18は須恵器で、15が高台坏、16～18が壺である。２は体部外面に縦方向のヘラみがき、内面に横方向のヘラみがきが施されている。３は体部外面、内面に横方向のヘラみがき。みこみ部には暗文が施されている。底部外面は全面ヘラみがき。４は体部外面が縦はけめ、内面は横なで仕上げ。口縁

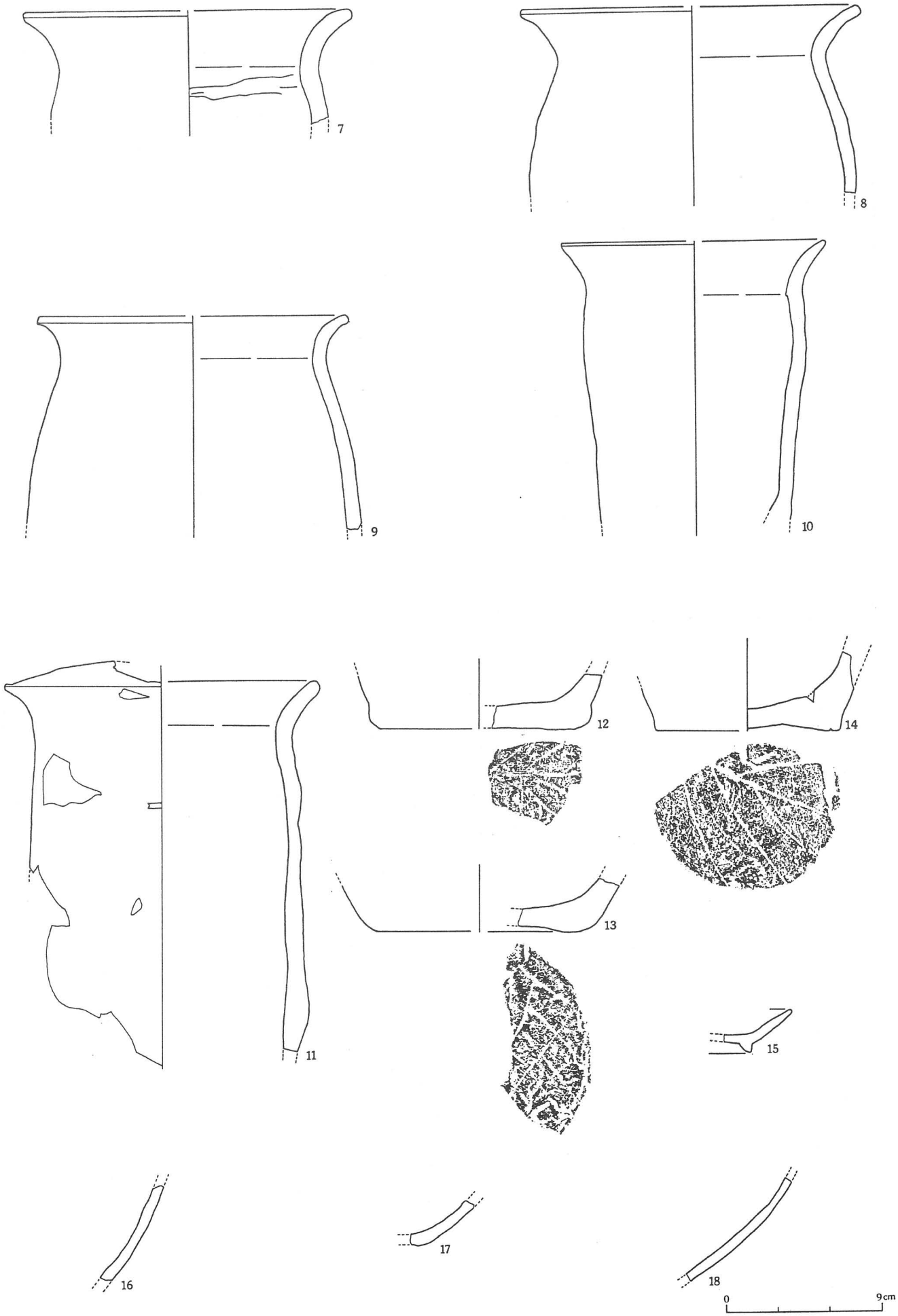


第32図 HT－6（1）

は厚口縁。5は体部外面が縦はけめ、内面は横なで仕上げ。12は体部内面が横なで仕上げで、底部に木葉痕。13、14も底部に木葉痕。18は外面に平行叩き目。



第33図 HT－6（2）



第34図 HT－6 (3)

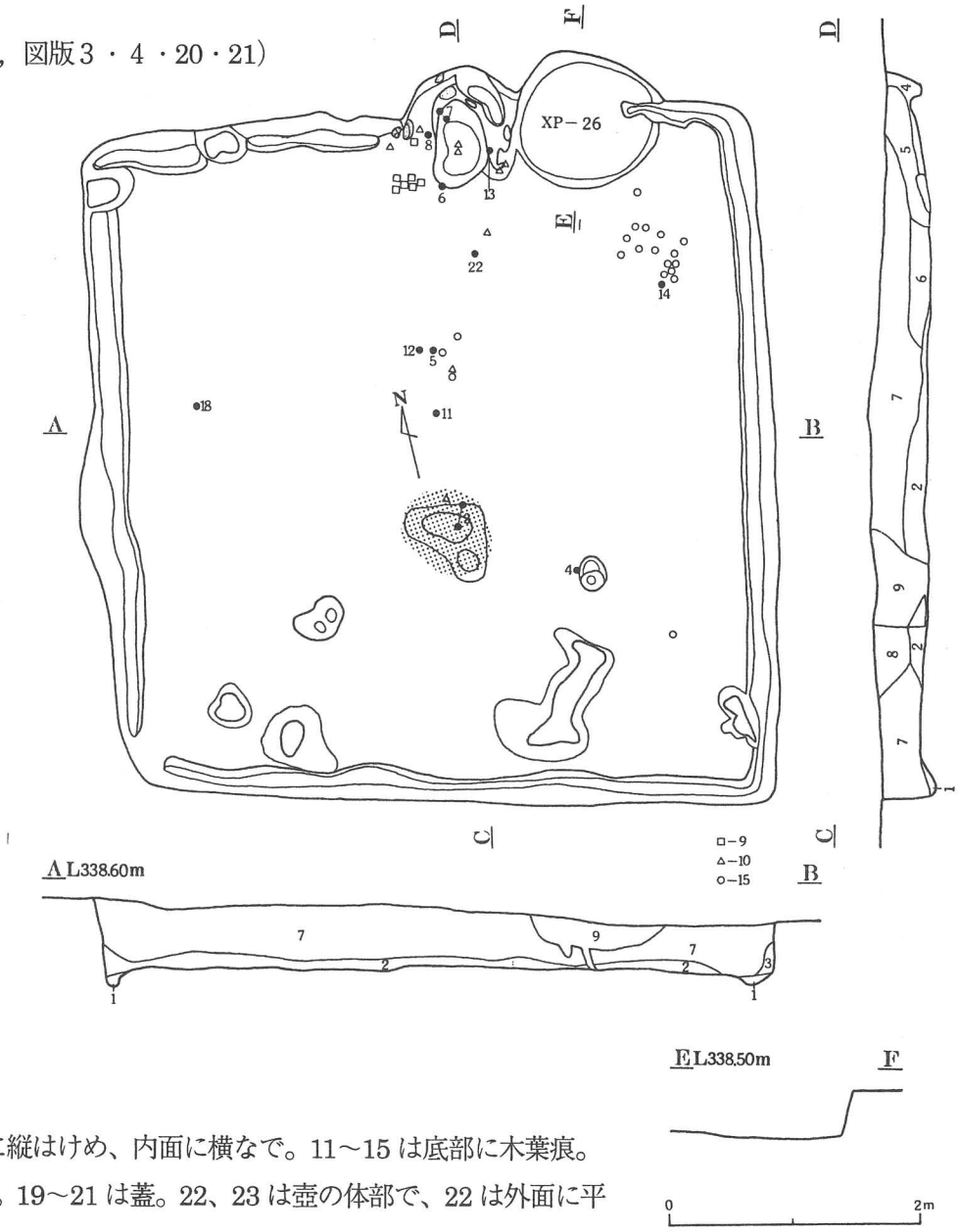
ＨＴ－７（第25～37図，図版３・４・20・21）

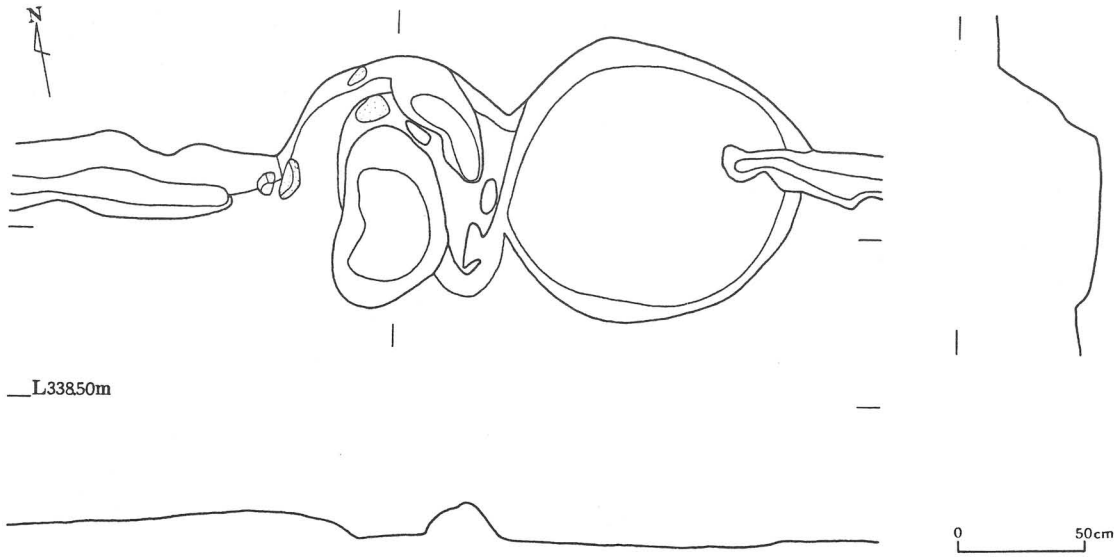
遺跡

本跡は調査区北東のＢ－１、Ｂ－２区に位置する。北壁中央やや東寄りをＸＰ－26に切られている。規模は東西、南北とも5.5m。本調査区域内で最も規模の大きい住居である。カマドは北壁中央にある。柱穴は住居中央寄りに南側の２つを確認した。壁溝は四方にまわっている。

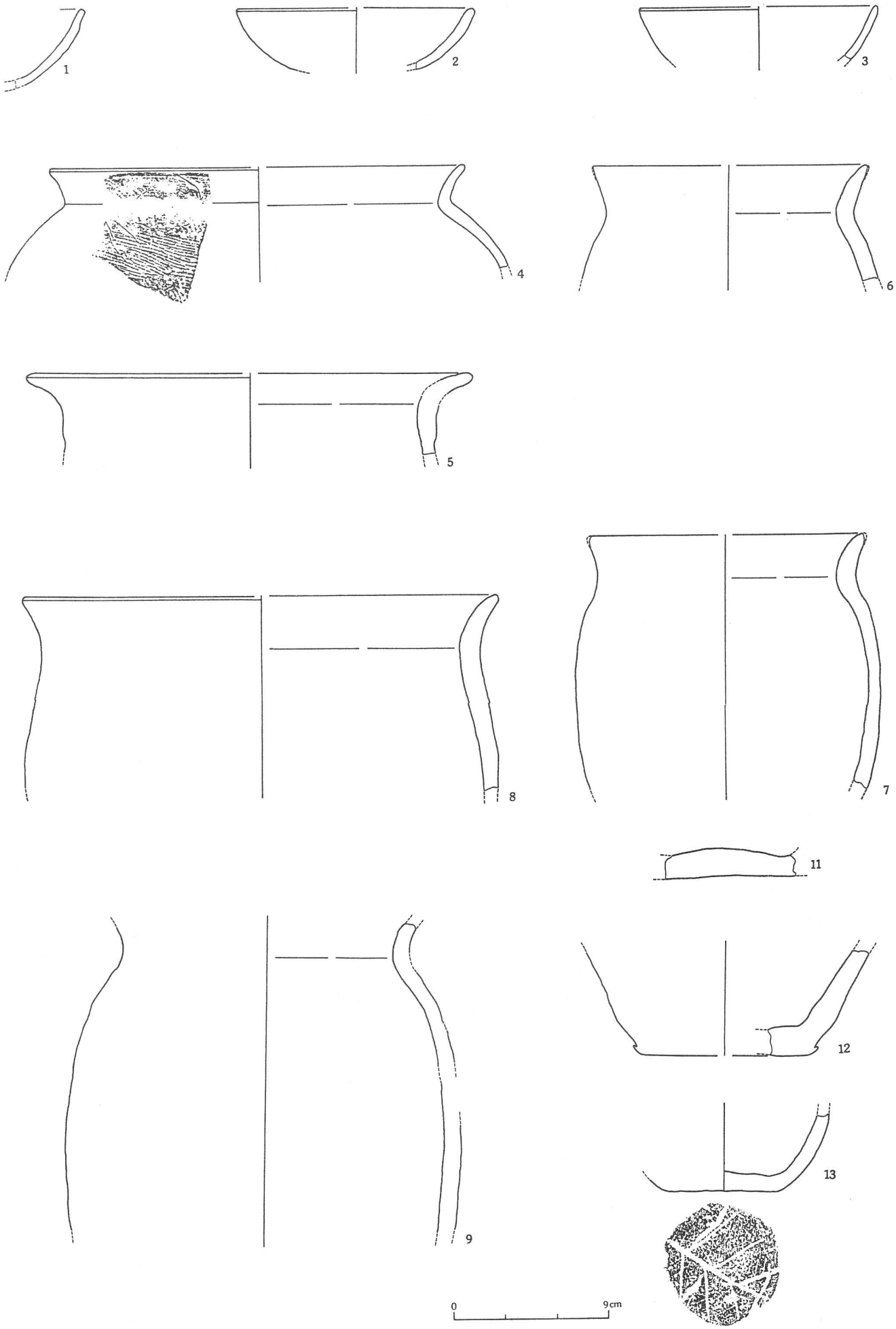
遺物

１～15は土師器で、１～３が坏、４～15が甕である。16～23は須恵器。１、２は体部外面の下から2/3が手持ちヘラ削り。４は頸部から口縁にかけて斜はけめ、肩部に横はけめ、口縁部内面に横はけめ。10は体部外面に縦はけめ、内面に横なで。11～15は底部に木葉痕。16、17は坏。18は高台坏。19～21は蓋。22、23は壺の体部で、22は外面に平行叩き目がある。

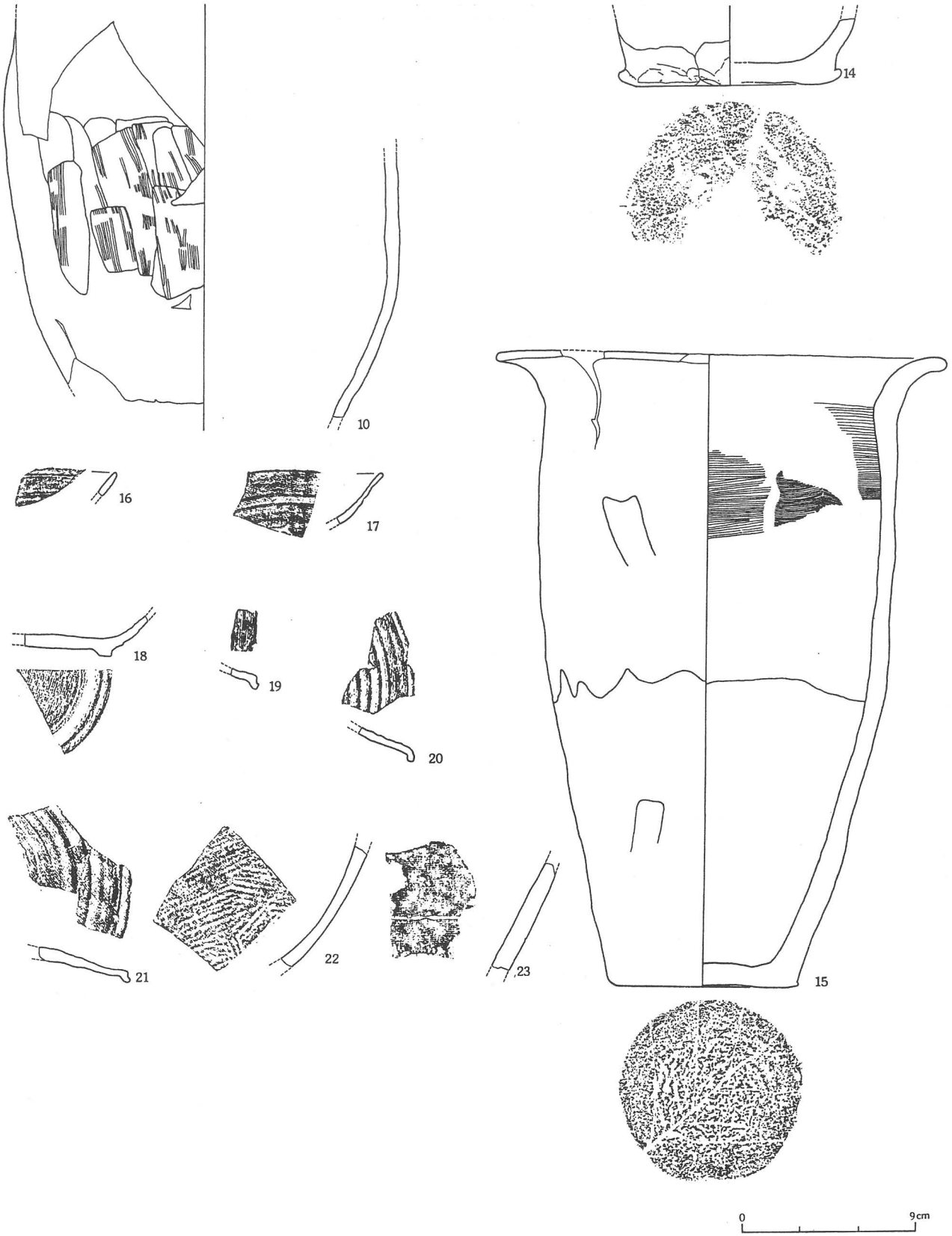




第35図 HT－７（１）



第36図 HT－7（2）



第37図 HT－7（3）

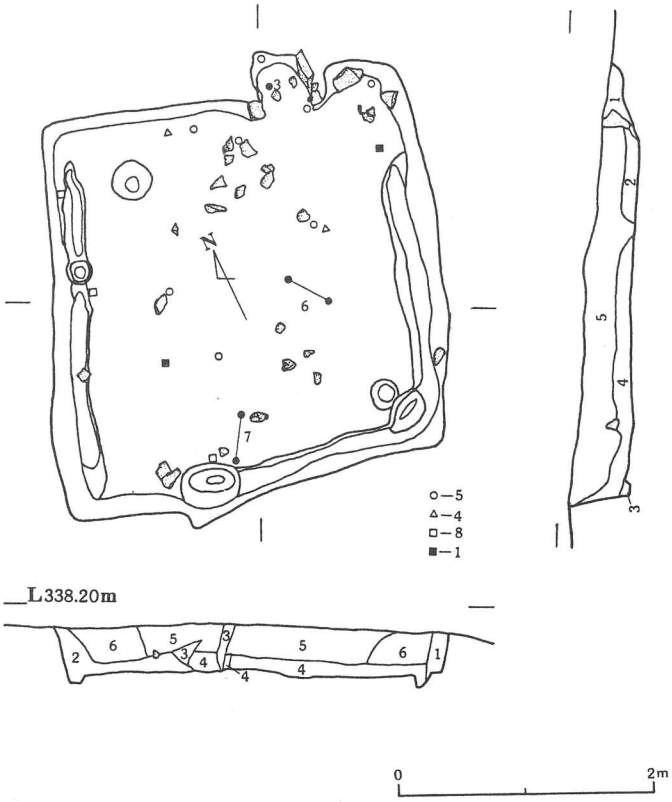
ＨＴ－８（第38～40図，図版３・22）

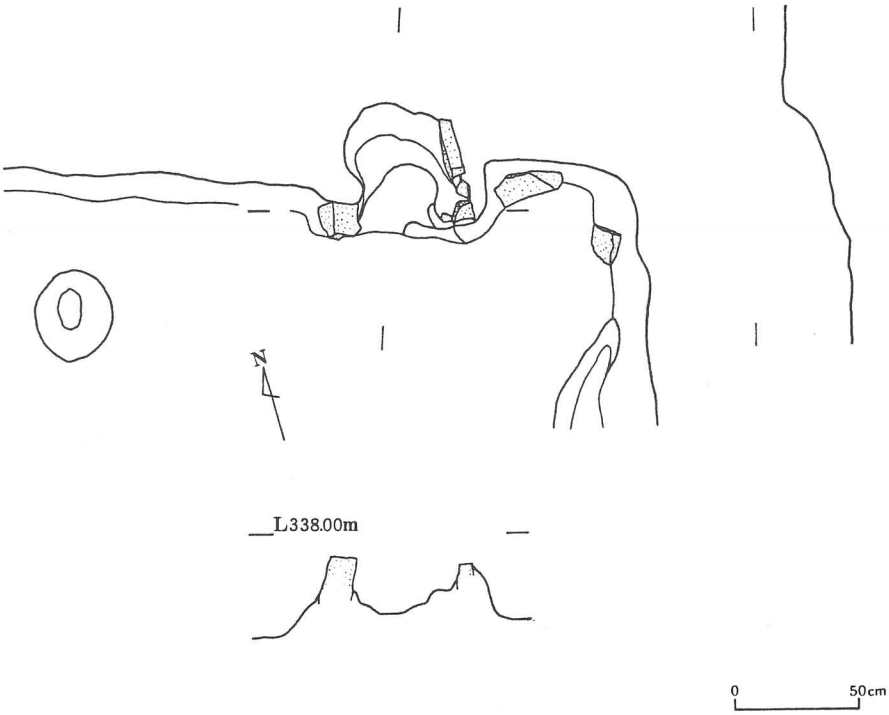
遺跡

本跡は調査区北のＣ－４区に位置する。東西、南北とも3.1m。カマドは北壁東寄りにある。柱穴は北西隅と南東隅に確認できた。壁溝は東壁から南壁中央付近と西壁に確認できた。

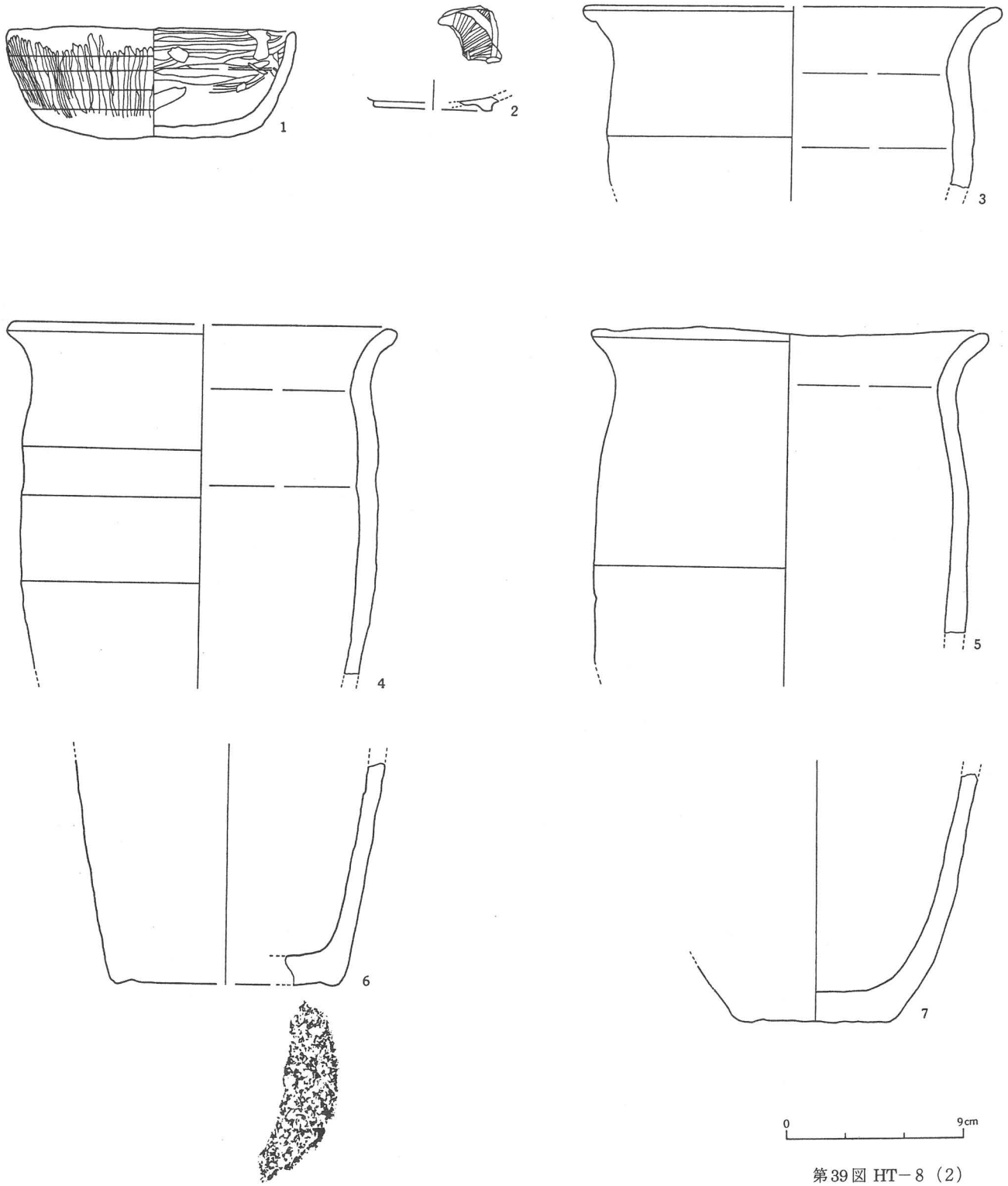
遺物

１～８は土師器で、１は盤状坏。２は高台坏、３～８が甕である。１は体部外面に縦みがき、内面に横みがき。みこみ部には暗文が施してある。底部も全面みがかれている。２は体部内面およびみこみ部に暗文が施されている。３～７は体部外面ヘラ削りで、６の底部に木葉痕。

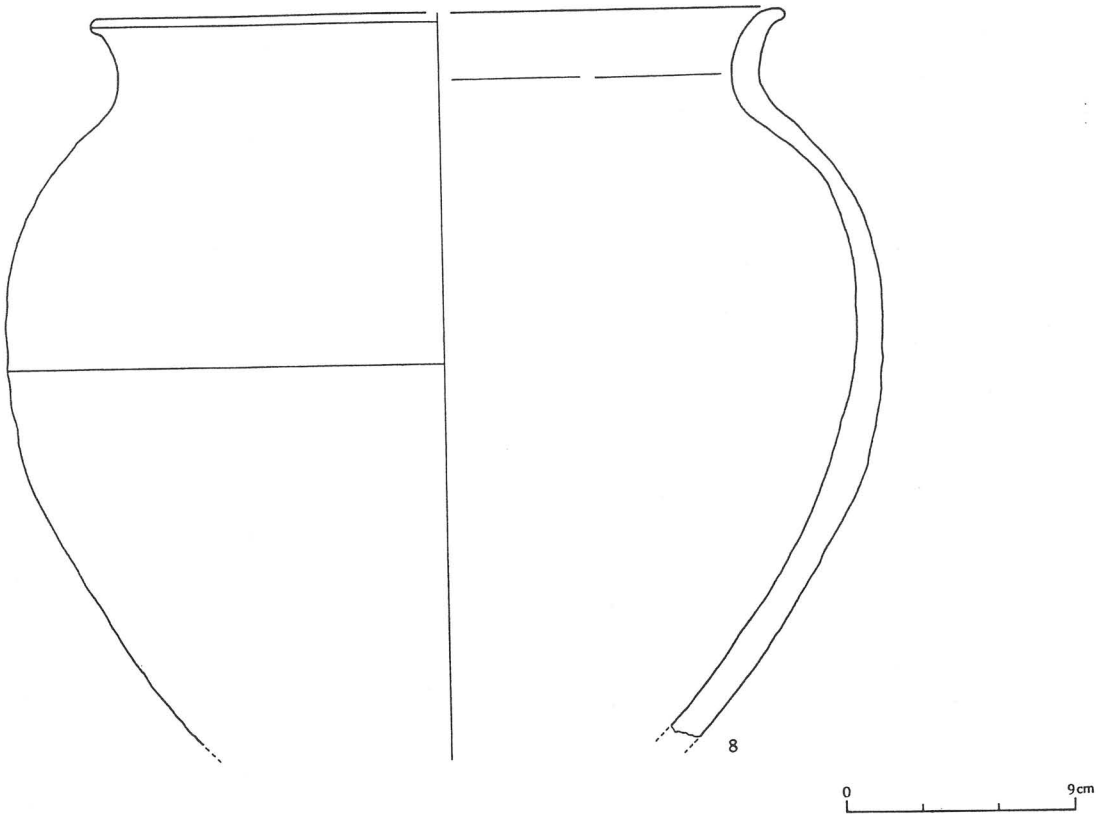




第38図 HT－８（1）



第39図 HT－8（2）



第40図 HT－8（3）

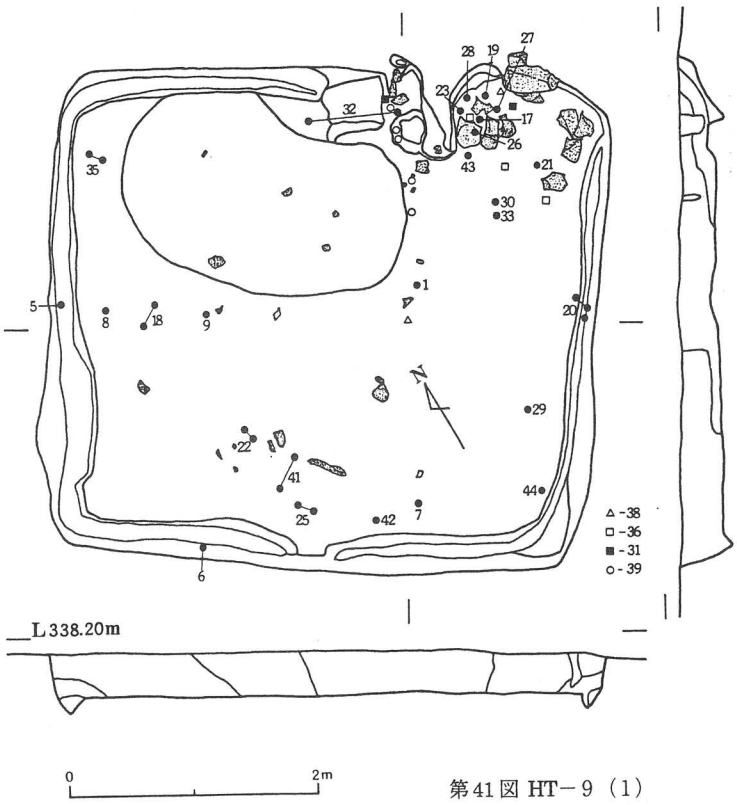
ＨＴ－９（第41～47図，図版３・23～25）

遺跡

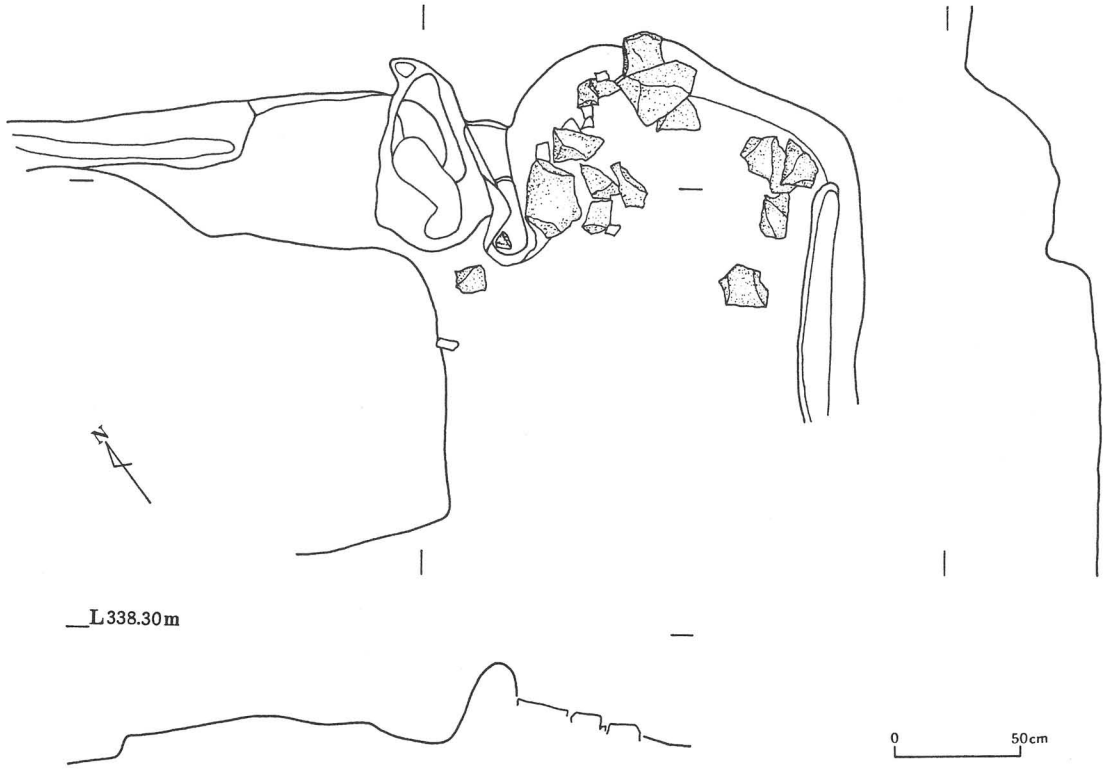
本跡は調査区北東のＣ－２区に位置する。南北は４ｍ、東西は4.5m。カマドは北壁東寄りにあるが遺存状態は悪い。柱穴は不明である。壁溝は北壁中央から西壁をまわり、南壁中央付近で一部途切れるが東壁へ続く。

遺物

１～41は土師器で、１、２、４～14、16～20が坏、21～25が皿、15が鉢、26～41が甕である。42～44は須恵器で、42、43が坏、44が壷である。１は体部内面に暗文が施されている。また、底部から立ち上がってすぐの体部に穿孔がみられる。４は体部外面下半に手持ちヘラ削り。底部はヘラ削り。５、６は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、口縁は玉縁仕上げ。７～10は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、底部

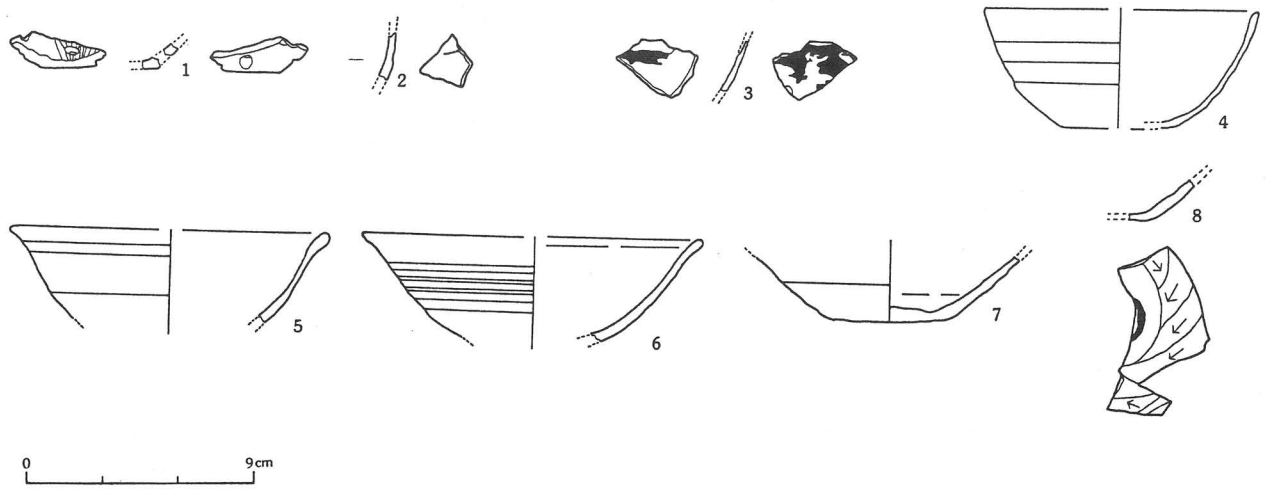


第41図 HT－9（1）

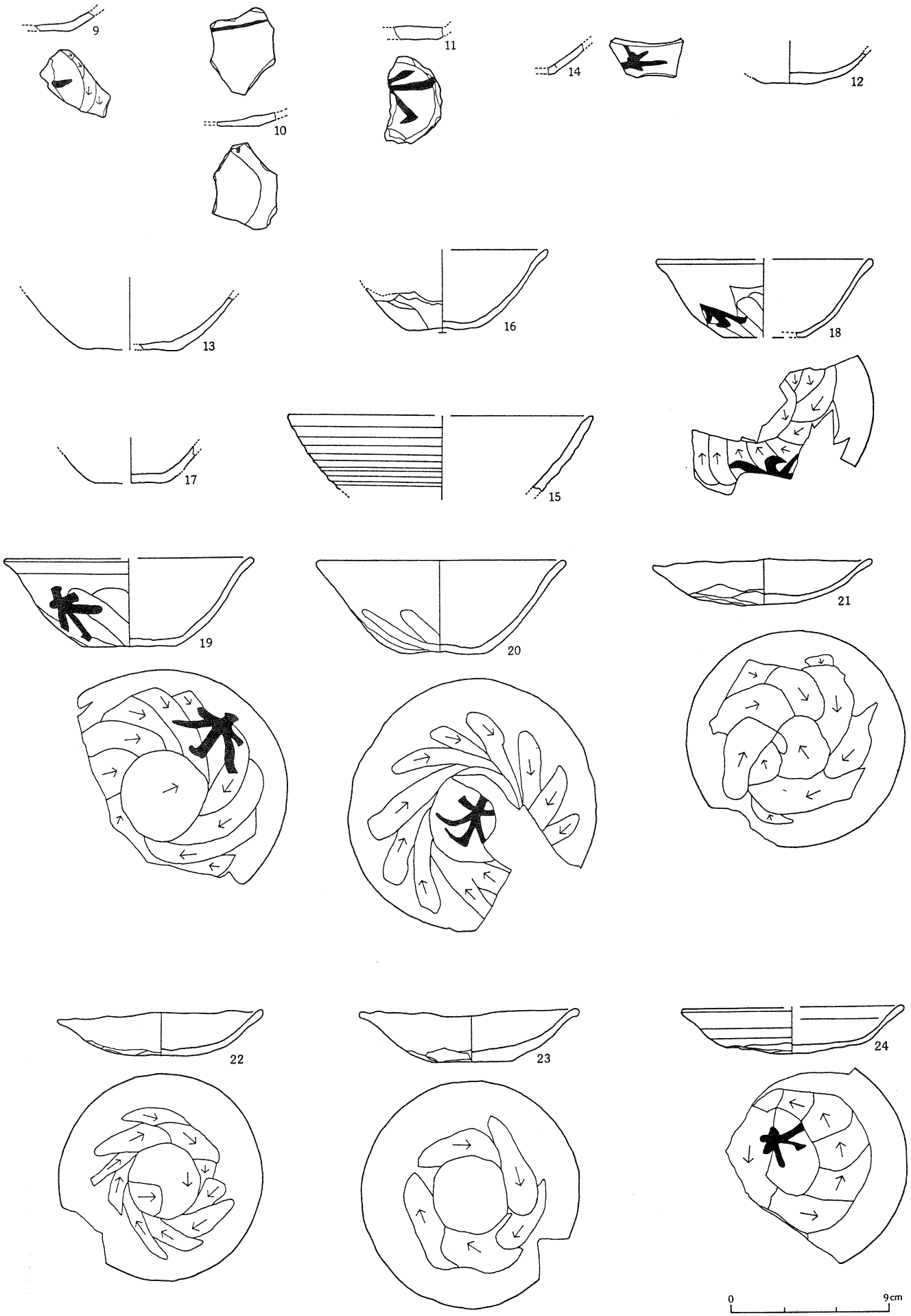


第42図 HT－9（2）

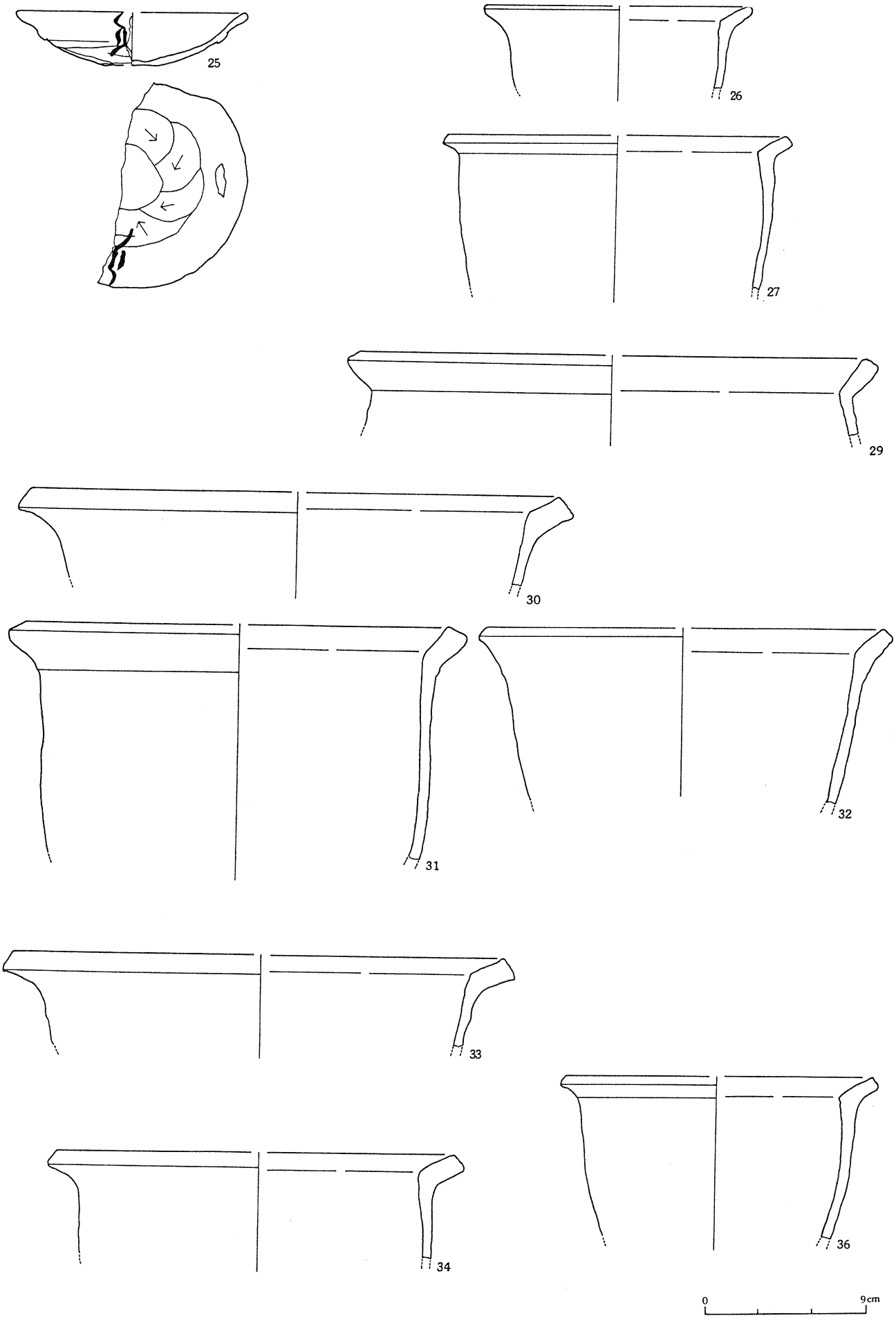
はヘラ削り。8、9の底部外面に墨書「□」。10の底部から立ち上がってすぐの体部外面と底部内面に墨書「□」。11は底部ヘラ削りで外面に墨書「木？」。12は体部外面下半に手持ちヘラ削り。底部に糸きり痕。13は体部外面に手持ちヘラ削り。底部はヘラ削り。14は体部外面下半に回転ヘラ削り、内面黒色処理で暗文を施している。体部外面に墨書「□」。15は内面黒色処理。16は体部外面下半に手持ちヘラ削り。底部は糸きり後ヘラ削り。口縁は玉縁仕上げ。17は体部外面下半に手持ちヘラ削り。底部はヘラ削り。18は体部外面下半に手持ちヘラ削り。底部はヘラ削り。口縁は玉縁仕上げ。体部外面に墨書「木？」。19は体部外面下半に手持ちヘラ削り。内面黒色処理で暗文を施している。底部はヘラ削り。口縁は玉縁仕上げ。体部外面に墨書「木」。20は体部外面下半に手持ちヘラ削り。底部は糸きり後ヘラ削り。口縁は玉縁仕上げ。底部外面に墨書「木」。21～25は体部外面下半に手持ちヘラ削り。底部はヘラ削り。口縁は玉縁仕上げ。24の底部外面に墨書「木」。25の体部外面に墨書「□」。26～41は体部外面に縦はけめ、内面に横なでが施してある。26～28、36は薄口縁、29～31、33～35、37～39は厚口縁、32は末広口縁仕上げとなっている。



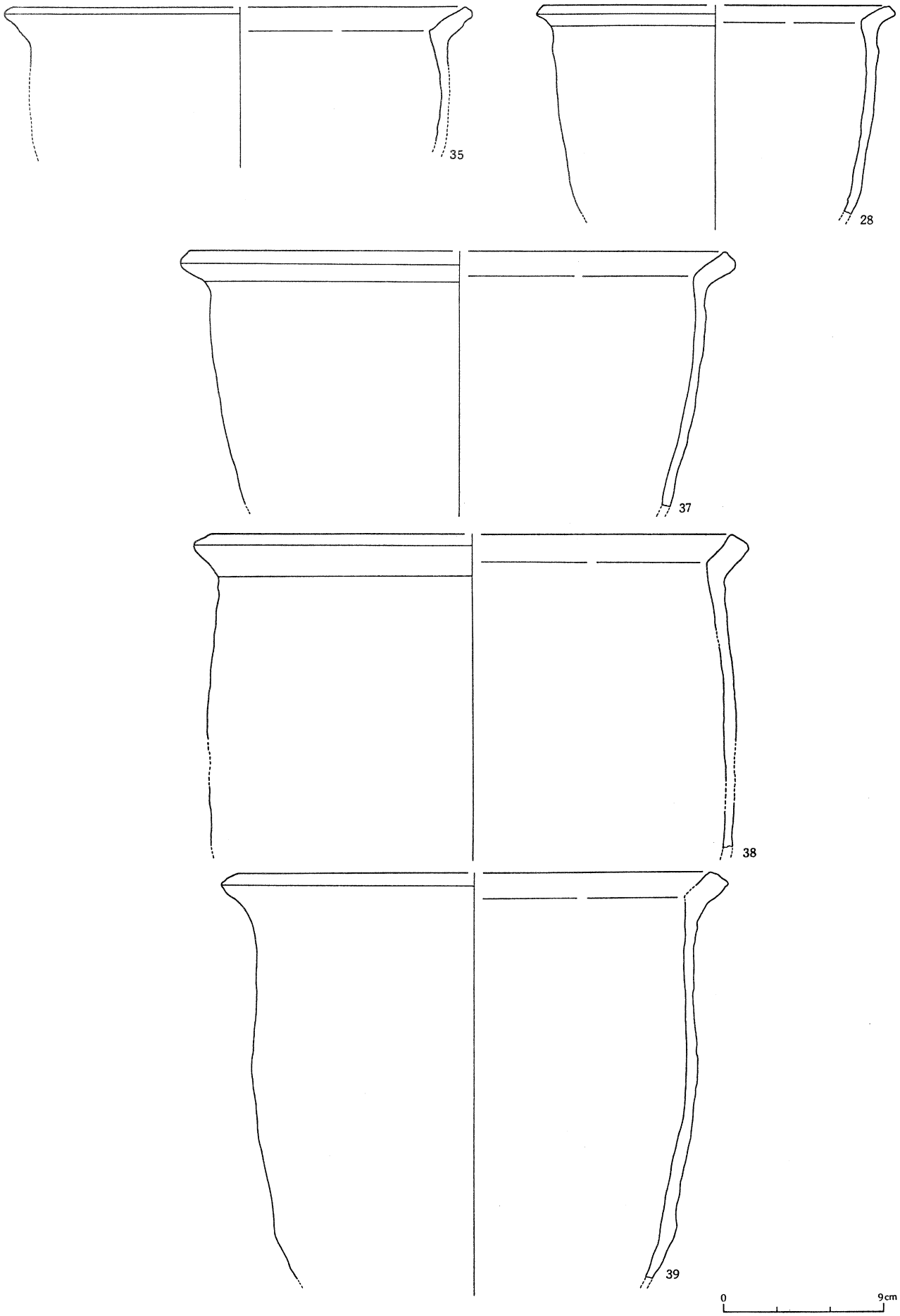
第43図 HT－9（3）



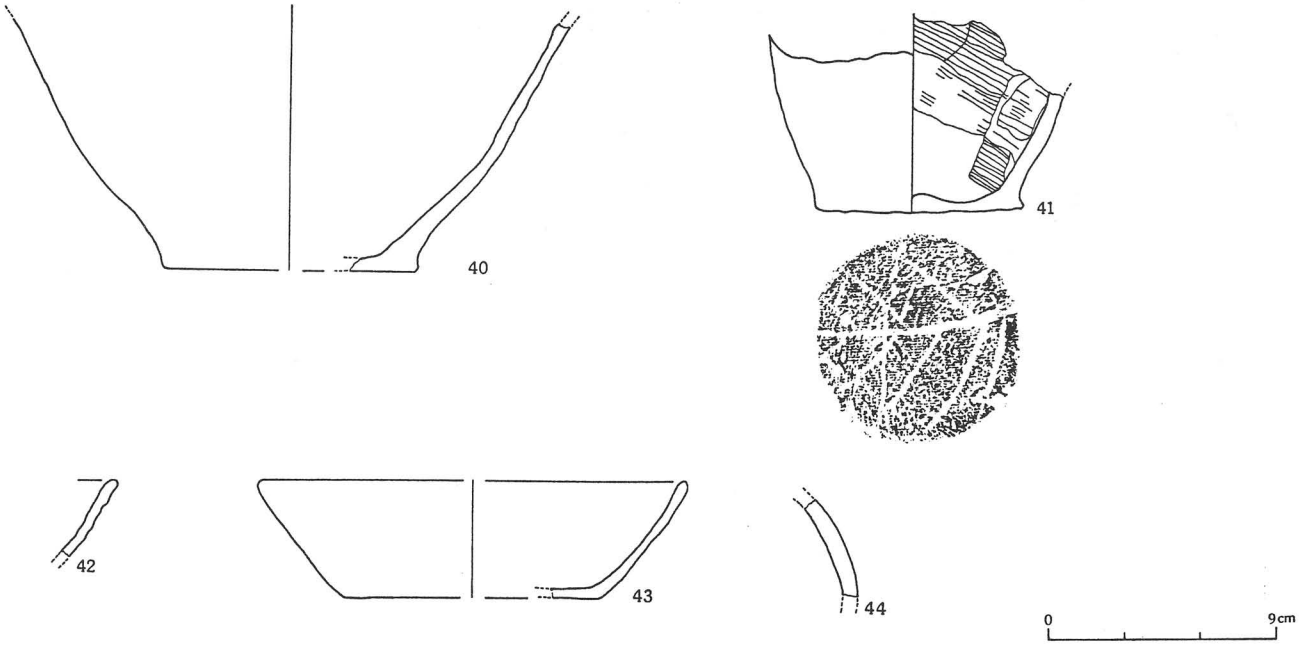
第44図 HT－9（4）



第45図 HT－9（5）



第46図 HT－9（6）

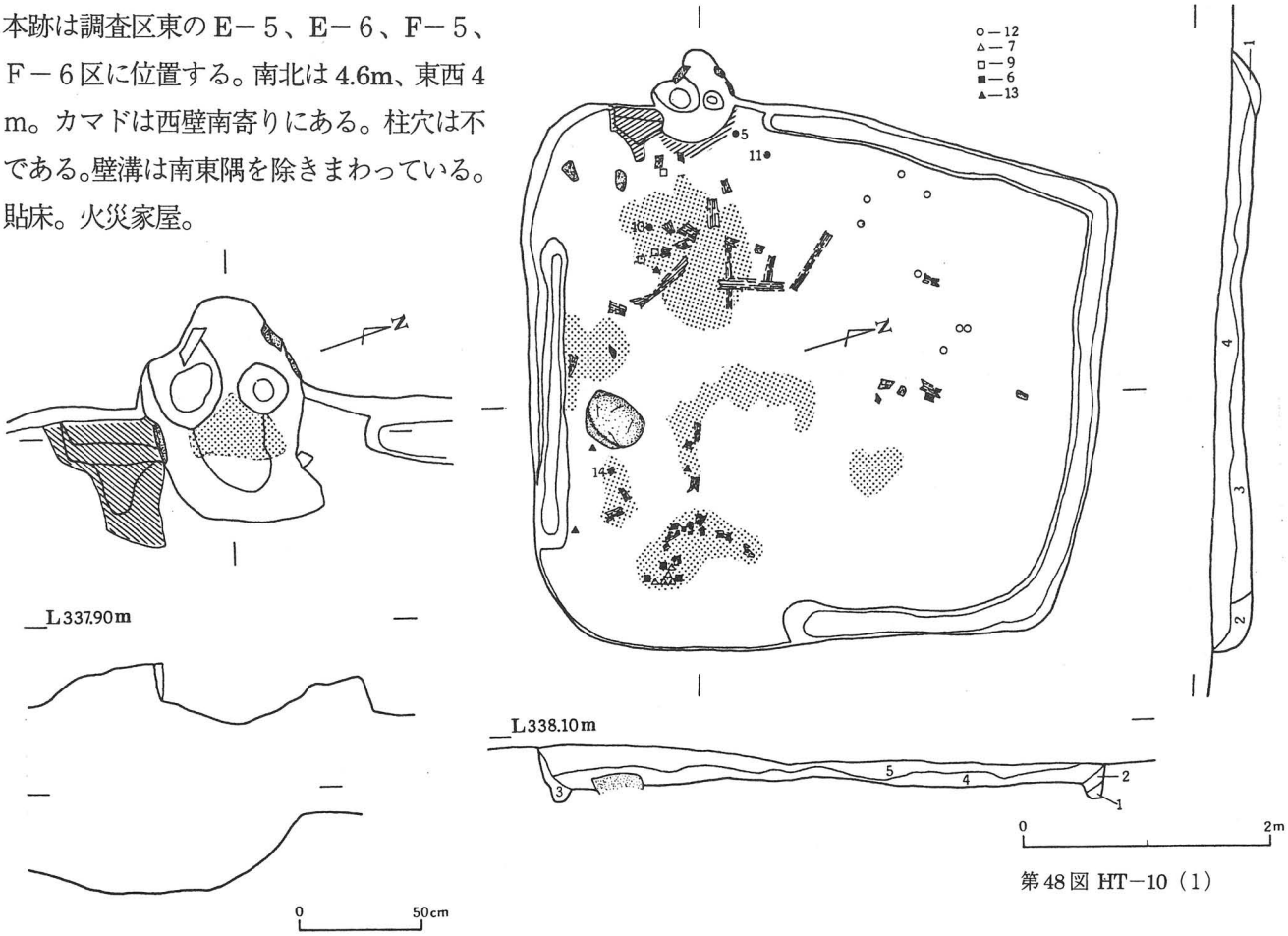


第47図 HT－9（7）

ＨＴ－10（第48～50図，図版３・26）

遺跡

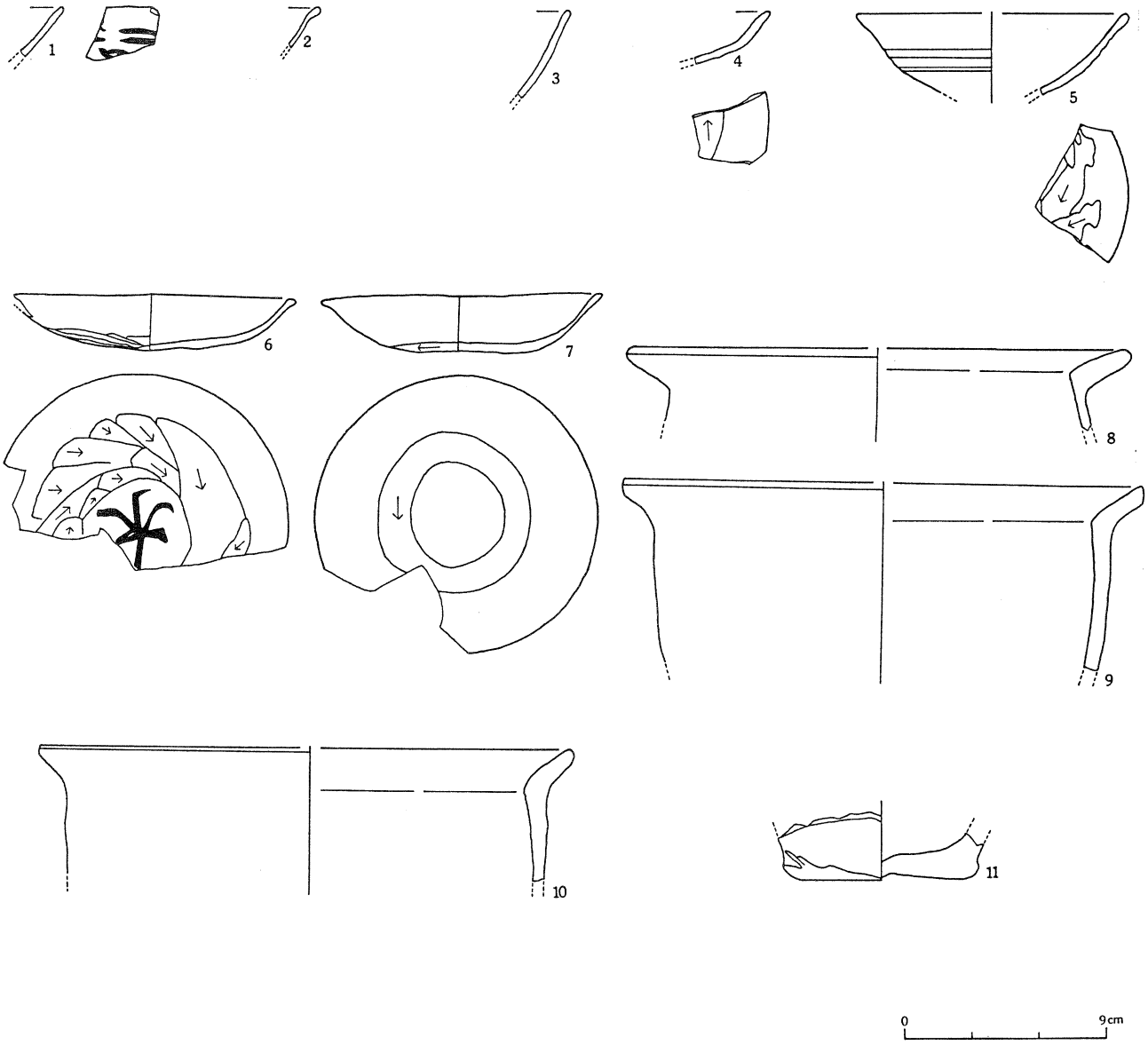
本跡は調査区東のＥ－５、Ｅ－６、Ｆ－５、Ｆ－６区に位置する。南北は4.6m、東西４m。カマドは西壁南寄りにある。柱穴は不である。壁溝は南東隅を除きまわっている。貼床。火災家屋。



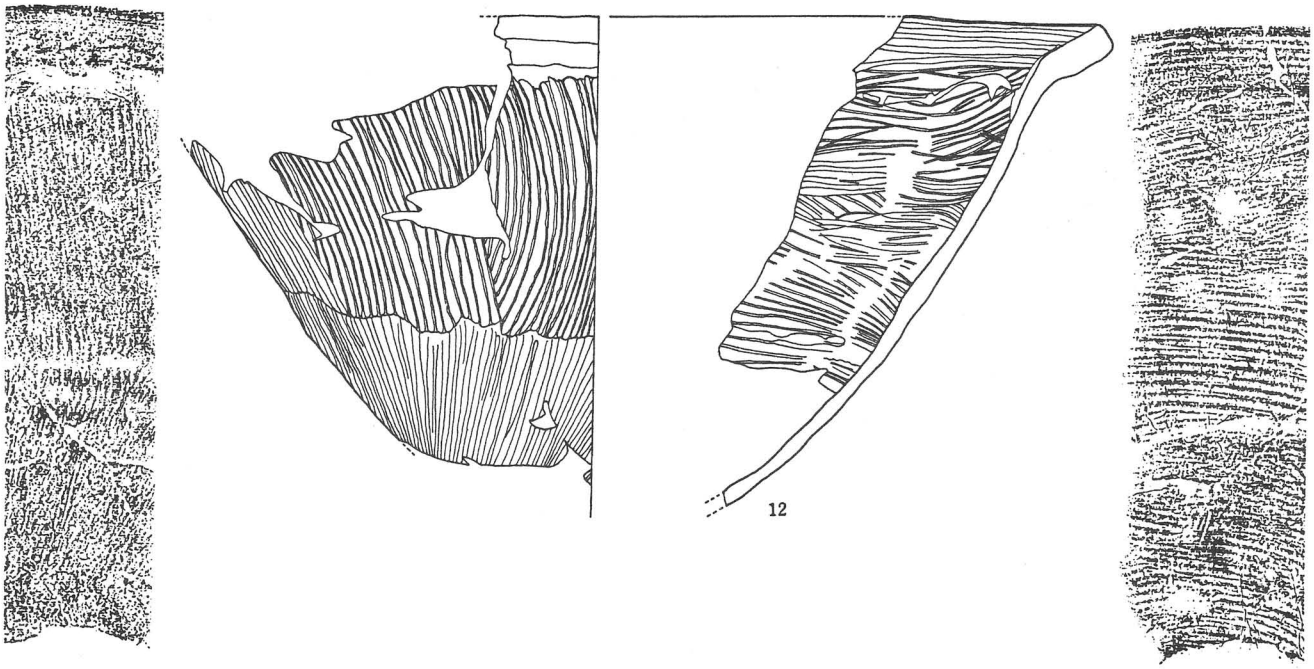
第48図 HT－10（1）

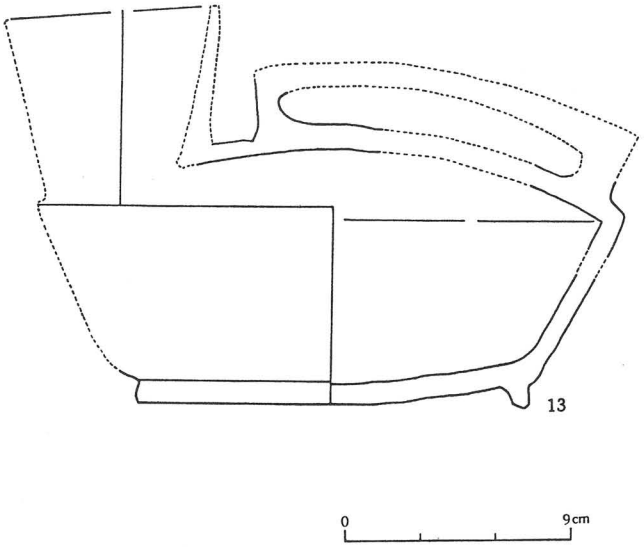
遺物

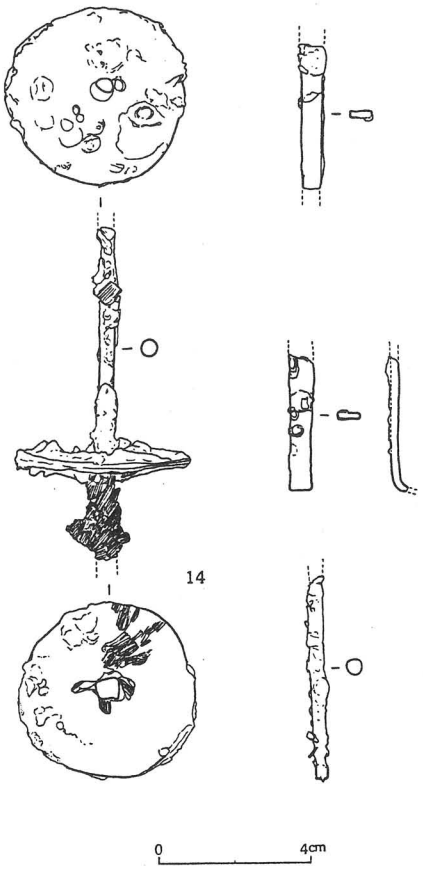
1～12は土師器で、1、3、5は坏、2、4、6、7が皿、8～11が甕、12が鉢である。13は須恵器の平瓶である。1は体部外面に墨書「□」。2は口縁が玉縁仕上げ。3は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、内面に暗文が施されている。4は体部外面下半に回転ヘラ削り。5は体部外面下半に手持ちヘラ削り。6は体部外面下半に手持ちヘラ削り。底部は糸きり後ヘラ削りで、墨書「木」。口縁は玉縁仕上げ。7は体部外面下半に回転ヘラ削りで、底部はヘラ削り。口縁は玉縁仕上げ。8は体部外面に縦はけめ、内面は横なで仕上げで厚口縁。9、10は薄口縁。11は底部に木葉痕。13の須恵器平瓶は炭化材や焼土より高いレベルで出土していることから、家屋の焼失後投棄されたものと思われる。14は紡錘車。



第49図 HT－10（2）







第50図 HT−10（3）

ＨＴ－11（第51～53図，図版３・４・27・28）

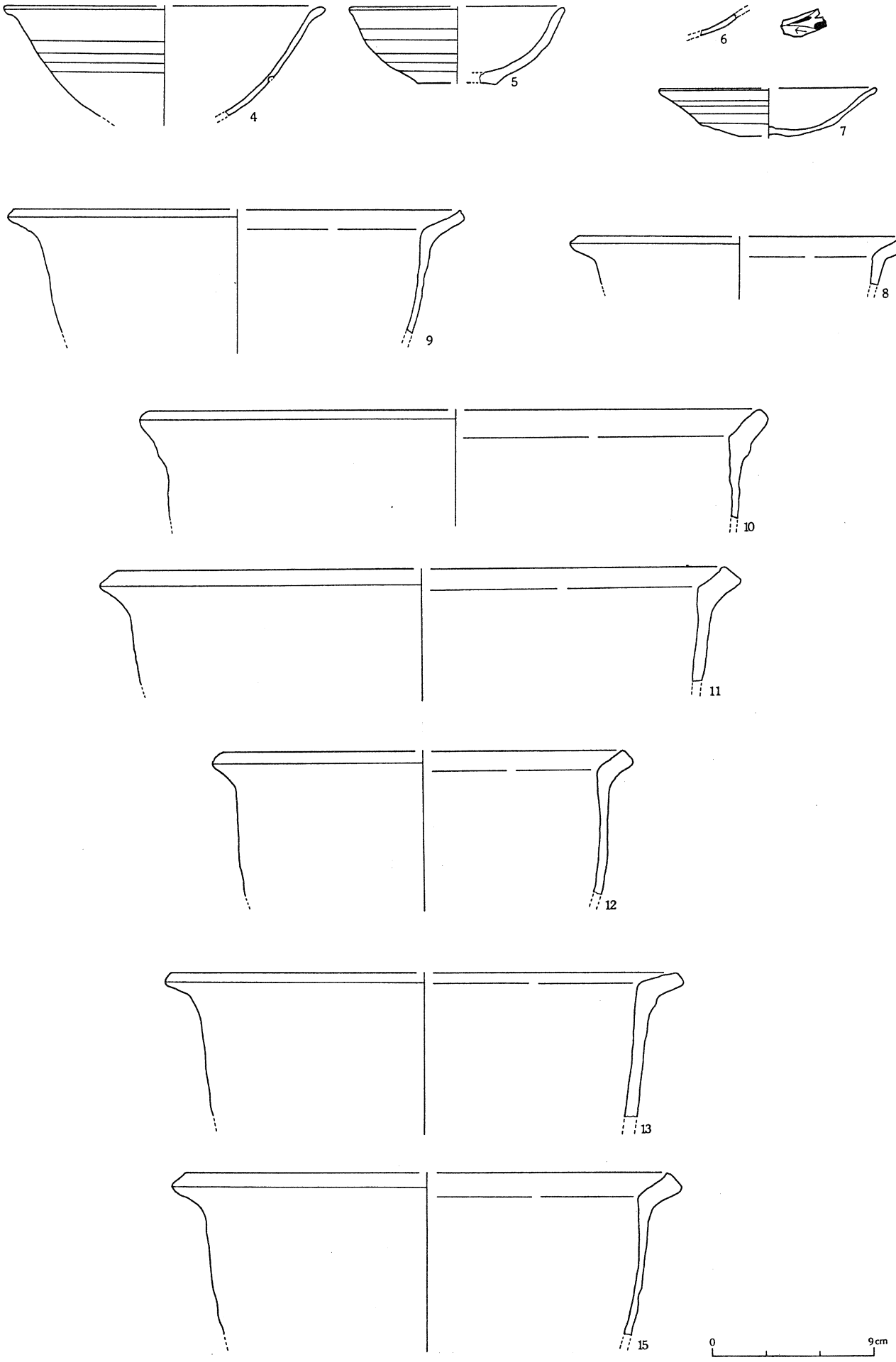
遺跡

本跡は調査区東のＦ－６、Ｇ－６区に位置する。南側床面は、攪乱により欠損している。規模は南北が4.2m、東西が3.8m。カマドは北壁やや東寄りにある。柱穴は不明である。壁溝は遺存する西壁中央から北壁、東壁中央に確認できた。貼床。

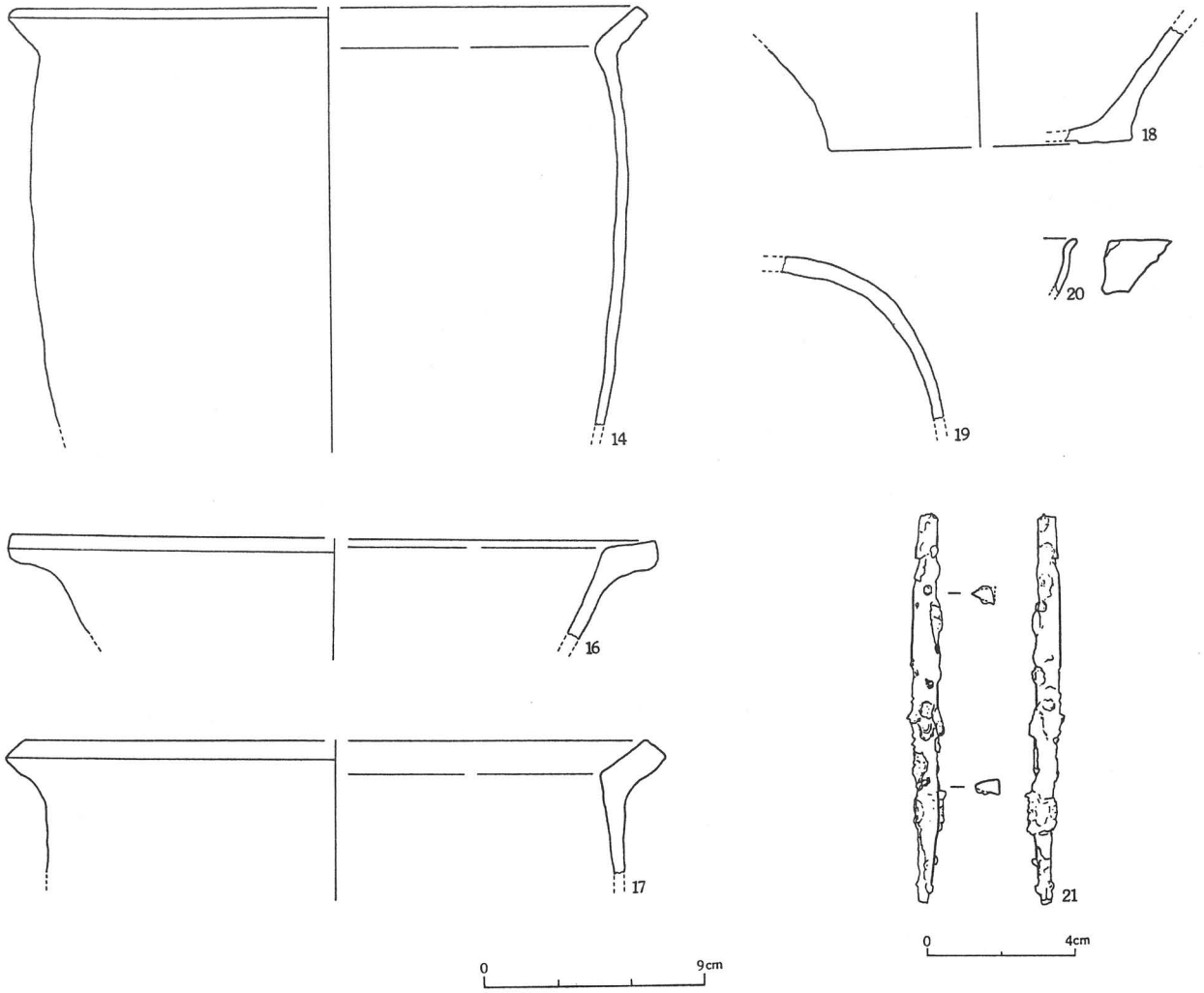
遺物

１～18は土師器で、１～５が坏、７が皿、８～18が甕で、19は須恵器の壷である。20は陶器、21は刀子である。１、２は体部外面下半に手持ちヘラ削り。口縁は玉縁仕上げ。３は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、底部ヘラ削り。口縁は玉縁仕上げ。体部外面に墨書「□」。４は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、内面黒色処理。口縁は玉縁仕上げ。５は体部内面黒色処理で、横方向のヘラみがきが施してある。６は体部外面に墨書「□」。７は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、底部はヘラ削り。口縁は玉縁仕上げ。８は体部内面が横なで仕上げで、薄口縁。９～17が体部外面に縦はけめ、内面は横なで仕上げ。９、14は薄口縁。10～13、15～17は厚口縁。18は底部に木葉痕。

第51図 HT－11（1）



第52図 HT−11（2）



第53図 HT−11（3）

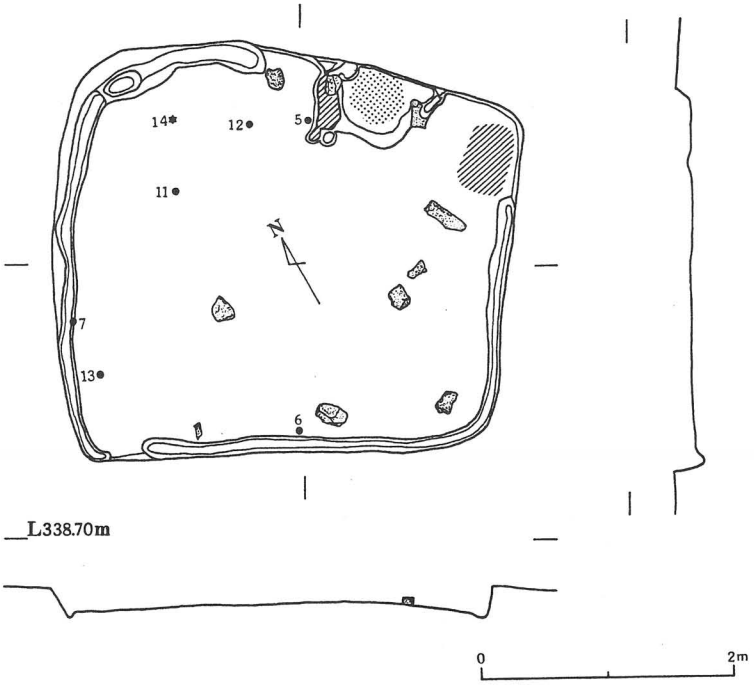
ＨＴ−12（第54〜56図，図版3・29）

遺跡

本跡は調査区北東のＣ−２区に位置する。南北は3.2m、東西は3.5m。カマドは北壁やや東寄りにある。柱穴は不明である。壁溝は南東隅の一部と北東隅を除き、まわっている。

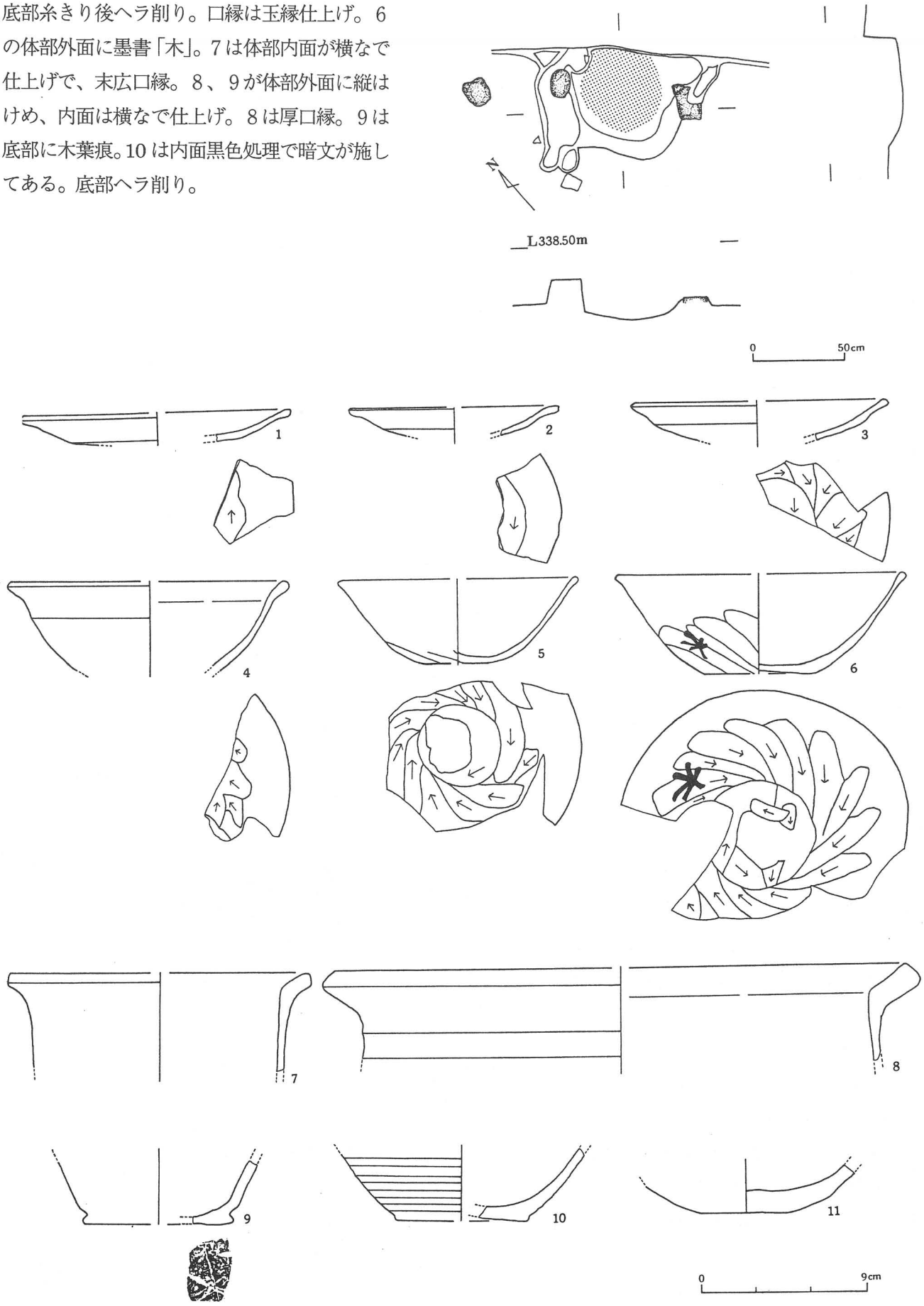
遺物

１〜10は土師器で、１〜３は皿。４〜６が坏、７〜９が甕、10が鉢である。11,12は須恵器の壷である。13は加工された球体の石で、14は刀子である。１、２は体部外面下半に回転ヘラ削り。口縁が玉縁仕上げ。３は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、口縁は玉縁仕上げ。４は体

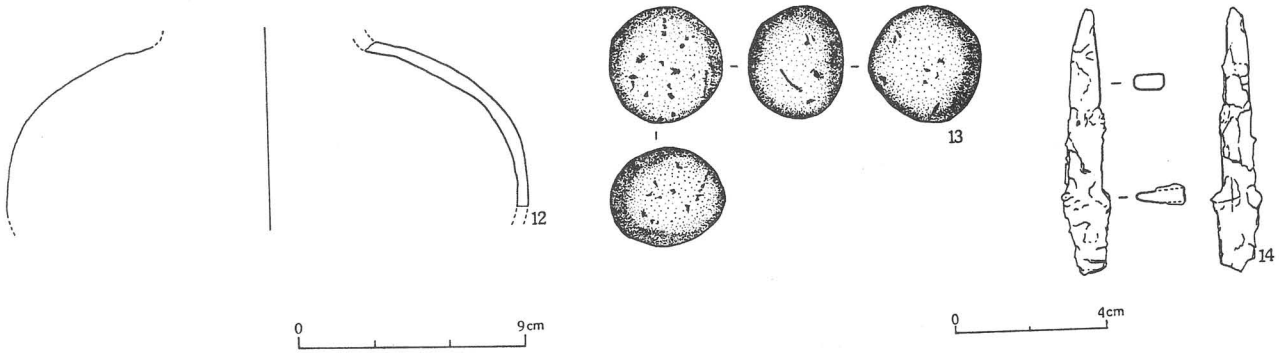


第54図 HT−12（1）

部外面下半に手持ちヘラ削りで、内面黒色処理。口縁が玉縁仕上げ。5、6は体部外面下半に手持ちヘラ削りで、底部糸きり後ヘラ削り。口縁は玉縁仕上げ。6の体部外面に墨書「木」。7は体部内面が横なで仕上げで、末広口縁。8、9が体部外面に縦はけめ、内面は横なで仕上げ。8は厚口縁。9は底部に木葉痕。10は内面黒色処理で暗文が施してある。底部ヘラ削り。



第55図 HT−12（2）



第56図 HT−12（3）

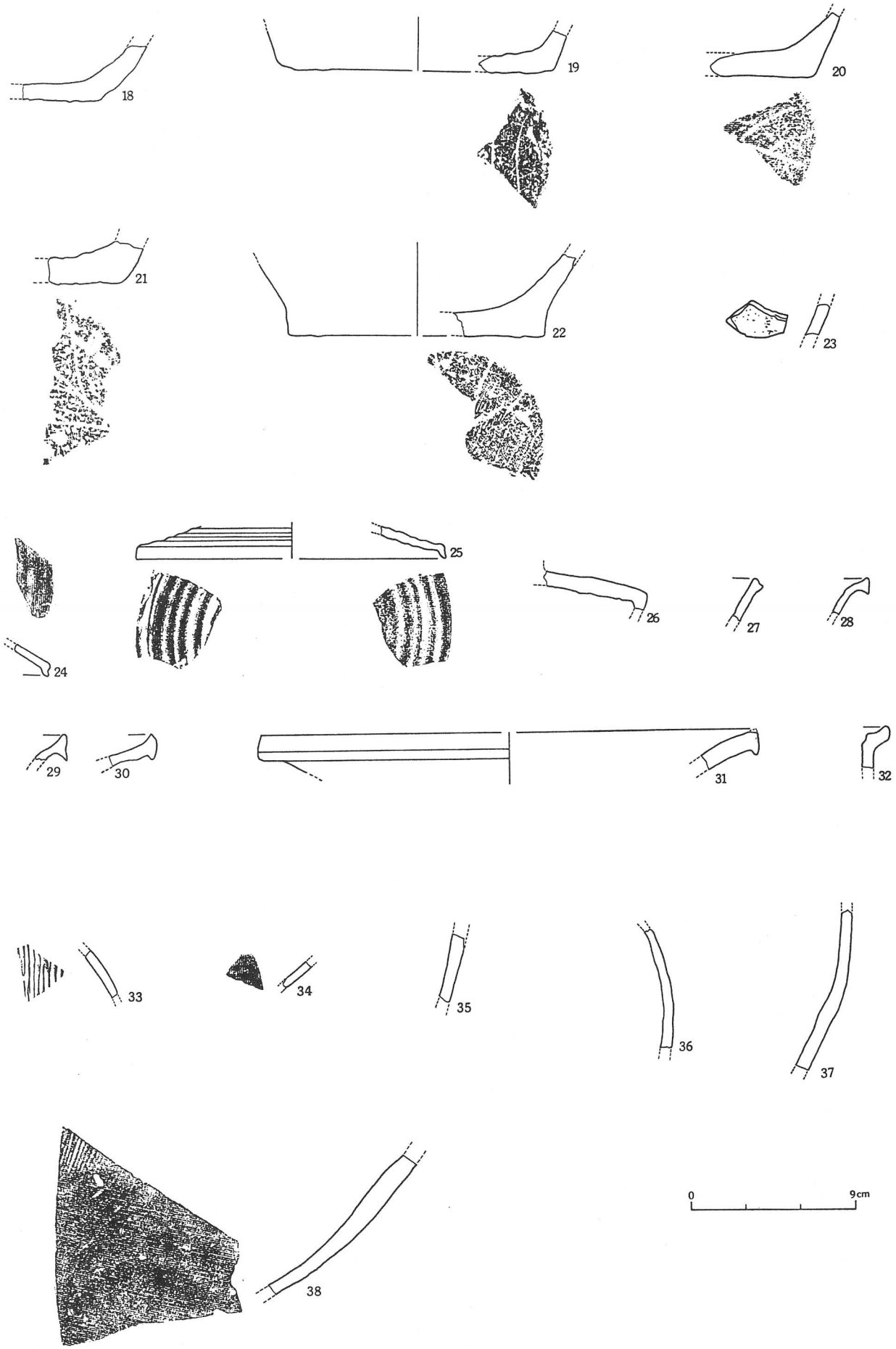
調査区内出土遺物（第57・58図，第5表，図版35・36）

No.	グリット	器種	器　形	備　考
1	B-3	土師器	坏	墨書「□」
2	A-2	土師器	坏	墨書「木？」
3	B-2	土師器		切り込み痕
5	D-3	土師器		穿孔
6	F-2	土師器		墨書「□」
7	C-3	土師器	坏	墨書「□」
8	A-2	土師器	坏	墨書「□」
9	G-3	土師器		墨書「□」
10	C-2	土師器		墨書「□」
11	D-2	土師器		墨書「□」
12	C-2	土師器	坏	
13	F-2	土師器	坏	墨書「□」　甲斐型土器
14	D-3	土師器	坏	
15	D-3	土師器	甕	
16	B-2	土師器	甕	
17	D-2	土師器	甕	
18	C-4	土師器	甕	
19	C-4	土師器	甕	
20	C-2	土師器	甕	
21	C-2	土師器	甕	
22	D-2	土師器	甕	
23	C-2	土師器	坏	
24	C-2	須恵器	蓋	
25	F-2	須恵器	蓋	
26	C-1、C-2	須恵器	横瓶	
27	C-2	須恵器	壺	
28	C-2	須恵器	壺	
29	C-2	須恵器	壺	
30	C-3	須恵器	壺	
31	D-3	須恵器	壺	
32	C-3	須恵器	壺	
33	F-2	須恵器		

No.	グリット	器種	器　形	備　考
34	F-2	須恵器		
35	B-2	須恵器	壺	
36	C-2	須恵器		
37	F-7	須恵器	壺	
38	D-0	須恵器	壺	

第5表 歴史時代調査区内出土遺物

第57図 調査区内出土遺物（1）



第58図 調査区内出土遺物（2）

時期不明

穴　跡（第59～69図，第6表，図版6～8）

ＸＰ－１

遺跡

本跡はＤ－７区に位置する。直径は約0.8m、深さは約0.2m。

ＸＰ－２

遺跡

本跡はＤ－８区に位置する。直径は約１m、深さは約0.3m。埋土はローム粒を少量含む黒褐色土。

ＸＰ－３

遺跡

本跡はＣ－７、Ｃ－８区に位置する。約２m×1.3m、深さは約0.1m。

ＸＰ－４

遺跡

本跡はＣ－７区に位置する。約1.2m×1.4m、深さは約0.4m。埋土はローム塊を含む黒褐色土。

ＸＰ－５

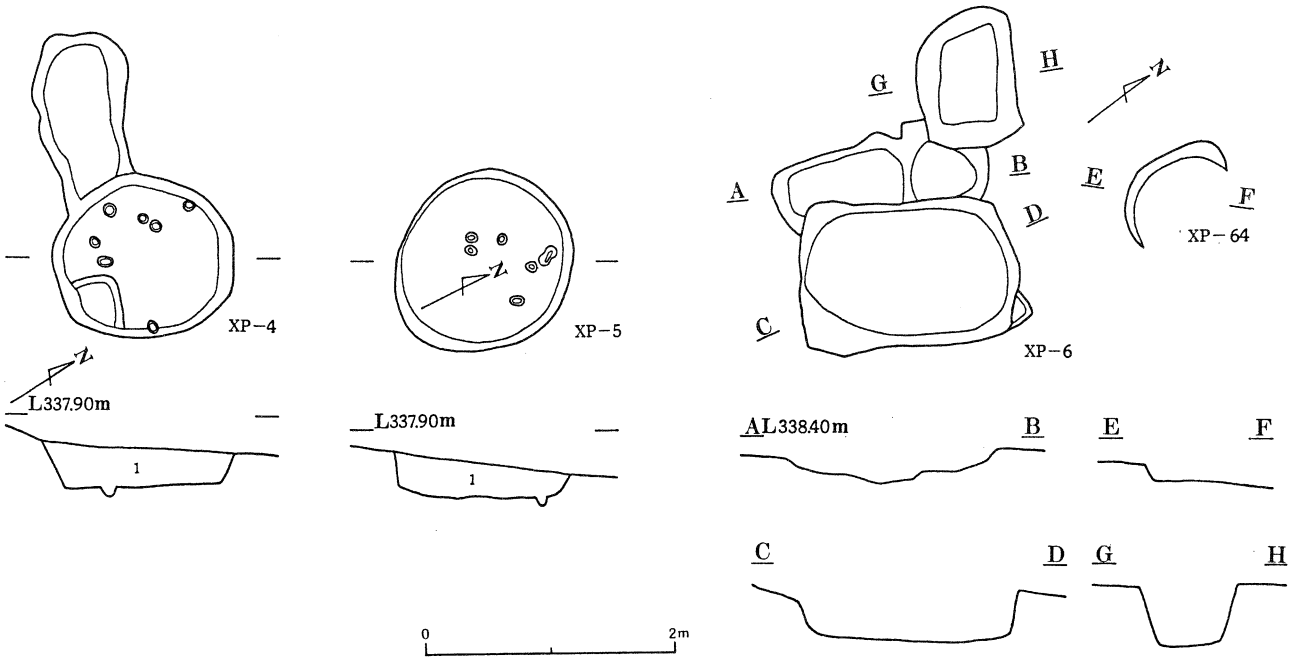
遺跡

本跡はＣ－６区に位置する。直径は約1.4m、深さは約0.35m。埋土はローム塊・粘土混じりの黒色土。

ＸＰ－６

遺跡

本跡はＣ－６区に位置する。約1.7m×2.6m、深さは約0.4m。



第59図 穴跡（1）

ＸＰ－７

遺跡

本跡はＣ－５、Ｃ－６区に位置する。直径は約 1.4m、深さは約 0.5m。

ＸＰ－８

遺跡

本跡はＣ－５区に位置する。直径は約 1.5m、深さは約 0.25m。埋土はローム塊を含む黒褐色土。

ＸＰ－９

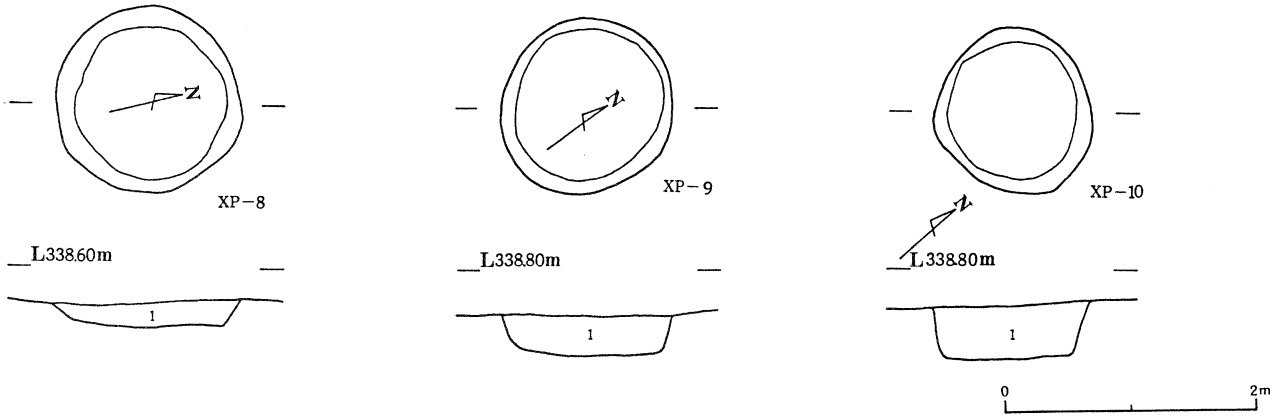
遺跡

本跡はＣ－４区に位置する。直径は約 1.4m、深さは約 0.3m。埋土はローム塊・ローム粒・スコリアを少量含む黒褐色土。

ＸＰ－10

遺跡

本跡はＣ－４区に位置する。直径は約 1.3m、深さは約 0.4m。埋土はローム粒を少量含む褐色土。



第60図 穴跡（2）

第61図 穴跡（3）

ＸＰ－11

遺跡

本跡はＣ－５区に位置する。直径は約 1.4m、深さは約 0.45m。埋土はローム塊を含む黒褐色土。

ＸＰ－12

遺跡

本跡はＣ－５区に位置する。直径は約 1.4m、深さは約 0.45m。

ＸＰ－13

遺跡

本跡はＢ－４、Ｂ－５、Ｃ－４、Ｃ－５区に位置する。約 1.7×1.55m、深さは約 0.3m。

ＸＰ－14

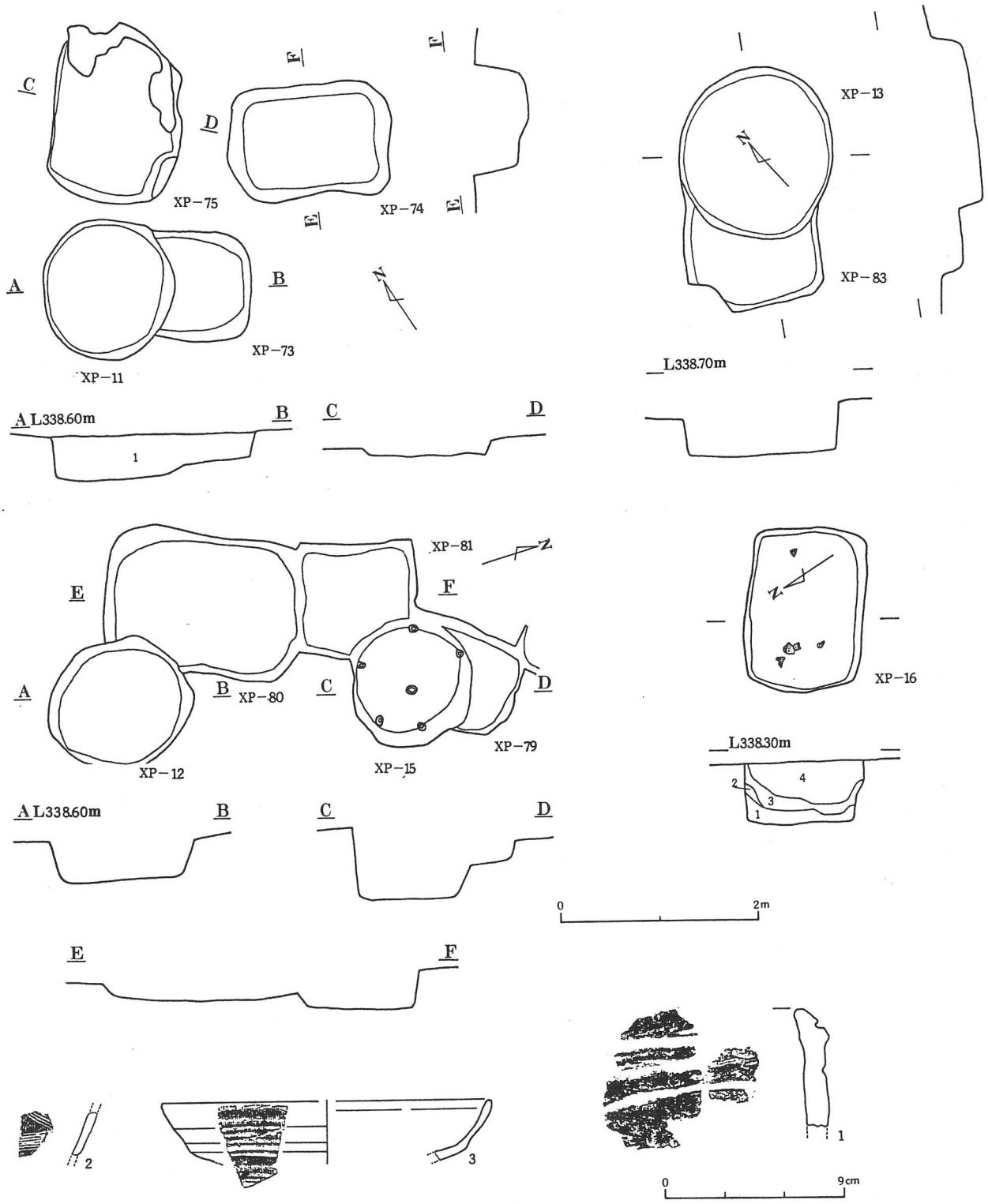
遺跡

本跡はＣ－４区に位置する。直径は約 0.7m、深さは約 0.5m。

ＸＰ－15

遺跡

本跡はＣ－５区に位置する。直径は約 1.3m、深さは約 0.7m。



第62図 穴跡（4）

ＸＰ−16

遺跡

本跡はＢ−３区に位置する。ＸＰ−59は約1.2m×1.65m、深さは約0.6m。埋土は１．ソフトロームを多量に含む黄褐色土、２．ローム粒を少量含む黒褐色土、３．ローム塊を含む黄褐土色、４．ローム粒を含む黒褐色土。

遺物

１は縄文土器の深鉢。２は弥生土器。３は須恵器の坏。

ＸＰ－17・18・19

遺跡

本跡はＢ－２、Ｂ－３区に位置する。ＸＰ－17は直径約1.5m、深さは約0.55m。ＸＰ－18は直径約1.4m、深さは約0.3m。ＸＰ－19は直径約1.1m、深さは約0.1m。

遺物

１は須恵器の坏。

ＸＰ－20

遺跡

本跡はＢ－２、Ｂ－３区に位置する。直径は約1.5m、深さは約0.4m。

遺物

２は縄文土器の深鉢。

ＸＰ－21

遺跡

本跡はＡ－２区に位置する。約2.2m×0.95m、深さは約0.5m。

遺物

３は弥生土器。４は土師器の皿で墨書「□」。

ＸＰ－22

遺跡

本跡はＢ－２区に位置する。直径は約0.7m、深さは約0.2m。

遺物

５は縄文土器の深鉢。

ＸＰ－23

遺跡

本跡はＡ－２、Ｂ－２区に位置する。直径は約1.4m、深さは約0.4m。

遺物

６は縄文土器の深鉢。７は黒曜石。

ＸＰ－24

遺跡

本跡はＢ－２区に位置する。直径は約１m、深さは約0.4m。

ＸＰ－25

遺跡

本跡はＢ－２区に位置する。直径は約１m、深さは約0.25m。

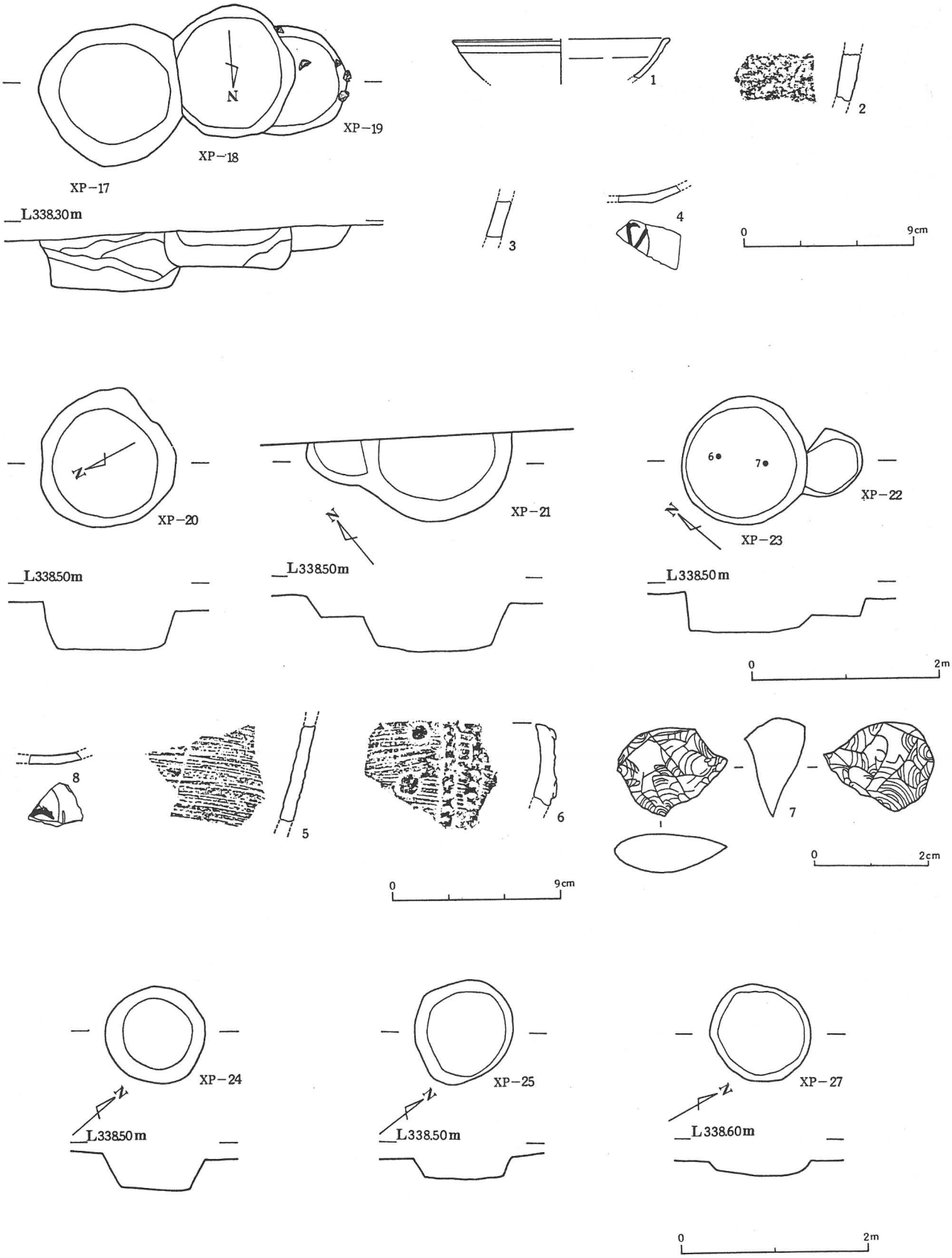
遺物

８は土師器の皿で墨書「□」。

ＸＰ－26

遺跡

本跡はＨＴ－７内、Ｂ－２区に位置する。直径は約１.１m、深さは約0.36m。


XP−17
XP−18
XP−19
N
L338.30m
1
2
3
4
0
9cm
XP−20
XP−21
XP−22
XP−23
L338.50m
L338.50m
L338.50m
6
7
0
2m
8
5
6
7
0
9cm
0
2cm
XP−24
XP−25
XP−27
L338.50m
L338.50m
L338.60m
0
2m

第63図 穴跡（5）

ＸＰ－27

遺跡

本跡はＡ－２区に位置する。直径は約１m、深さは約0.2m。

ＸＰ－28

遺跡

本跡はＢ－２区に位置する。直径は約1.2m、深さは約0.2m。

ＸＰ－29

遺跡

本跡はＡ－２、Ｂ－２区に位置する。直径は約1.3m、深さは約0.5m。埋土は１．ローム塊を含む黒褐色土、２．ローム粒を含む黒褐色土、３．ローム粒を少量含む黒褐色土、４．ローム塊を多量に含む黒褐色土、５．ローム粒を多量に含む黒褐色土。

遺物

1,2,3は縄文土器の深鉢。５は黒曜石。４は弥生土器。

ＸＰ－30

遺跡

本跡はＢ－２区に位置する。直径は約1.1m、深さは約0.6m。埋土はローム塊を含む黒褐色土。

ＸＰ－31

遺跡

本跡はＢ－１、Ｂ－２区に位置する。直径は約1.2m、深さは約0.2m。

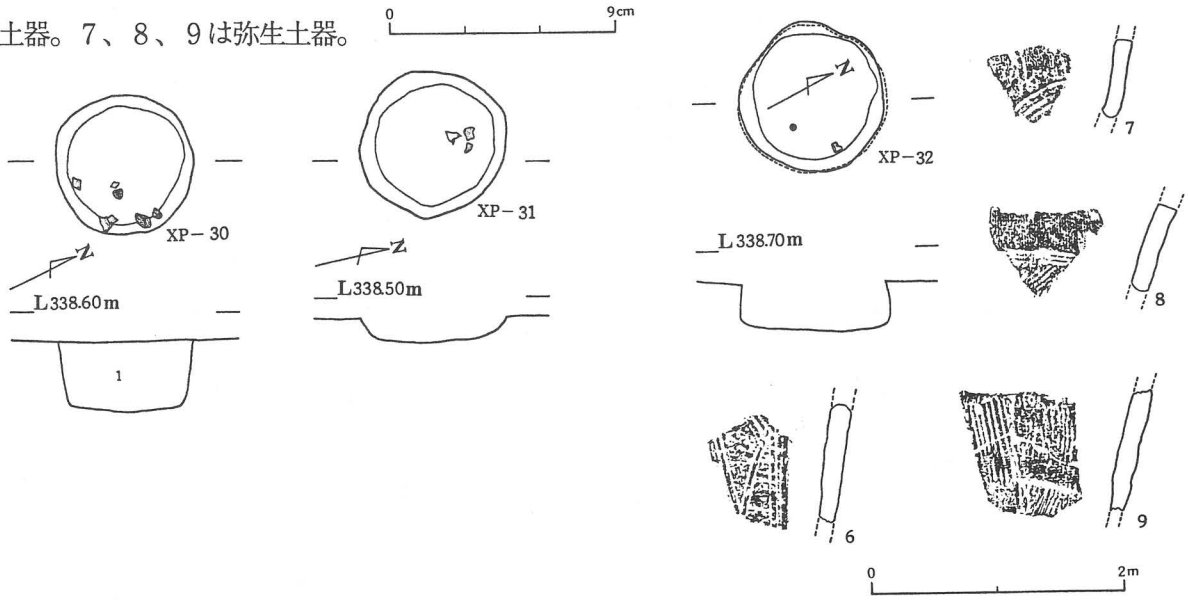
ＸＰ－32

遺跡

本跡はＣ－１区に位置する。直径は約1.2m、深さは約0.4m。

遺物

６は縄文土器。７、８、９は弥生土器。



第64図 穴跡（6）

ＸＰ－33

遺跡

本跡はＣ－２区に位置する。直径は約 1.2m、深さは約 0.5m。

遺物

１、２は縄文土器の深鉢。

ＸＰ－34

遺跡

本跡はＤ－２区に位置する。直径は約 1.5m、深さは約 0.5m。

遺物

３は土師器の小甕。

ＸＰ－35

遺跡

本跡はＤ－１区に位置する。直径は約 1.1m、深さは約 0.5m。

ＸＰ－36

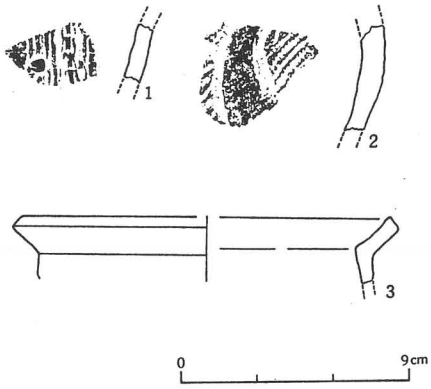
遺跡

本跡はＧ－３区に位置する。直径は約 1.4m、深さは約 0.25m。

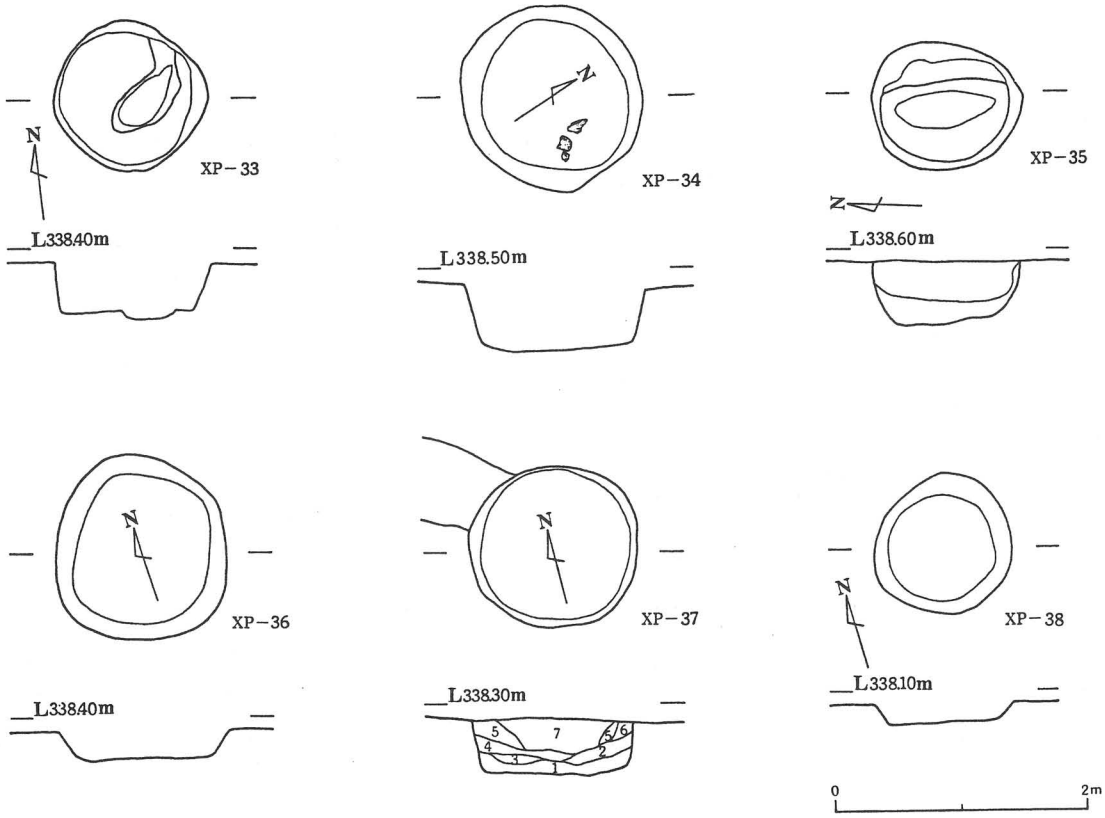
ＸＰ－37

遺跡

本跡はＧ－５区に位置する。直径は約 1.4m、深さは約 0.45m。埋土は１．ローム塊を含む黒褐色土、２．ローム塊を少量含む黄黒色土、３．スコリアを少量含む黒色土、４．スコリアを多量に含む黄黒褐色土、５．ローム塊・スコリアを含む黄黒褐色土、６．４．に同じ、７．ローム粒・スコリアを含む黒褐色土。



第 65 図 穴跡（7）



第 66 図 穴跡（8）

ＸＰ－38

遺跡

本跡はＧ－５区に位置する。直径は約 1.1m、深さは約 0.15m。

ＸＰ－39

遺跡

本跡はＦ－５、Ｇ－５区に位置する。直径は約 1.1m、深さは約 0.15m。

ＸＰ－40

遺跡

本跡はＥ－５区に位置する。約 1.5m×1.7m、深さは約 0.3m。埋土は１．ローム塊を含む黄色土、２．ローム粒を含む褐色土、３．ローム粒を含む黒褐色土、４．ローム粒を含む黄褐色土。

ＸＰ－41

遺跡

本跡はＥ－６区に位置する。約 1.5m×1.2m、深さは約 0.25m。

遺物

１は須恵器の壺。

ＸＰ－42

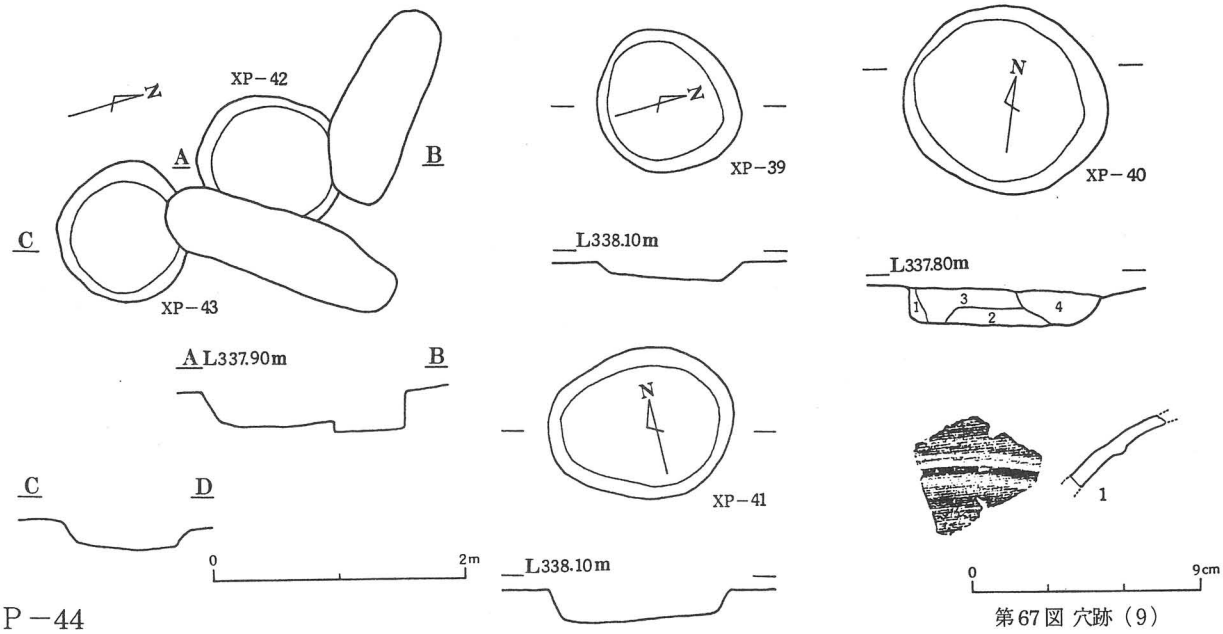
遺跡

本跡はＤ－５区に位置する。約 1.1m×0.9m、深さは約 0.3m。

ＸＰ－43

遺跡

本跡はＤ－５区に位置する。直径は約 1.05m、深さは約 0.2m。



第67図 穴跡（9）

ＸＰ－44

遺跡

本跡はＢ－２区に位置する。約 1.8m×1.5m、深さは約 0.6m。

遺物

１は須恵器の壺。

ＸＰ－45

遺跡

本跡はＢ－３区に位置する。直径は約1.55m、深さは約0.25m。埋土は１．ソフトロームを多量に含む黄褐色土、２．ローム塊を含む黄褐色土、３．黒褐色土。

遺物

２は土師器の坏系鉢。

ＸＰ－46

遺跡

本跡はＧ－２区に位置する。直径は約0.8m、深さは約0.1m。

ＸＰ－47

遺跡

本跡はＣ－１区に位置する。約１m×0.85m、深さは約0.3m。

ＸＰ－48

遺跡

本跡はＣ－１区に位置する。約１m×0.3m、深さは約0.3m。

ＸＰ－49

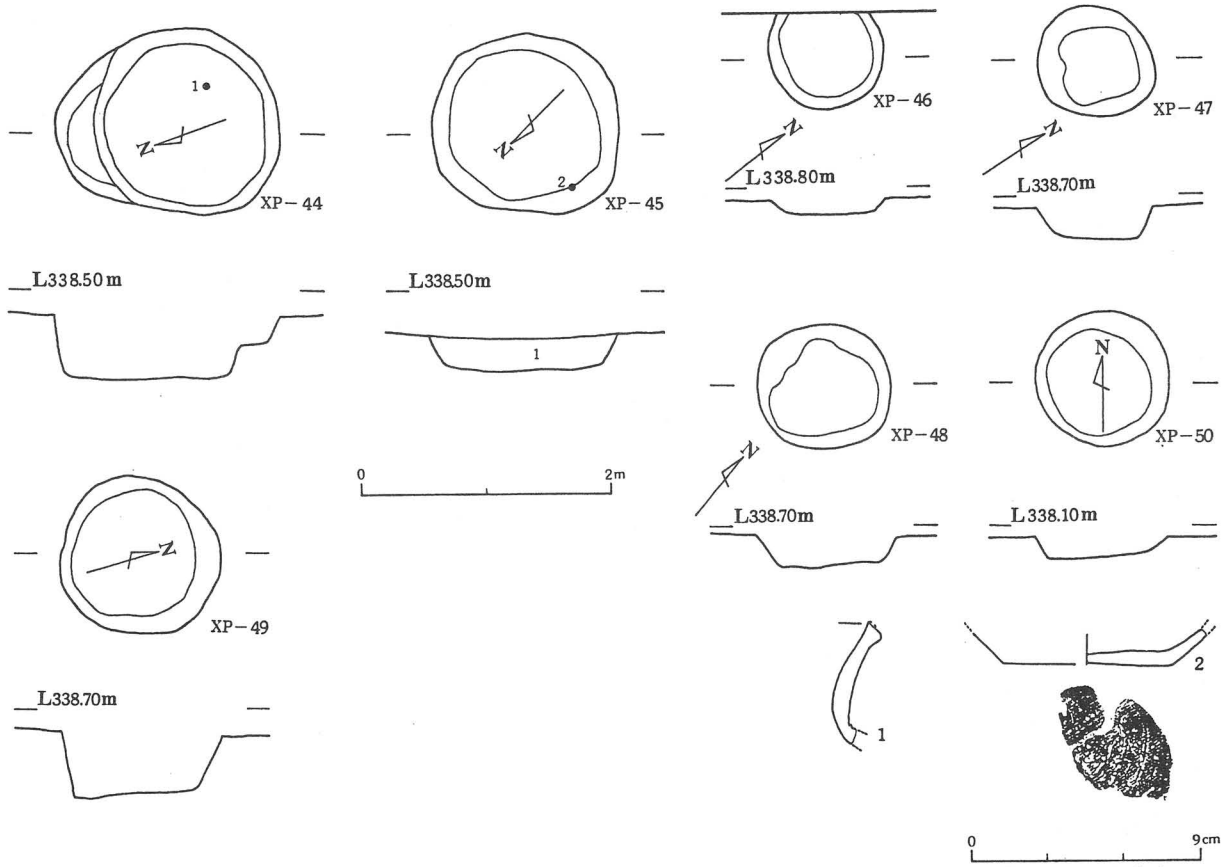
遺跡

本跡はＣ－１、Ｄ－１区に位置する。直径は約1.3m、深さは約0.5m。

ＸＰ－50

遺跡

本跡はＥ－６区に位置する。直径は約1.1m、深さは約0.2m。



第68図 穴跡（10）

ＸＰ－51

遺跡

本跡はＥ－５区に位置する。直径は約 1.1m、深さは約 0.2m。

ＸＰ－53

遺跡

本跡はＦ－３区に位置しHO－２と切りあっている。直径は約 1.2m、深さは約 0.6m。

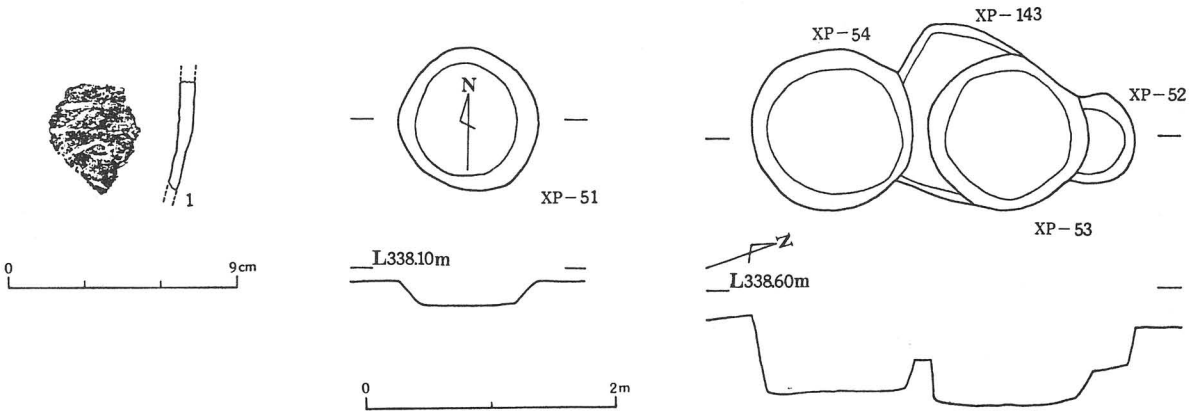
ＸＰ－54

遺跡

本跡はＦ－３区に位置しHO－２と切りあっている。直径は約 1.3m、深さは約 0.6m。

遺物

１は弥生土器。



第69図 穴跡（11）

撹乱等穴跡

(単位：m)

遺跡記号番号	位　置	サイズ	深さ	備　考
XP−55	F−7	1.2	0.5	
XP−56	F−7	1.1	0.27	
XP−57	E−7	1.5*0.8	0.32	
XP−58	D−8	0.7	0.2	
XP−59	D−8	1.1	0.5	
XP−60	D−6			
XP−61	D−6,D−7	1*2.35	0.13	
XP−62	C−7	1.5	0.2	
XP−63	C−7	2.8*1.1	0.58	
XP−64	C−6	0.9	0.14	
XP−65	C−5,C−6	1.55*2.25	0.32	
XP−66	C−5	1.3	0.33	
XP−67	C−5	0.3	0.13	
XP−68	C−4	1	0.14	
XP−69	C−4	1	0.67	
XP−70	C−4	1.2*2	0.56	
XP−71	B−5	1.2	0.22	
XP−72	C−5,C−6			
XP−73	C−5	1.2	0.21	
XP−74	C−5	1.6*1.1	0.52	
XP−75	C−5	1.3*1.8	0.15	
XP−76	C−5,D−5	1.1*1.6	0.61	
XP−77	C−5	1.15*1.5	0.13	
XP−78	C−5	1.3*1	0.1	
XP−79	C−5	1.1	0.24	
XP−80	C−5	2.05*1.4	0.15	
XP−81	C−5	1.2	0.4	
XP−82	C−4	1.45*1.9	0.29	
XP−83	C−4	1.2*1.4	0.26	
XP−84	B−3	1.3*1.18	0.46	
XP−85	B−3	1.01*1.2	0.32	
XP−86	B−3			
XP−87	B−3	1.4	0.1	
XP−88	B−3	1.5	0.27	
XP−89	B−2	1.85*1.25	0.69	
XP−90	B−1	1.4*1.25	0.3	

遺跡記号番号	位　置	サイズ	深さ	備　考
XP－91	B-1	1.8*1.2	0.2	
XP－92	C-1	1.0*1.3	0.2	
XP－93	C-1	1.2*0.85	0.2	
XP－94	C-2	1.24	0.49	
XP－95	C-2			
XP－96	D-3	1.45*1.24	0.25	
XP－97	D-3			
XP－98	D-3			
XP－99	G-2	1.1*0.68	0.15	
XP－100	G-2	1.04*0.58	0.46	
XP－101	G-2			
XP－102	G-3,H-3	1.12	0.21	
XP－103	G-3	1.9	0.22	
XP－104	F-3	1.65*1.1	0.21	
XP－105	G-4,G-5,H-4			
XP－106	H-5			
XP－107	H-5			
XP－108	H-5			
XP－109	H -4,I-4	1.3*0.9	0.31	
XP－110	H-4			
XP－111	H-4			
XP－112	G-5			
XP－113	F-5 ,F-6			
XP－114	F-5	1.27	0.55	
XP－115	E-6			
XP－116	E-6			
XP－117	E-5			
XP－118	G-5			
XP－119	B-2	1.7*1.07	0.18	
XP－120	A-2	1.9*1.1	0.4	
XP－121	B-3	1.1*1.6	0.36	
XP－122	E-3	0.94	0.52	
XP－123	E-2,E-3	1.42*1.07	0.35	
XP－124	C-1	1.8*1.15	0.19	
XP－125	C-1	0.6	0.3	

遺跡記号番号	位　置	サイズ	深　さ	備　考
XP－126	G-5			
XP－127	E-6			
XP－128	D-6	1.13*0.95	0.2	
XP－129	D-3			
XP－130	F-3,F-4	1*0.75	0.11	
XP－131	F-3	1.35*1.6	0.67	
XP－132	F-0	1.4	0.44	
XP－133	F-1	1.2	0.46	
XP－134	F-1	1.14	0.35	
XP－135	F-1	0.45	0.3	
XP－136	F-0	1.45	0.6	
XP－137	F-0	1.72	0.3	

第6表 攪乱等穴跡

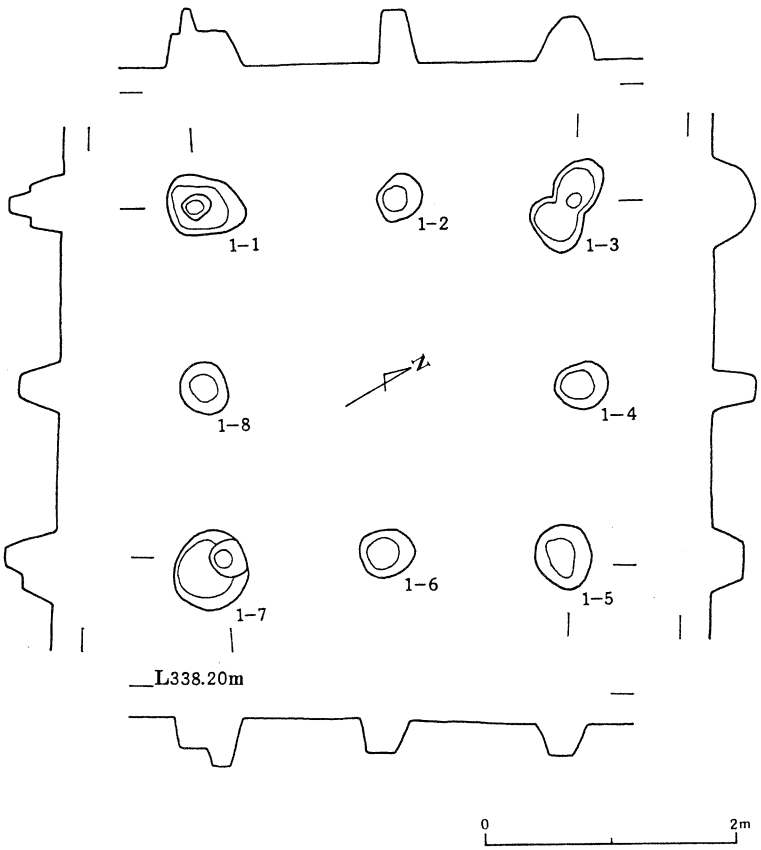
掘建柱建物跡（第70・71図）

掘建柱建物跡は周囲を住居跡に囲まれた調査区中央付近に2棟確認した。

ＨＯ－１

遺跡

本跡はＤ－５、Ｅ－５区に位置する。２間×２間で一辺約2.7mの方形である。柱穴1－1は63cm×48cmで深さ43cm。1－2は直径36cmで深さ42cm。1－3は49cm×68cmで深さ34cm。1－4は33cm×42cmで深さ34cm。1－5は43cm×52cmで深さ25cm。1－6は直径40cmで深さ27cm。1－7は直径56cmで深さ38cm。1－8は直径40cmで深さ32cm。

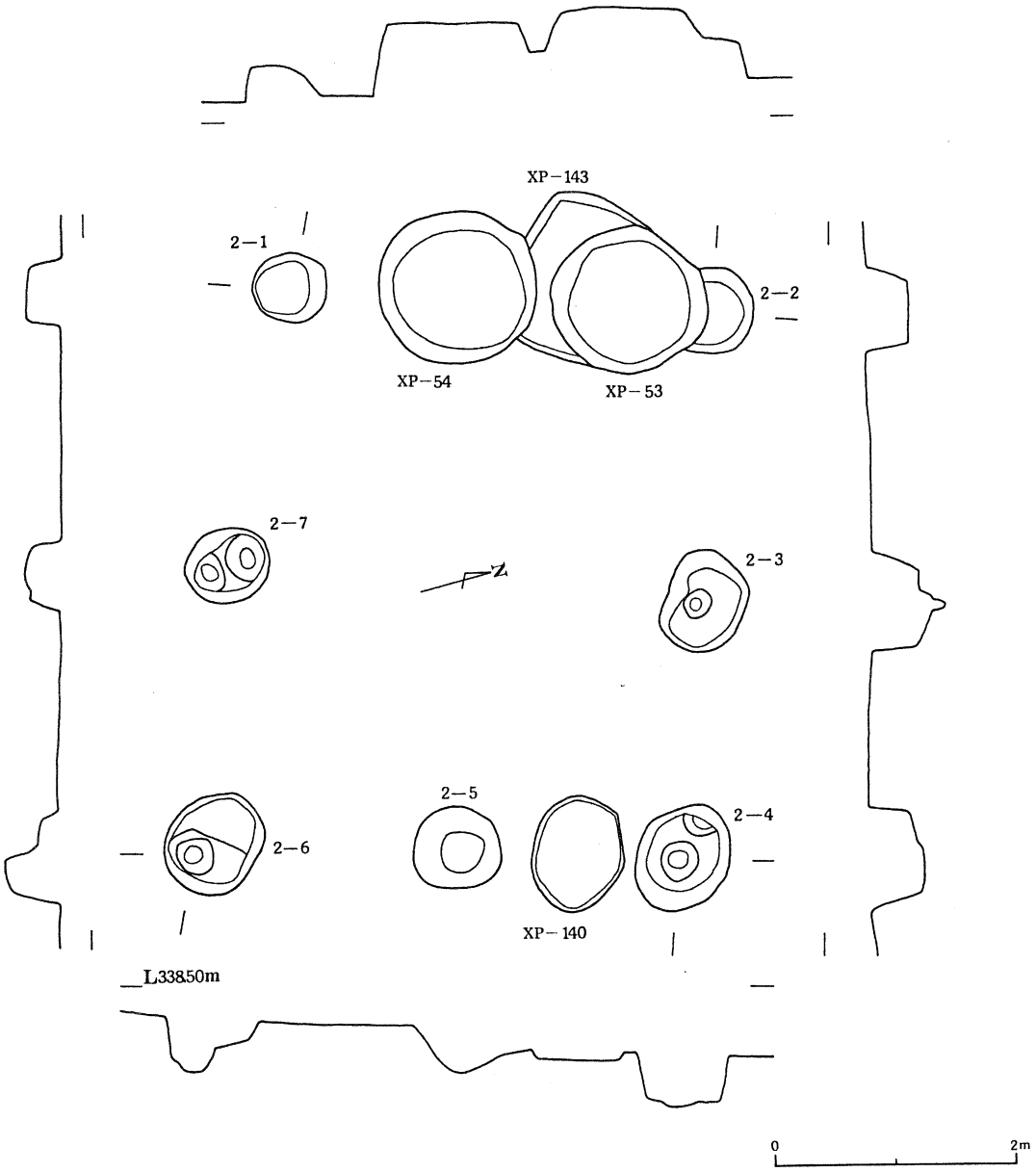


第70図 HO－1

ＨＯ－２

遺跡

本跡はＥ－３、４、Ｆ－３、４区に位置する。２間×２間の東西棟で、桁行約４ｍ、梁行約3.7ｍ。柱穴２－１は直径60cmで深さ30cm。２－２は直径70cmで深さ30cm。２－３は58cm×70cmで深さ60cm。２－４は95cm×75cmで深さ48cm。２－５は直径70cmで深さ43cm。２－６は90cm×70cmで深さ45cm。２－７は直径70cmで深さ43cm。



第71図 HO－2

溝　跡（第72～77図，図版8）

溝跡は調査区中央を南北に縦断し、区域外へ続いている。

XM－1

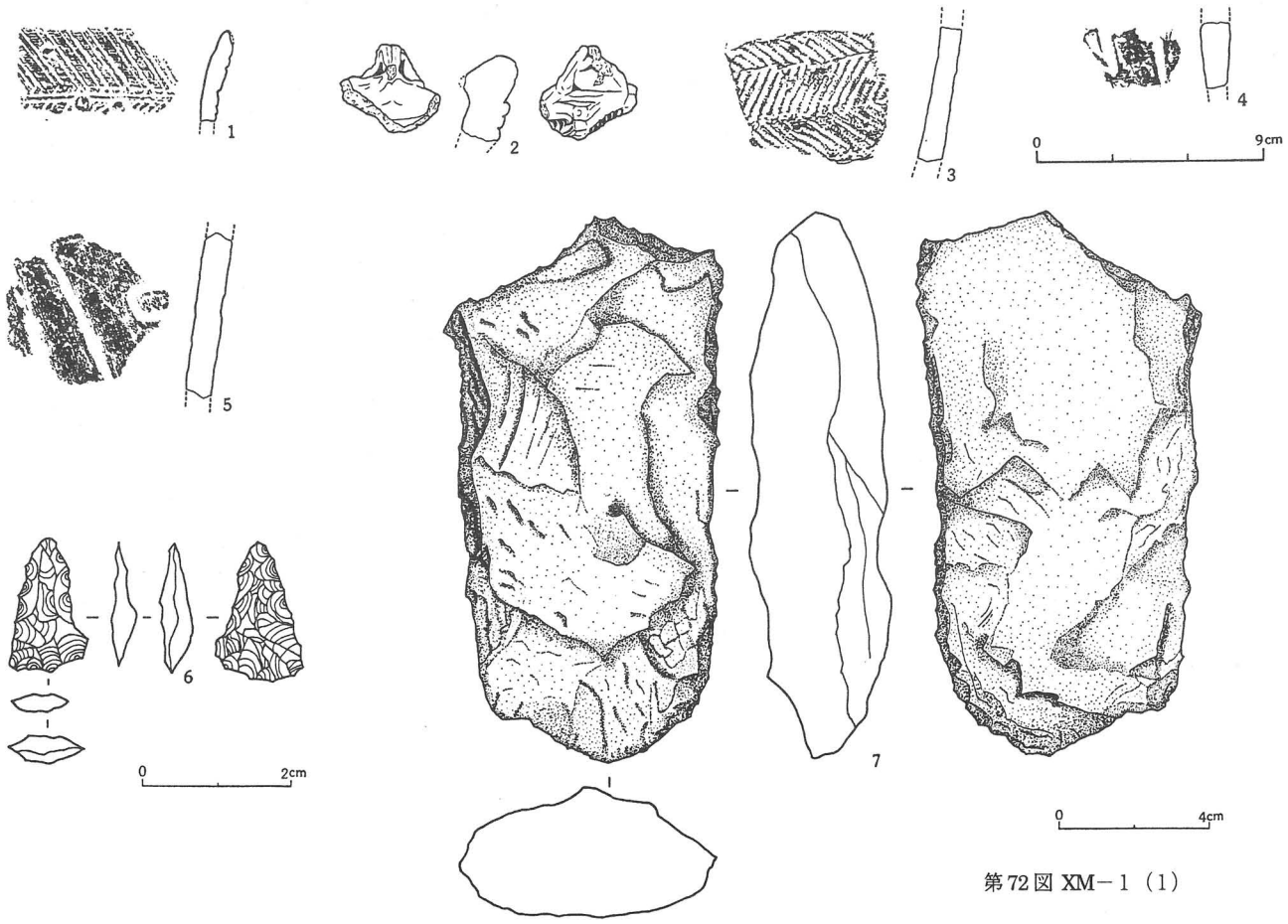
遺跡

本跡はG－2、F－2、E－2、E－3、D－3、C－3、B－3区に位置する。幅約1.4m、深さ約0.4mである。

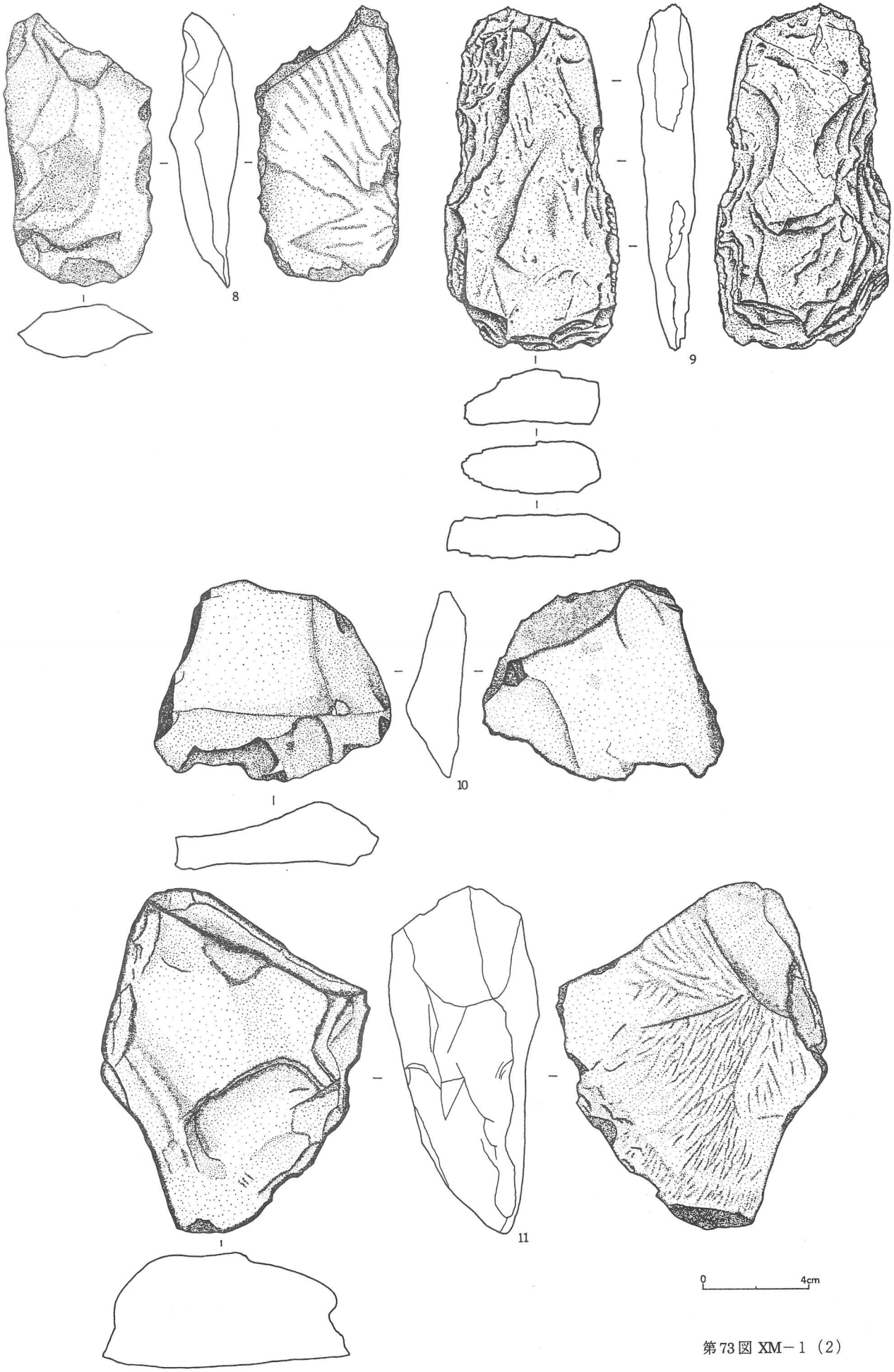
遺物

遺跡記号番号	器　種	器　形	備　考
1	縄文	深鉢	
2	縄文	深鉢	
3	縄文	深鉢	
4	縄文	深鉢	
5	縄文	深鉢	
6	黒曜石	鏃	
7	石器	石斧	
8	石器	石斧	
9	石器	石斧	
10	石器	石斧	
11	石器		
12	石器		
13	石器	砥石	
14	弥生		
15	土師器	坏	穿孔

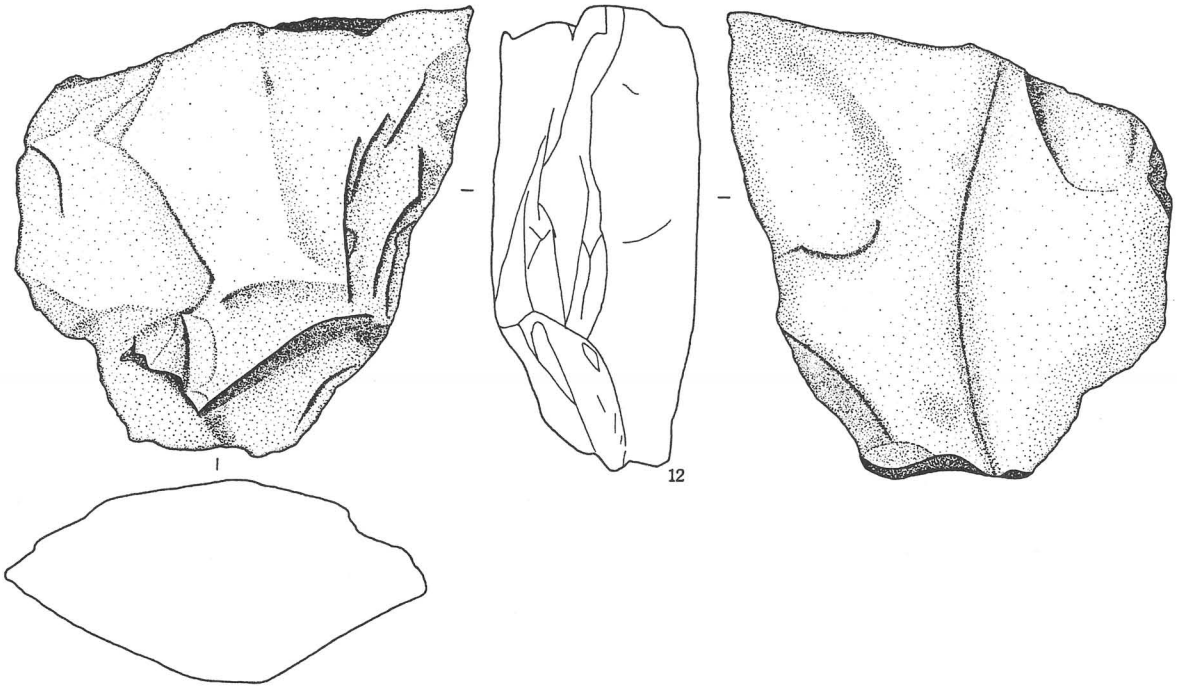
第7表 溝跡出土遺物

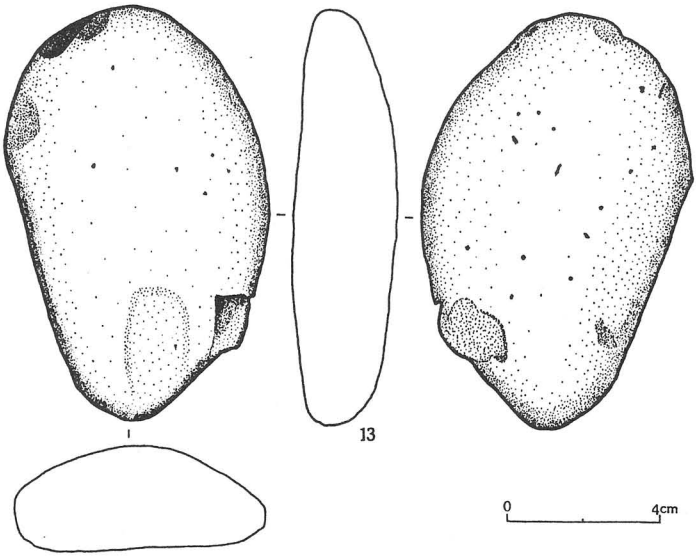


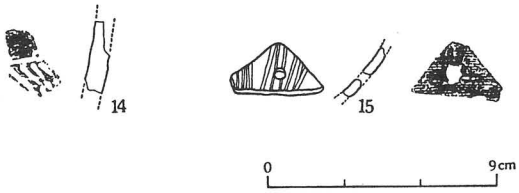
第72図 XM－1（1）



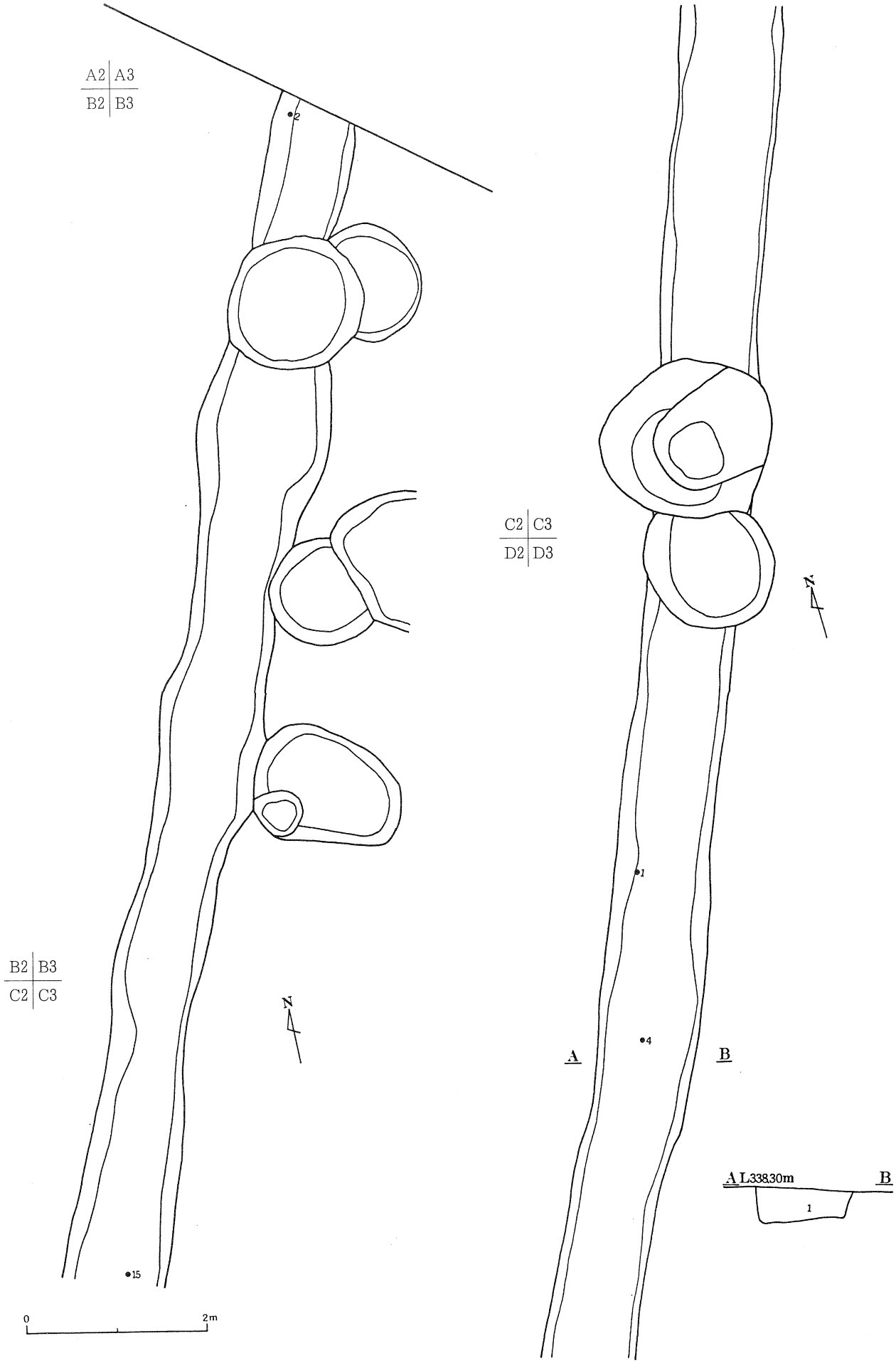
第73図 XM－1（2）



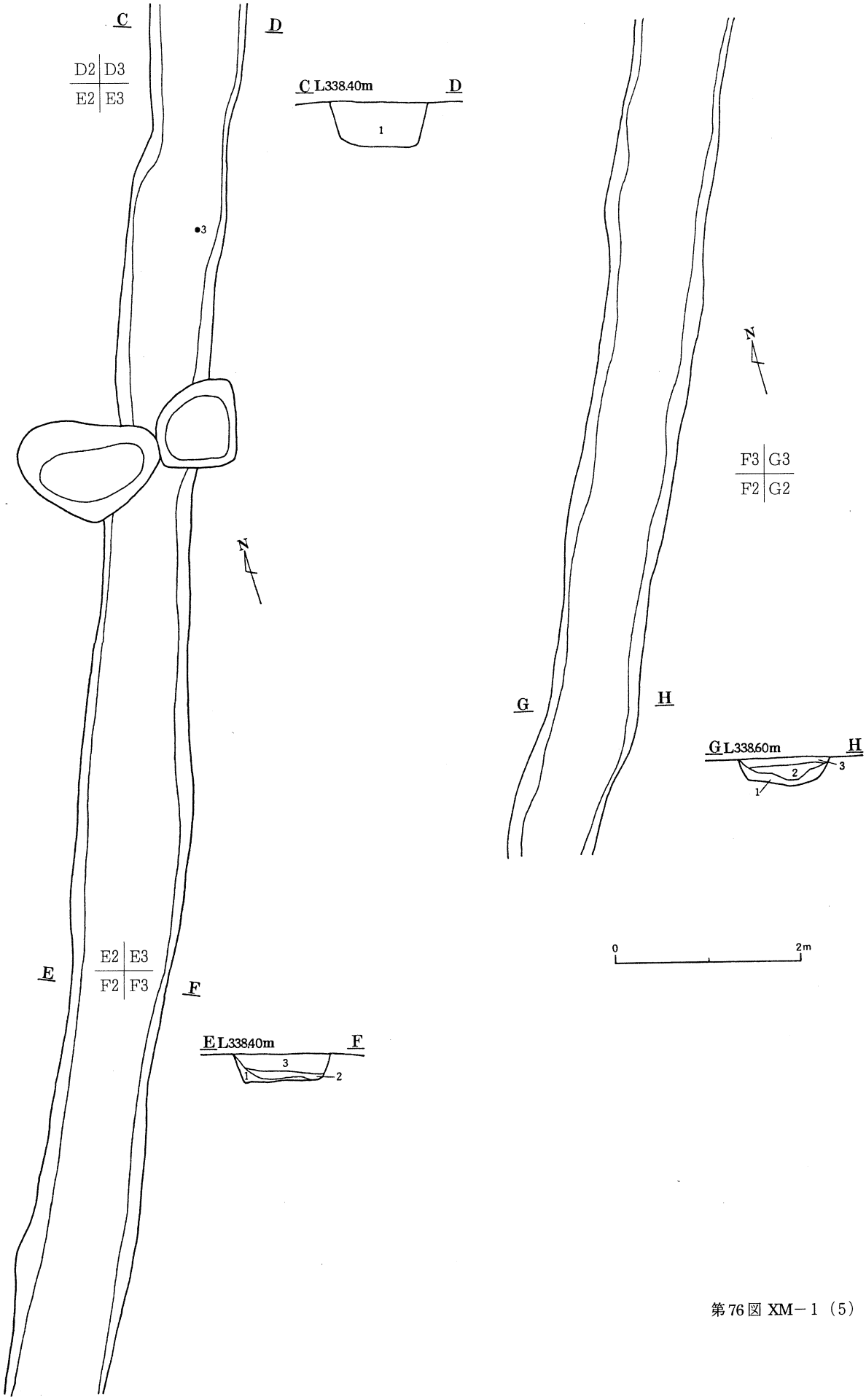




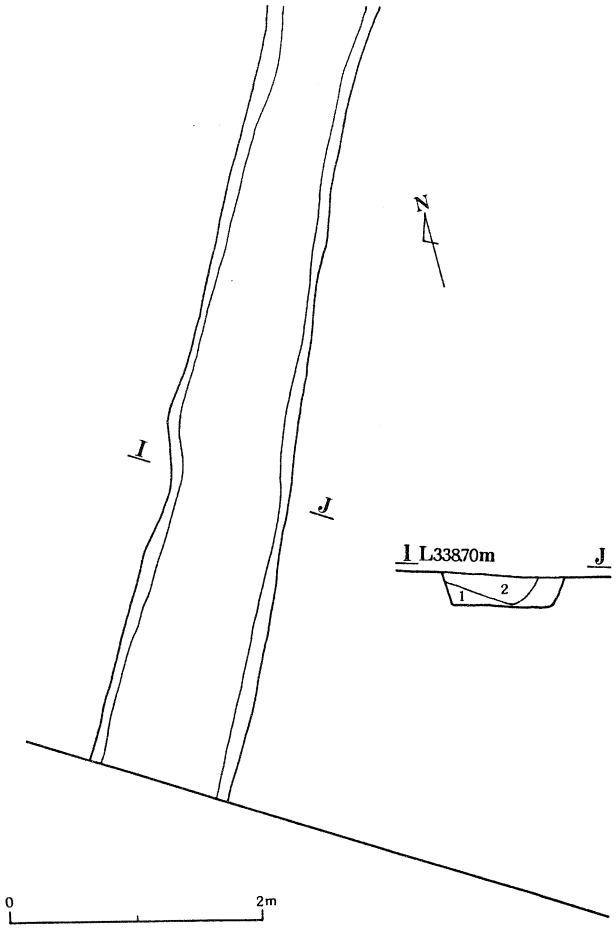
第74図 XM－1（3）



第75図 XM－1（4）


C
D
D2 D3
E2 E3
C L338.40m
D
1
3
N
F3 G3
F2 G2
G
H
G L338.60m
H
1
2
3
0
2m
E
E2 E3
F2 F3
F
E L338.40m
F
1
2
3

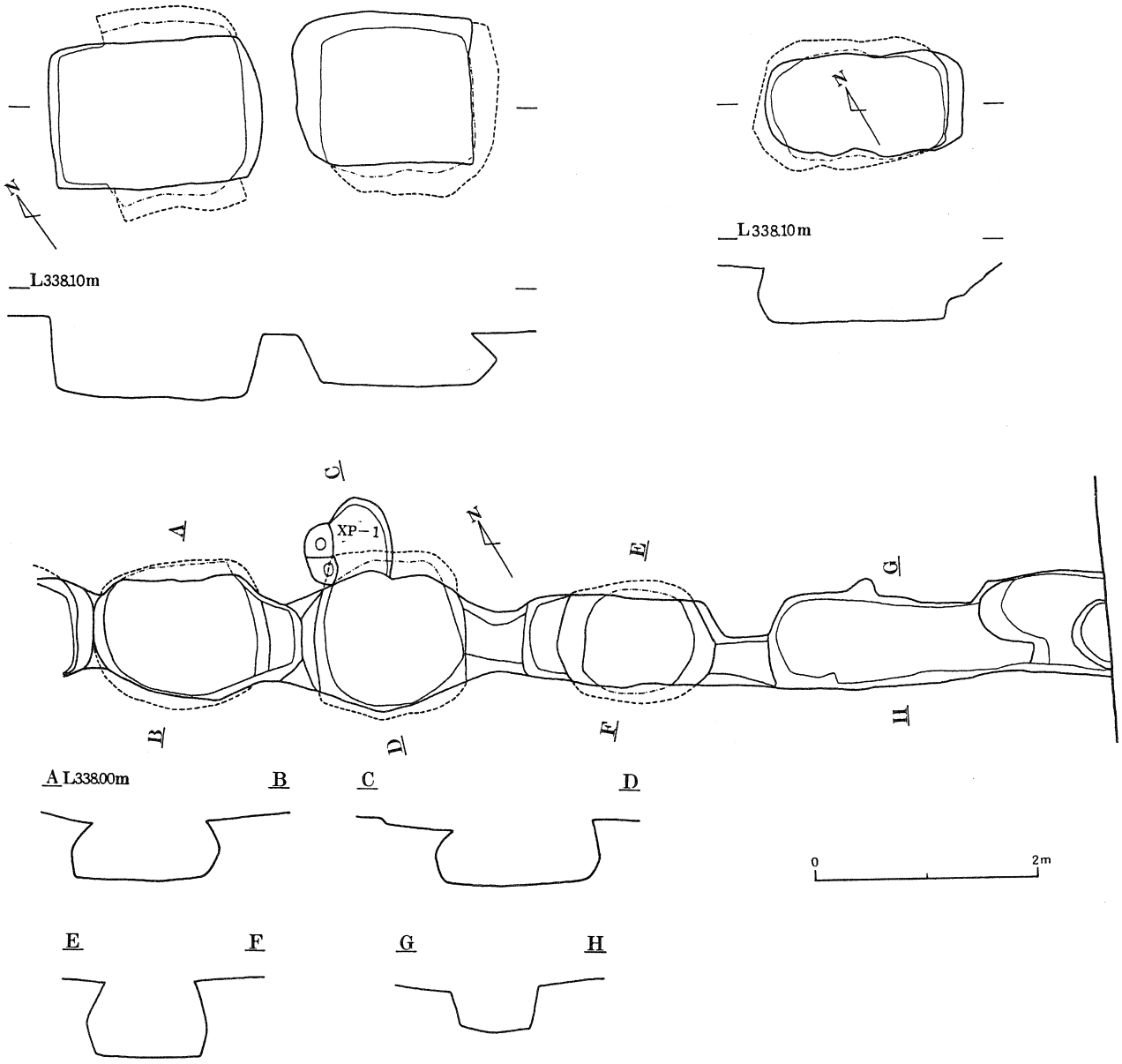
第76図 XM－1（5）



第77図 XM－1（6）

その他（第78図，図版8）

溝状の遺跡でD－6、D－7、E－7、E－8区に位置し、東側の区域外へ続いている。掘り込みによる撹乱を受けているため性格は不明である。掘り込みはいずれも袋状になっている。



第78図 その他（溝状遺跡）

結び

本遺跡は主に平安時代の集落跡で、12軒の竪穴式住居、2棟の掘建柱建物跡、溝跡、縄文時代の落とし穴等を確認した。

縄文時代については、住居跡はなく落とし穴6基を確認した。この事からも同区域は、居住の場というよりはむしろ狩猟の場であって、縄文集落はさらに北西にあるものと考えられる。

また、弥生時代については、遺跡を伴わず遺物のみ確認した。これまで大月市域では、弥生時代の遺跡、遺物出土例が少なく、今回の出土で大月の弥生時代に新たな資料が加わった。

平安時代について住居からの出土遺物を見ると、1～4号、9～12号住居跡から甲斐型土器が出土し墨書も多い。5～8号住居跡からはさらに古い土器が出土している。また、鉄鏃、刀子、紡錘車といった鉄製品なども出土している。なお、住居跡出土の甲斐型土器は第8・9表の様になると思われる。

これらの結果および近隣の遺跡から見てもわかるように、この地区には古くからの人々の生活の痕跡が残されているが、中でも平安時代に入ると集落が形成され活況を呈したことが窺える。

	坏
Ⅳ	HT2－12
Ⅵ	HT2－6　HT2－7
Ⅶ	HT1－1　HT2－5　HT2－8　HT2－13　HT2－14　HT9－4　HT9－6　HT9－16
Ⅷ	HT4－5　HT9－5　HT9－7　HT9－8　HT9－12　HT9－13　HT9－18　HT9－19　HT9－20　HT10－5　HT11－2　HT11－3
Ⅻ	HT12－6

	皿
Ⅸ	HT2－19　HT2－25　HT2－28　HT10－4
Ⅹ	HT2－20　HT2－21　HT2－24　HT10－2　HT10－6　HT10－7
Ⅺ	HT2－17　HT3－1　HT3－2　HT3－3　HT3－4　HT3－5　HT4－8　HT9－24　HT11－7　HT12－1　HT12－2　HT12－3
Ⅻ	HT1－2　HT2－11

第8表 甲斐型土器（1）

	大　甕	小　甕
Ⅵ	HT11−14	
Ⅶ～Ⅸ		
Ⅹ	HT1−4　HT2−32	
Ⅺ	HT2−33　HT2−34　HT3−11　HT10−8　HT11−10　HT11−11　HT11−10　HT11−13　HT12−8	
Ⅻ		
ⅩⅢ		HT1−4　HT3−13　HT3−16　HT12−7

※山梨県考古学協会 甲斐型土器研究グループ第１回研究集会資料参照

第９表 甲斐型土器（２）

図　　版

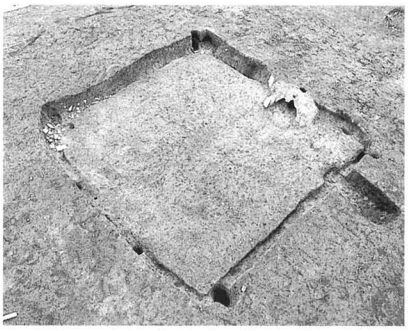
遺跡全景

図版 2

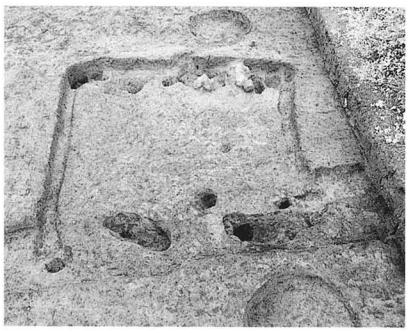
遺跡遠景（西から）

遺跡遠景（東上空から）

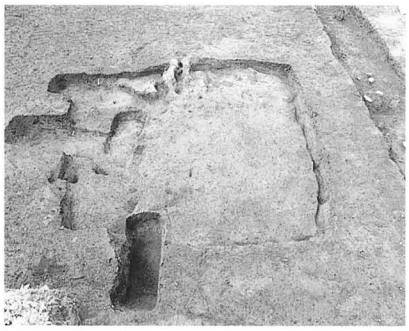
HT－1



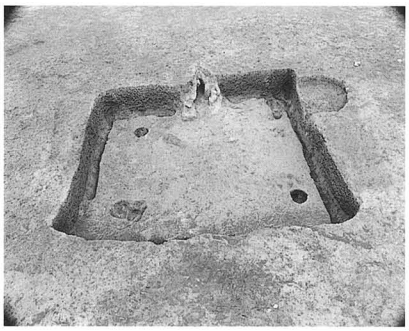
HT－2



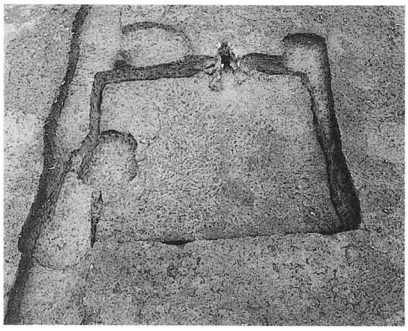
HT－3



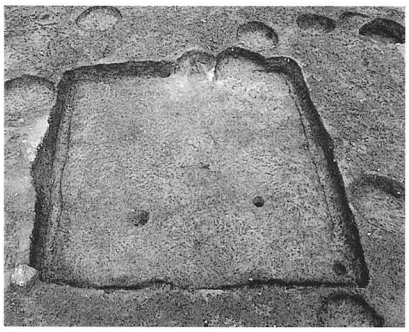
HT－4



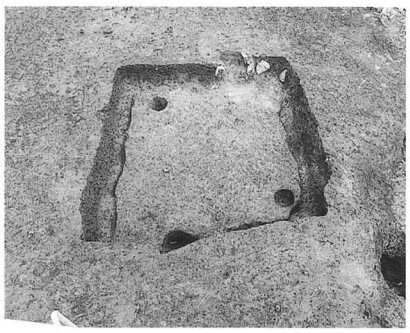
HT－5



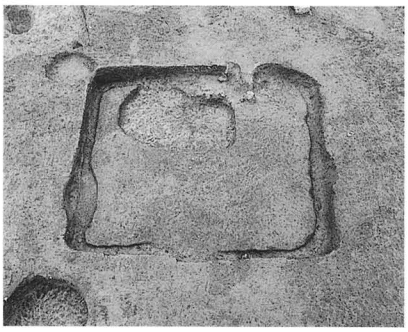
HT－6



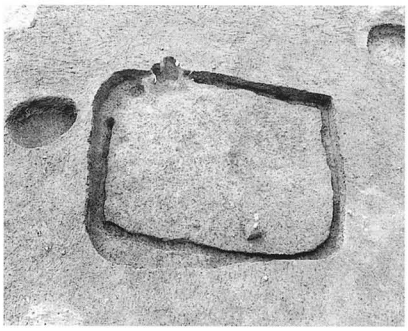
HT－7



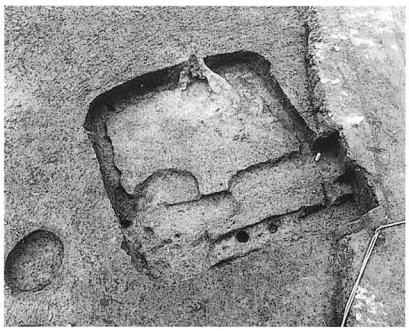
HT－8



HT－9



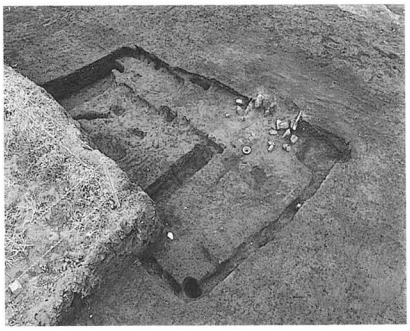
HT－10



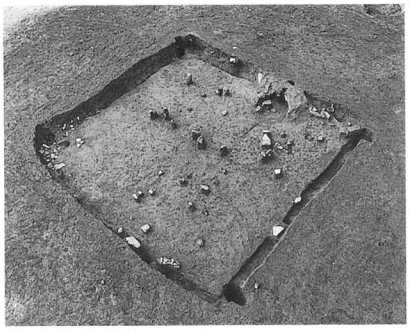
HT－11

HT－12

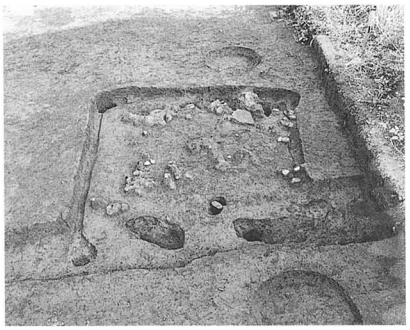
図版 4



HT－1

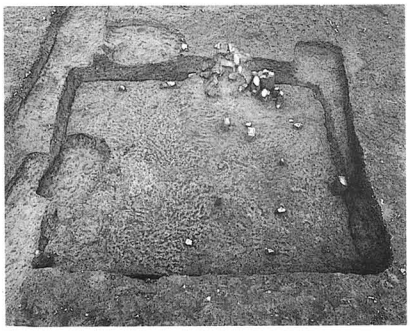


HT－2

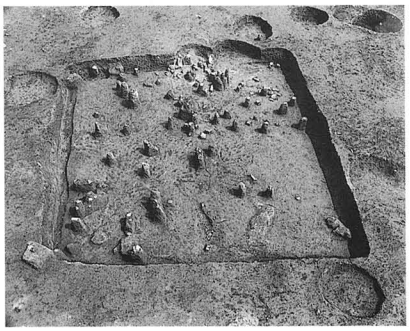


HT－3

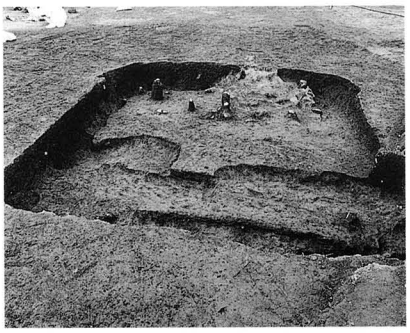
HT－4



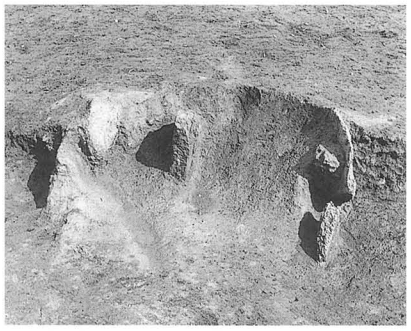
HT－6



HT－7

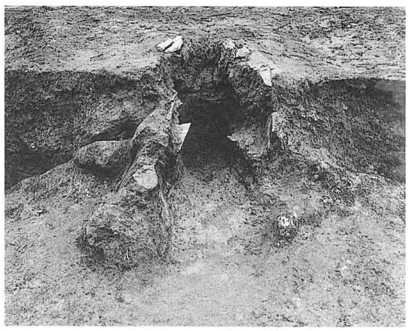


HT－11



HT－1

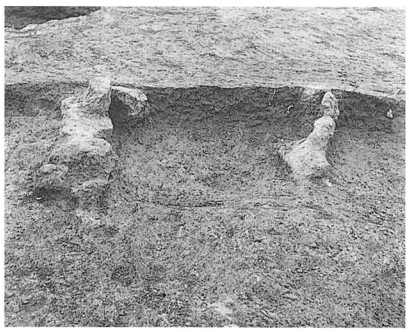
HT－2



HT－6

HT－7

HT－9



HT－12

HT－5　刀子

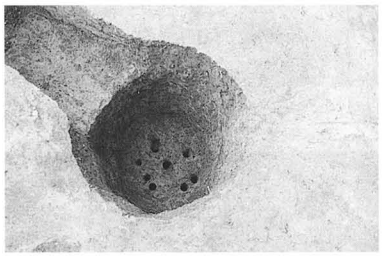
HT－10　紡錘車

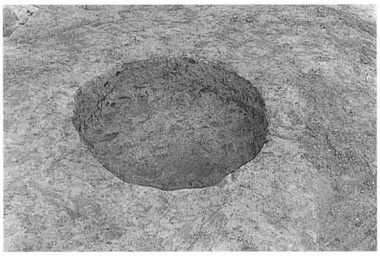
図版 6

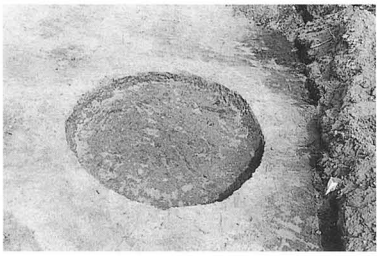
XP－2

XP－4

XP－6

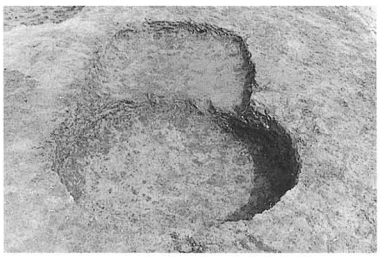

JD－1

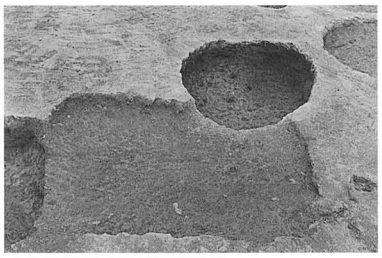

XP－7


XP－8

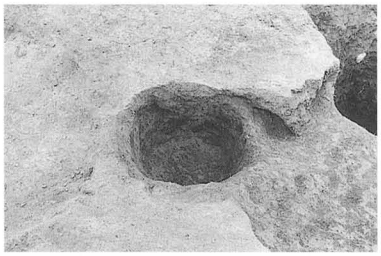
XP－9

XP－10

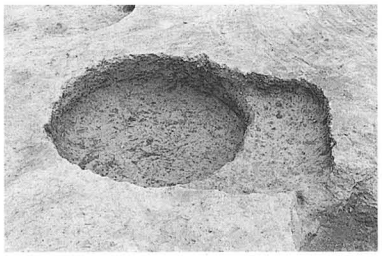

XP－11.73.43


XP－80.12

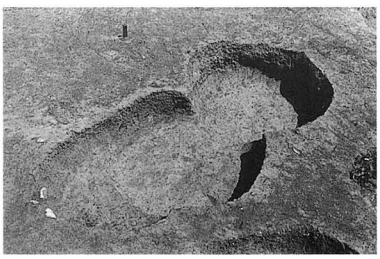
XP－13

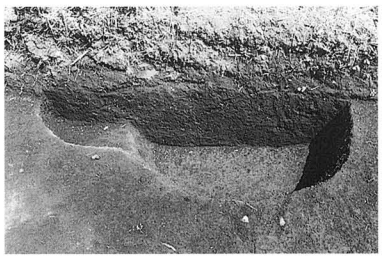

JP－2

JP－3


XP－14

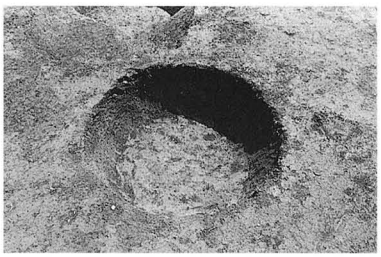
XP－79.15


XP－19.18.17


XP－21

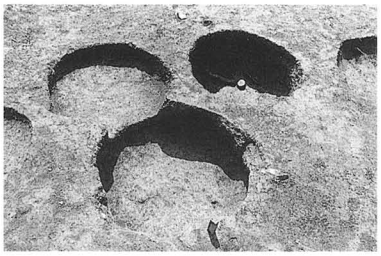
JD－4

XP－23.22

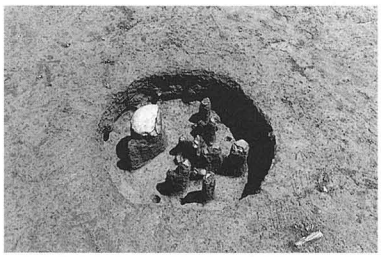

XP－24

XP－25

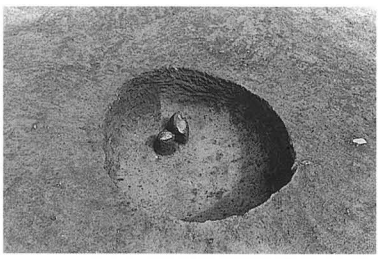
XP－27


XP－29.28.30

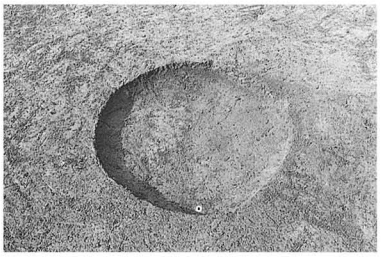
XP－31


XP－32

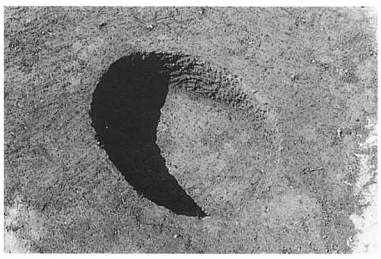
XP－33


XP－34

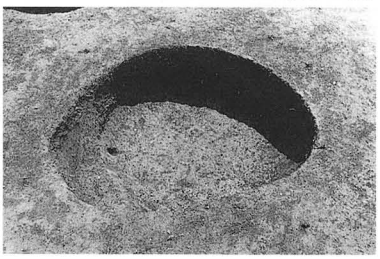
XP－36


XP－38

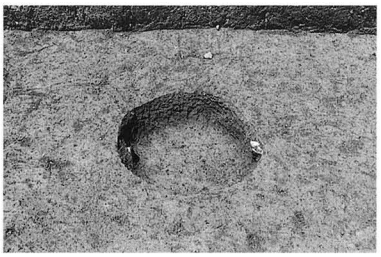
XP－39


XP－41

XP－43.42


XP－44

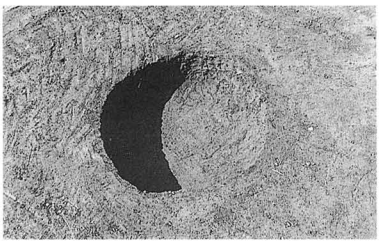
XP－46


XP－47

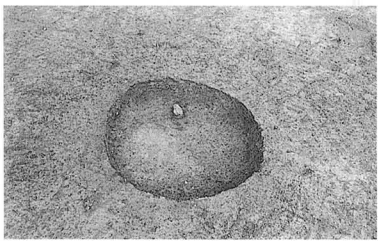
XP－48

図版 8

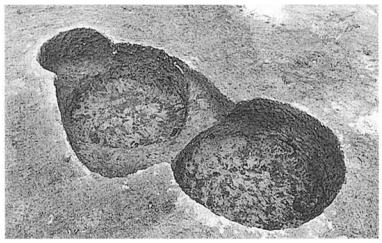
XP－49



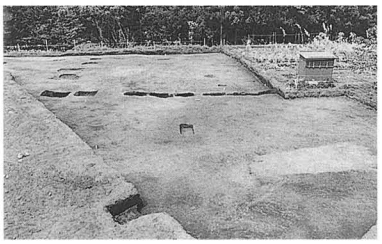
XP－50



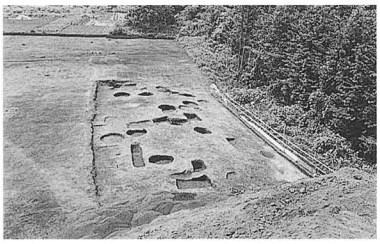
XP－51



XP－52.53.143.54



調査区東

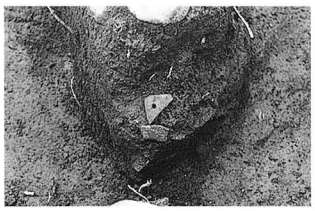


調査区北

調査区北

調査区南西

XM－ 1（北から）



XM－ 1 －15

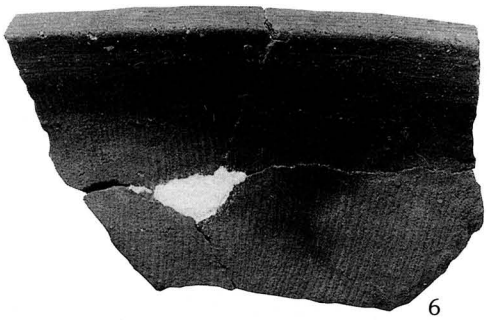
1

2

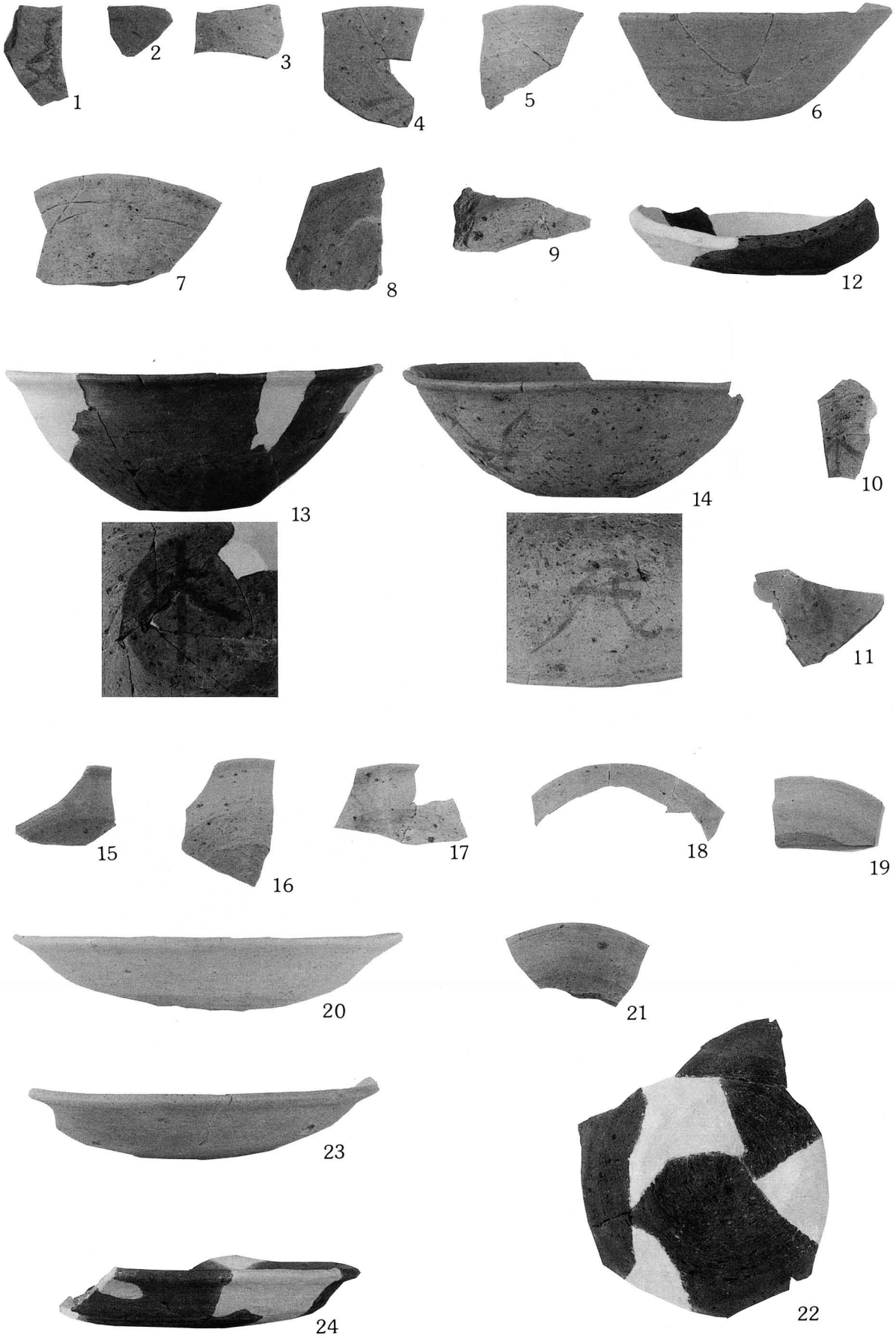
3

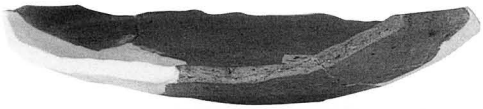
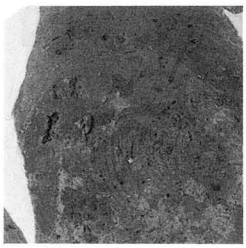
4

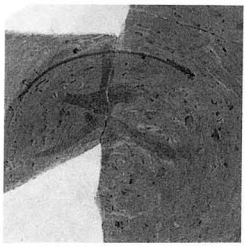
5

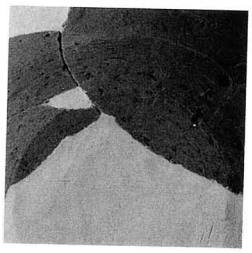

6

図版 10



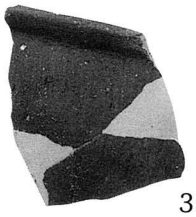


25

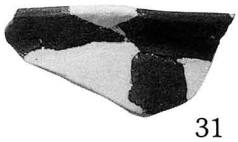

26

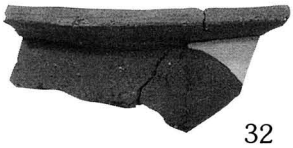

27

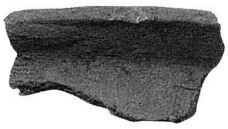
28

29


30

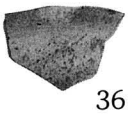

31


32


33

34

35


36

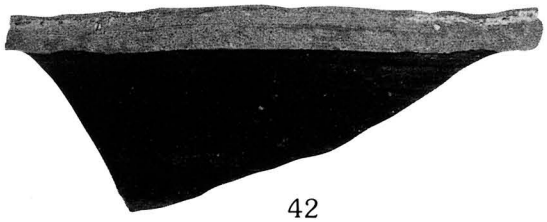
39

40

37

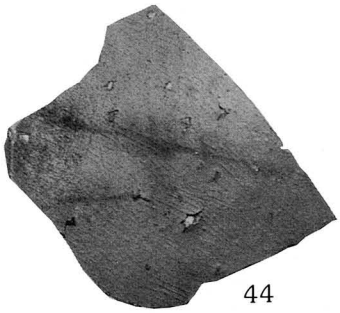
38

41


42

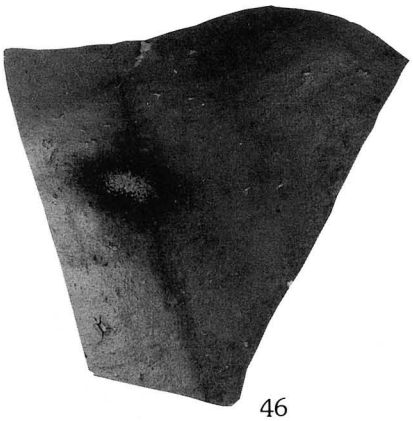
43

図版 12



44

45

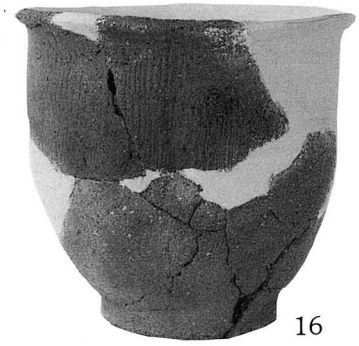


46

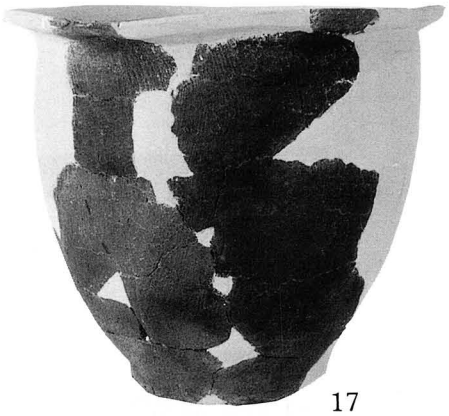
47

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

図版 14



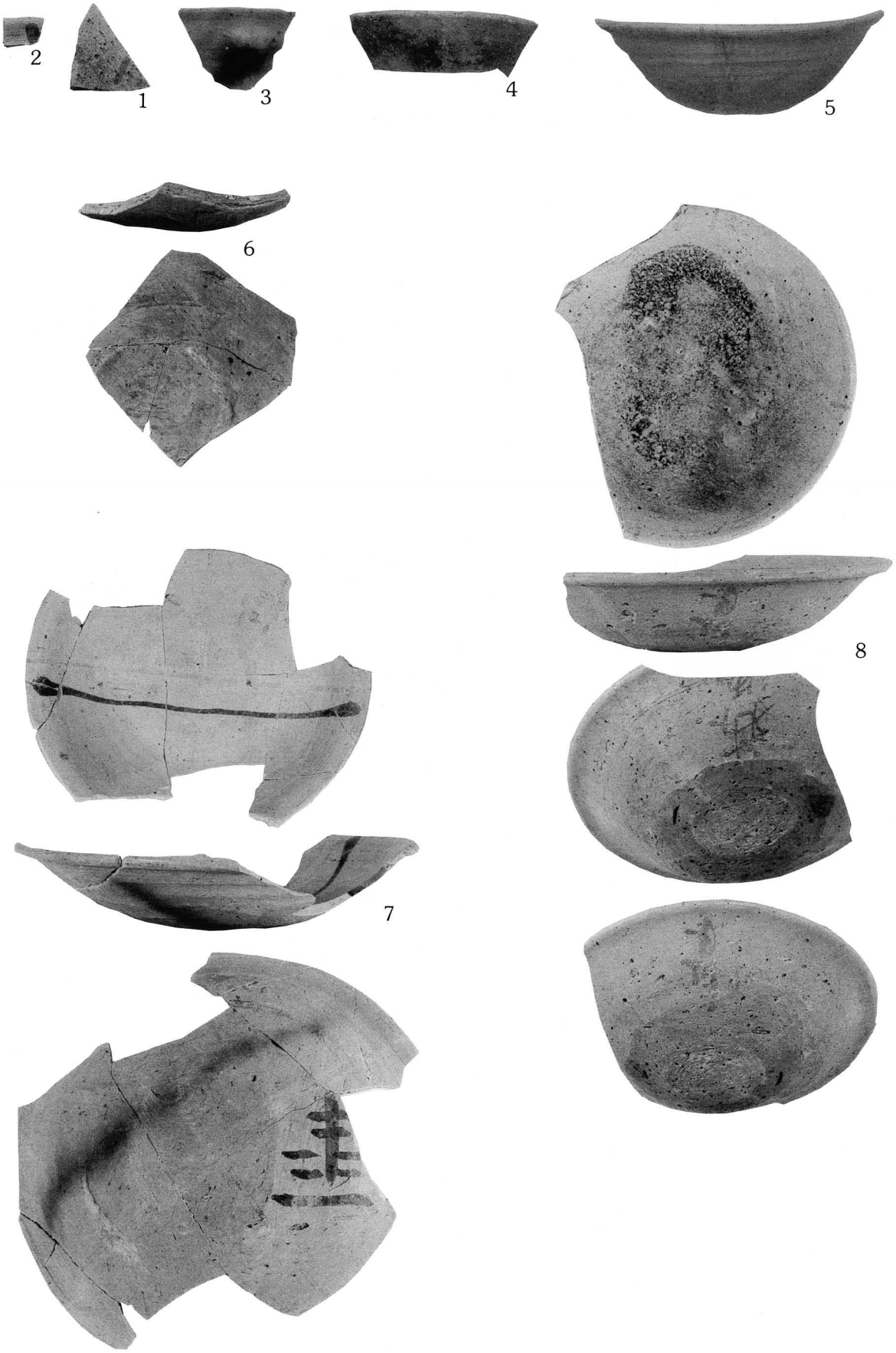
16



17

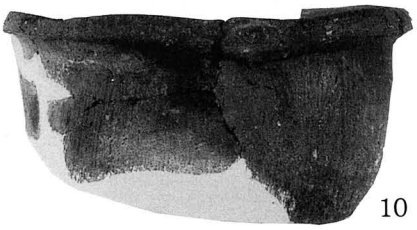
18

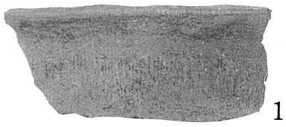
19

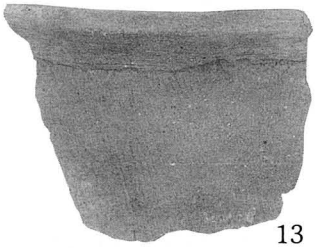

2
1
3
4
5
6
8
7

図版 16

9

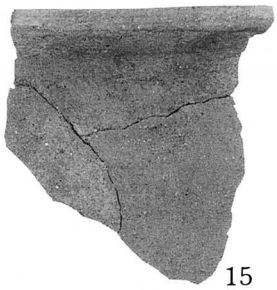

10


11


13

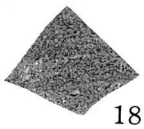
14

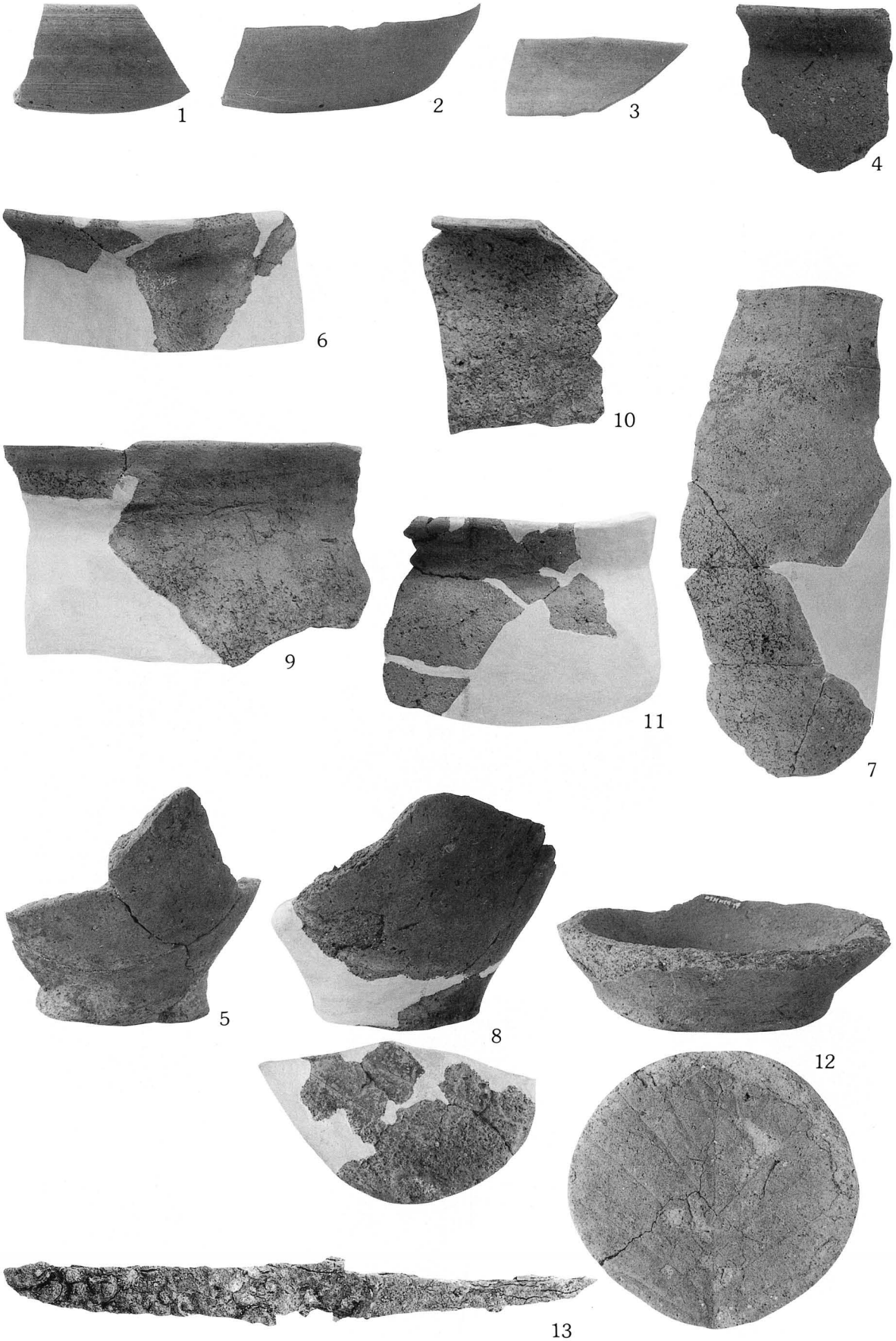
12


15

16

17

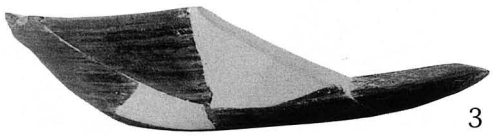

18


1
2
3
4
6
10
9
11
7
5
8
12
13

図版 18

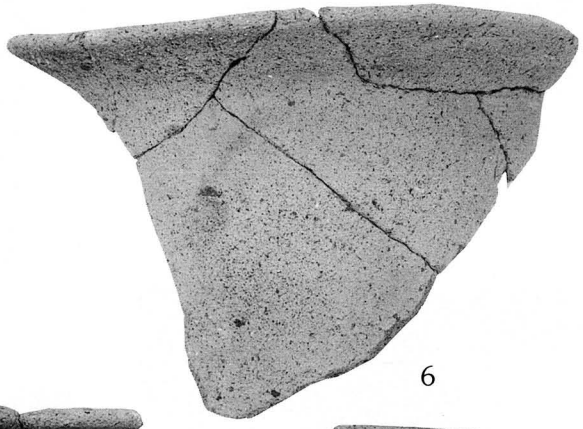
1

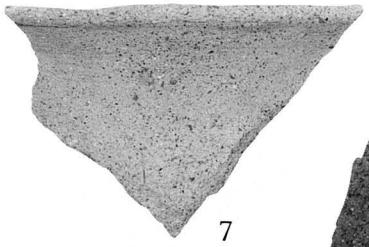
2


3

4

5

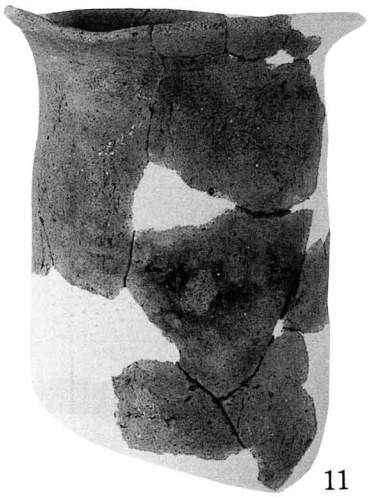

6


7

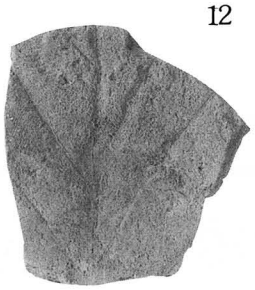
8

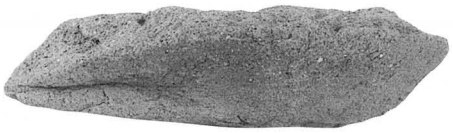
9

10


11

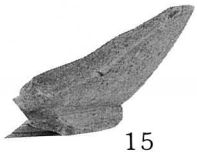
12





13

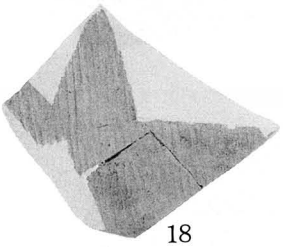
14



15

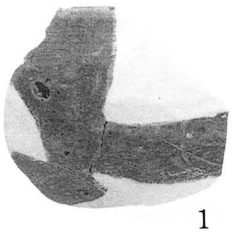
16

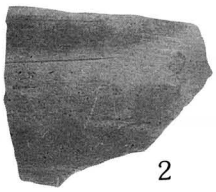
17

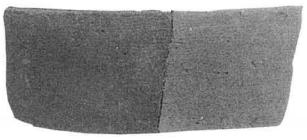


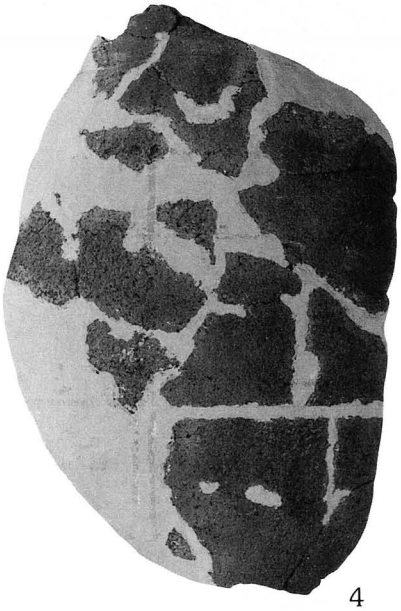
18

図版 20

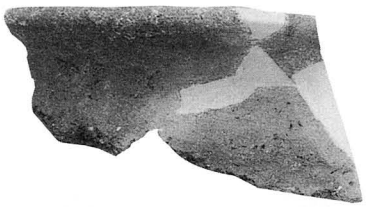

1

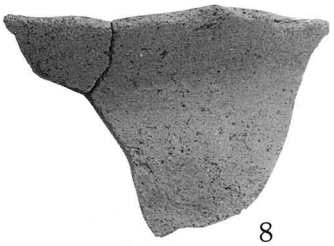

2

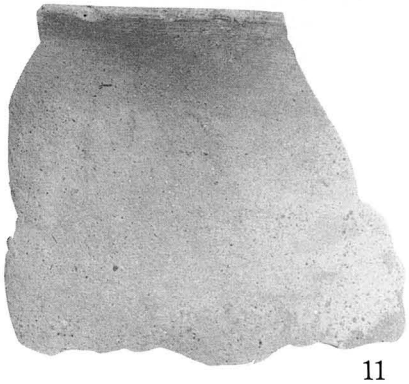

3


4

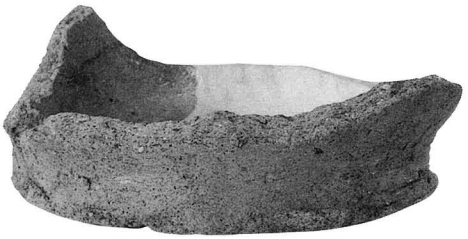
6

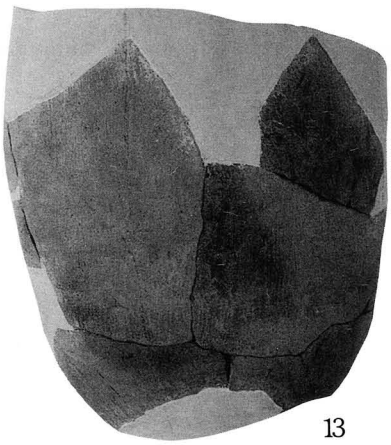

7

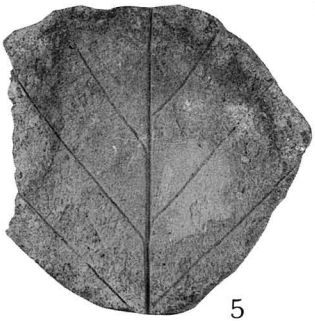

8

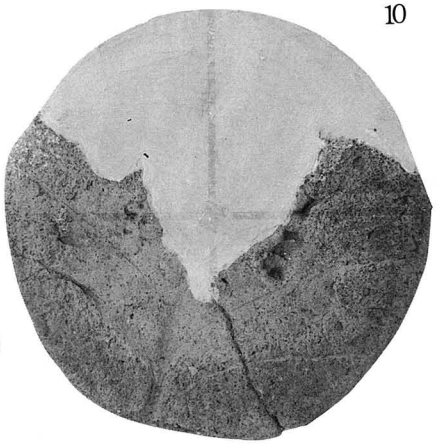

11

12

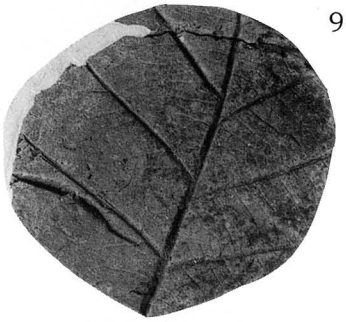

10


13

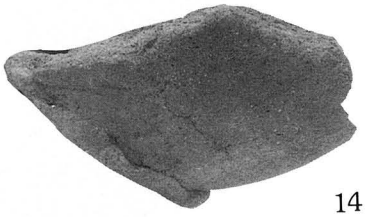

5



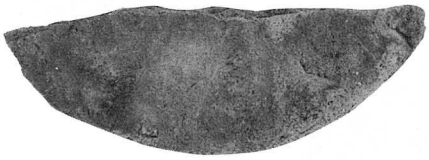
9

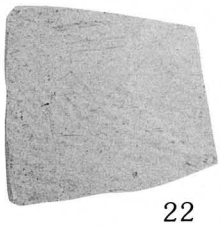


15



14





22

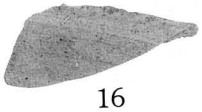
23

19

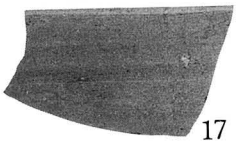
21

20

18

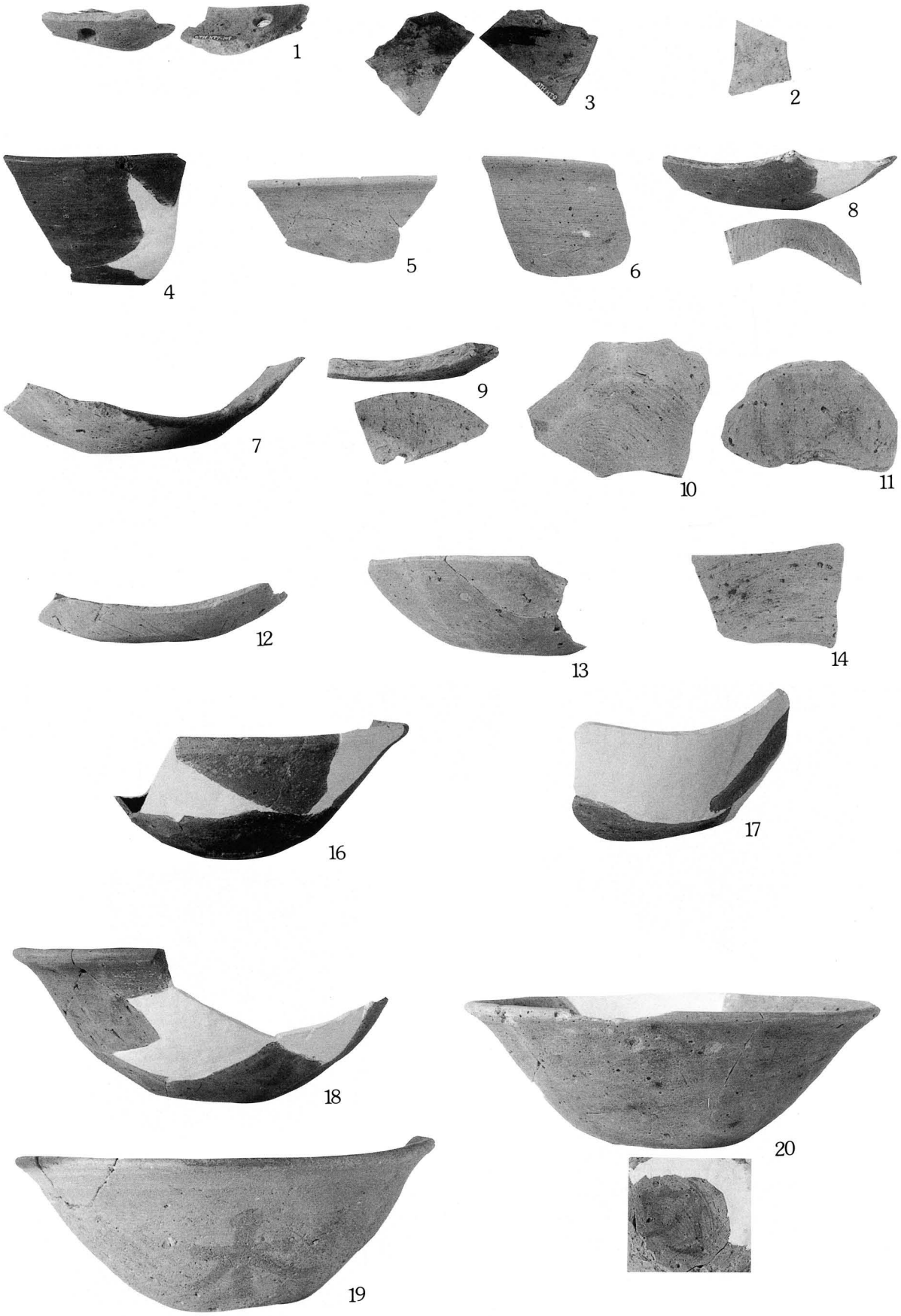


16

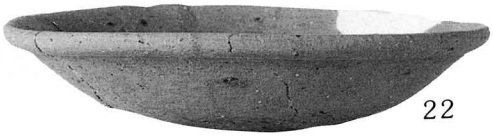


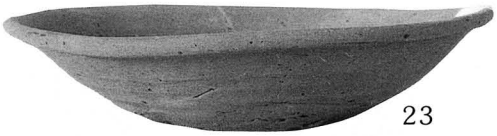
17

図版 22

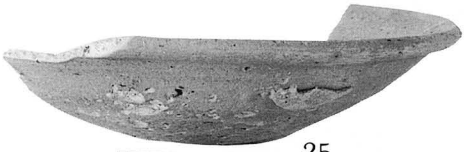

1
2
3
4
5
6
8
7
9
10
11
12
13
14
16
17
18
19
20

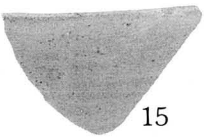
21

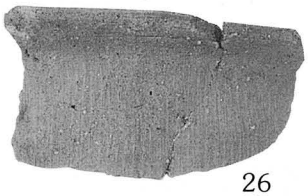

22

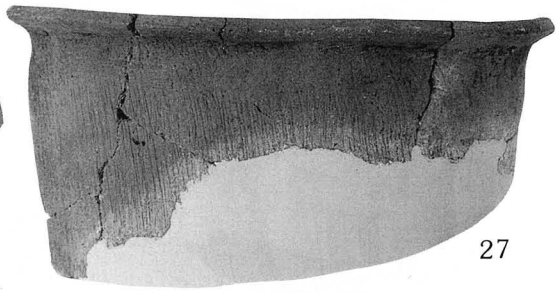

23

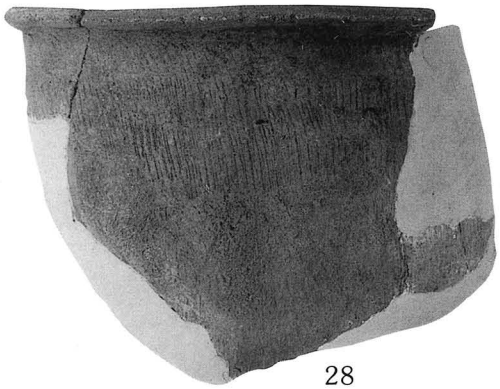
24

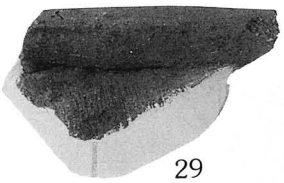

25

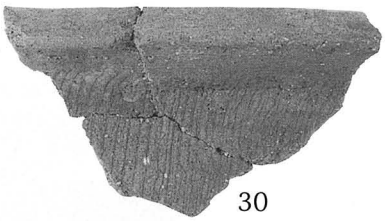

15

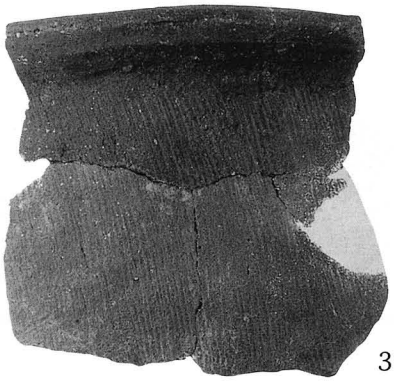

26


27

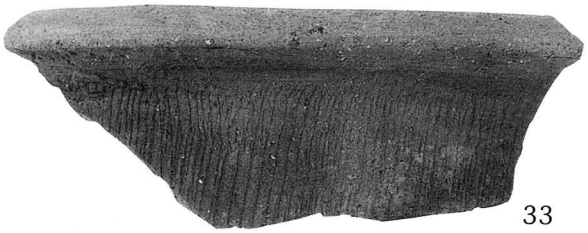

28

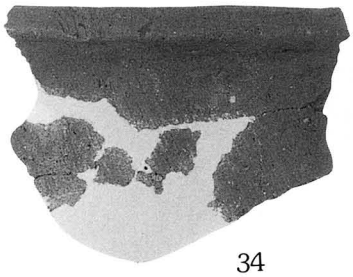

29

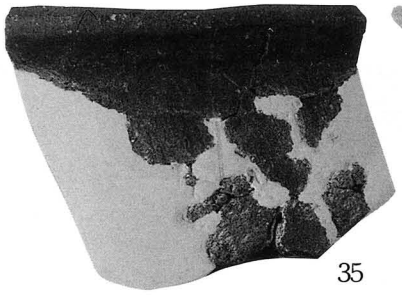

30

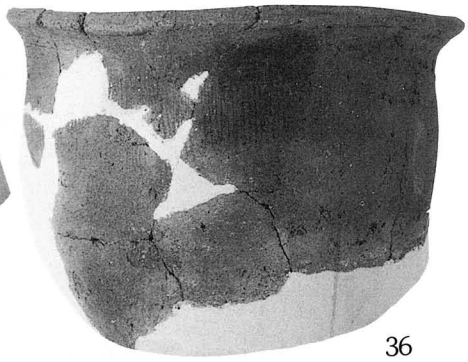

31

32

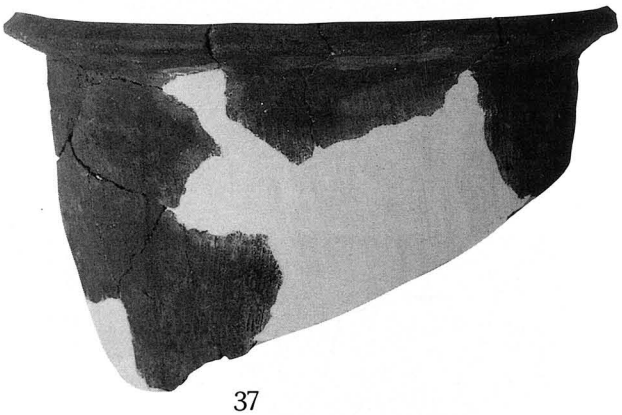

33

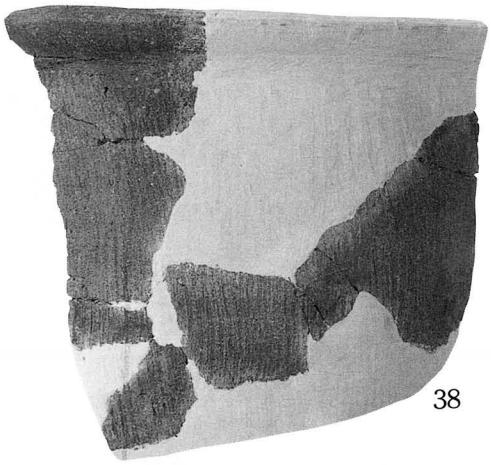

34


35


36

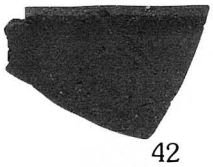
39


37

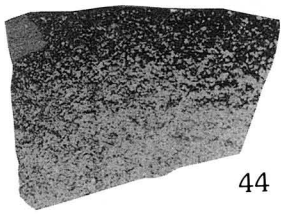

38

40

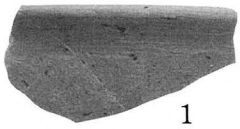
41

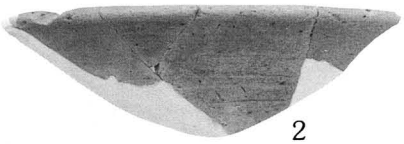

42

43


44

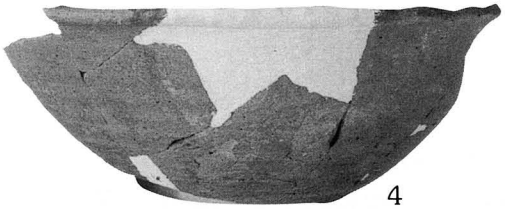
図版 26


1


2

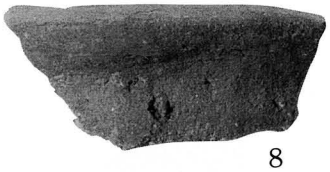
6

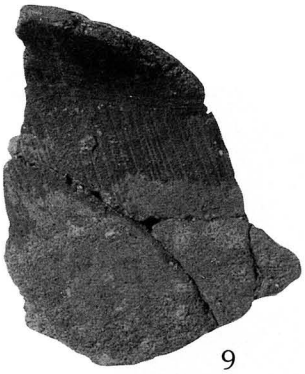
3

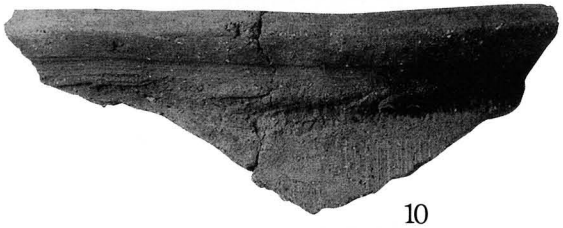

4

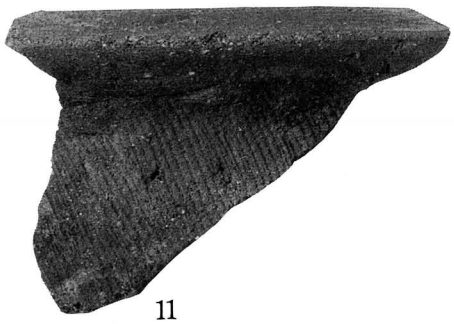
5

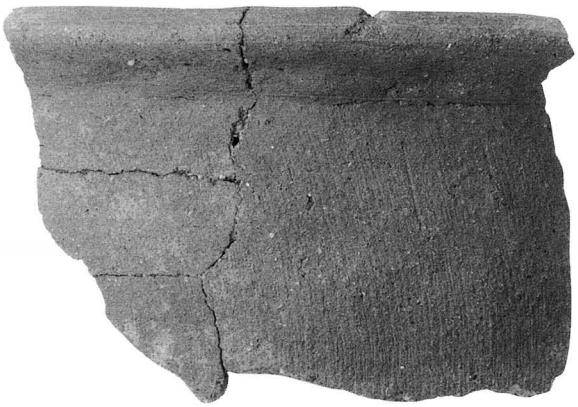
7


8


9

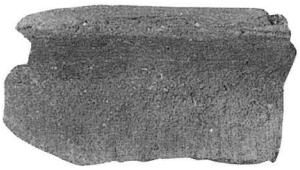

10


11


12

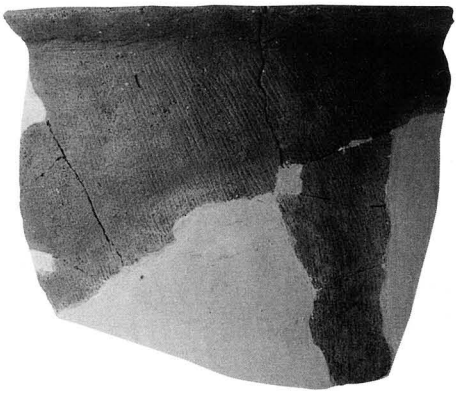
図版 28

17



16

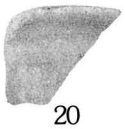
15



14

13

18



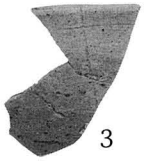
20

19

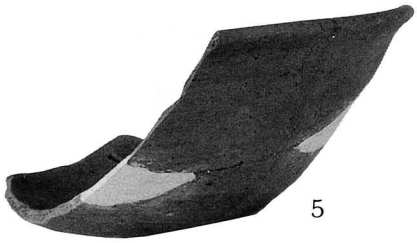
21

1

2

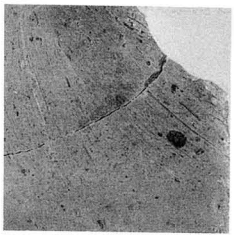

3

4

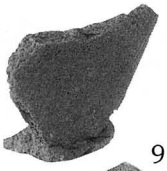

5

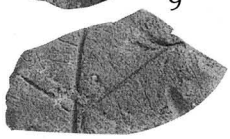
6

7



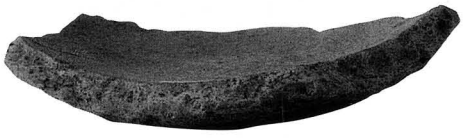
8

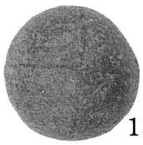

9



10

12


11


13

14

JD 1－1

JD 1－2

XP 16－1

XP 20－2

XP 24－5

XP 23－6

XP 29－1

XP 29－2

XP 29－3

XP 33－1

XP 32－6

XP 33－2

XP 23－7

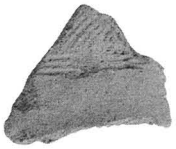
XP 29－5

XP 16－2

XP 21－3

XP 29－4

XP 32－7


XP 32－8

XP 32－9

XP 54－1

XP 21－4

XP 25－8

XP 26－16

XP 34－3

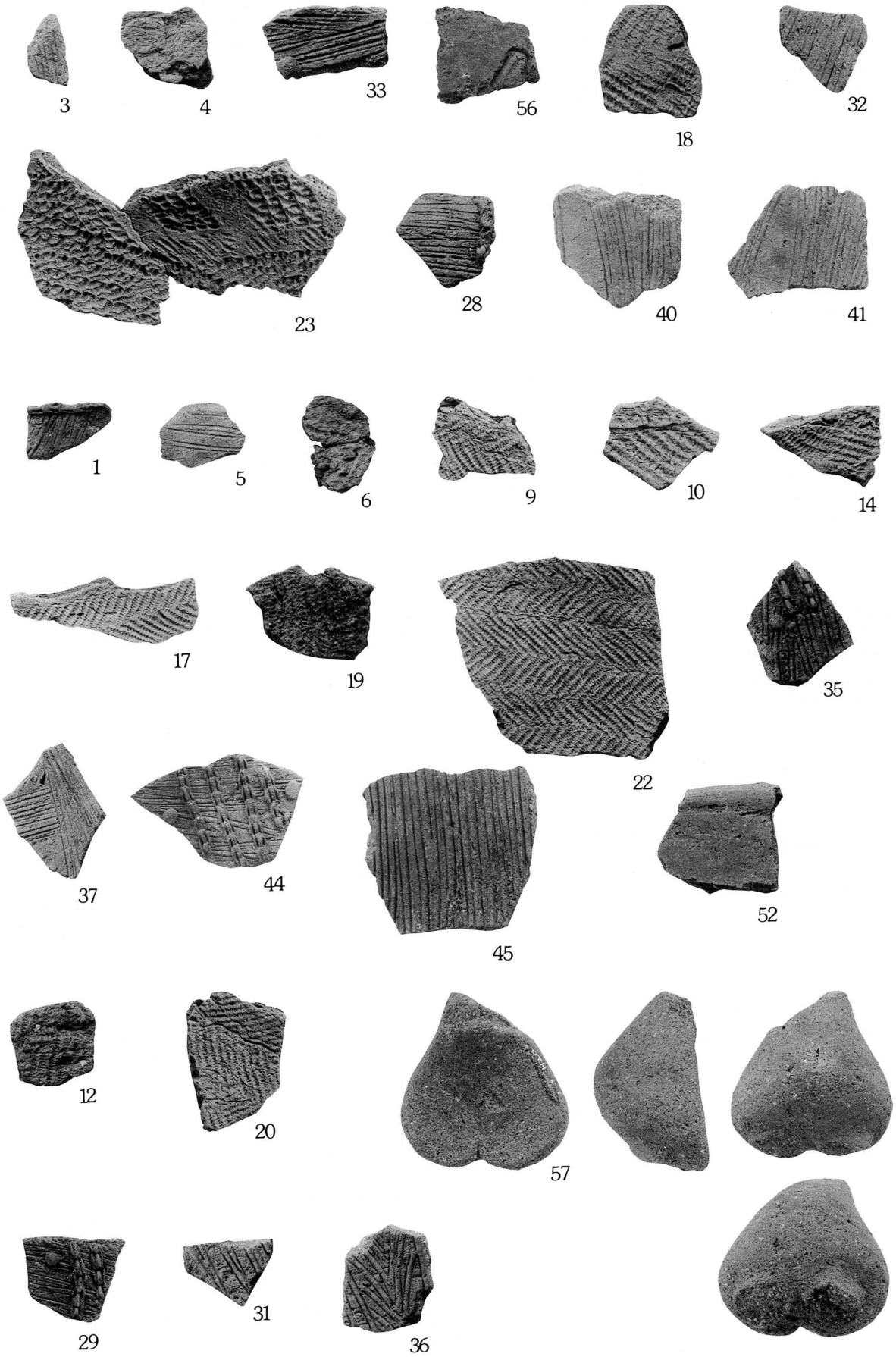
XP 45－2

XP 19－1

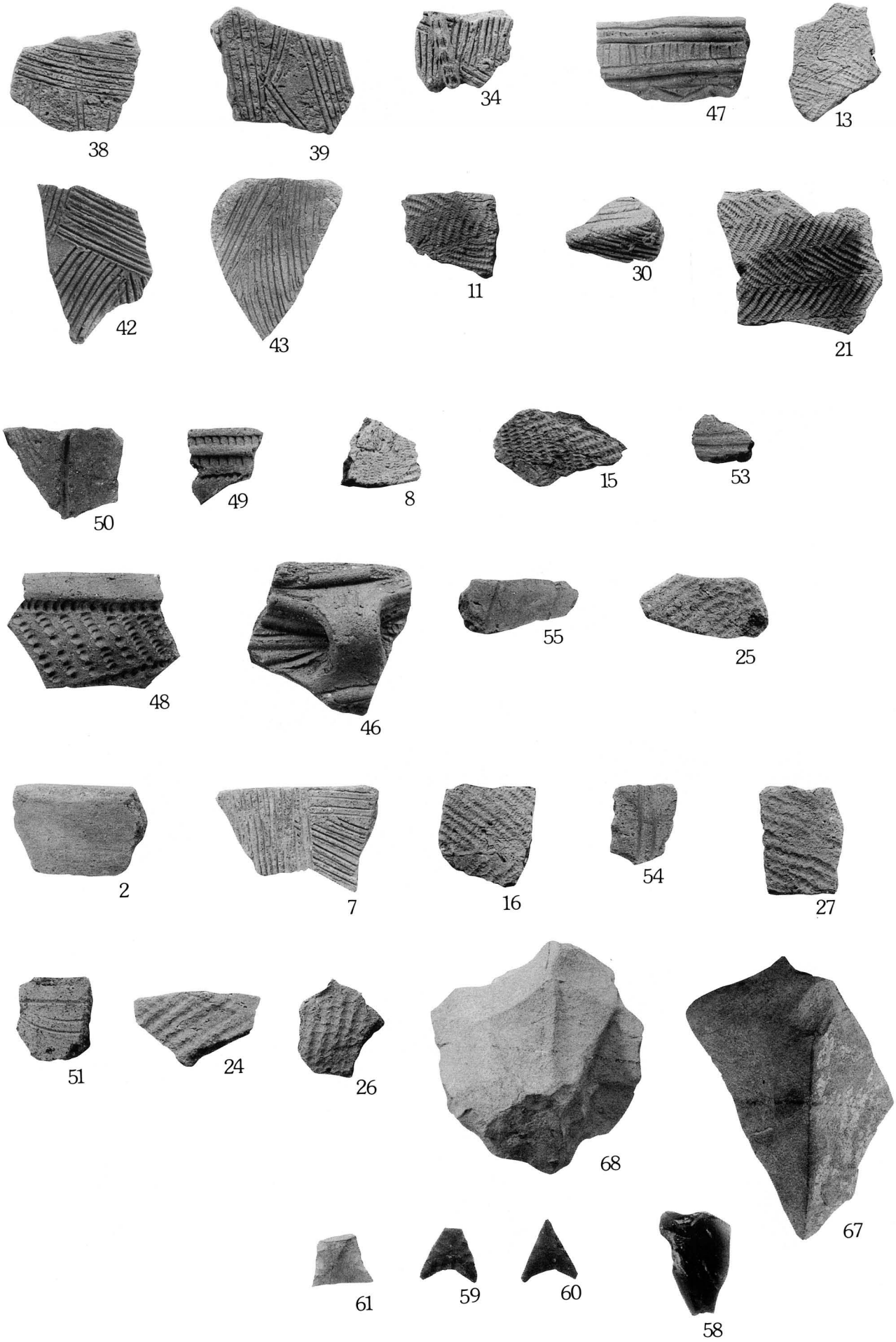
XP 16－3

XP 44－1

XP 41－1

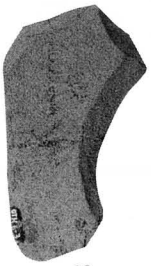

3
4
33
56
18
32
23
28
40
41
1
5
6
9
10
14
17
19
22
35
37
44
45
52
12
20
57
29
31
36

図版 32


38
39
34
47
13
42
43
11
30
21
50
49
8
15
53
48
46
55
25
2
7
16
54
27
51
24
26
68
67
61
59
60
58

71

64

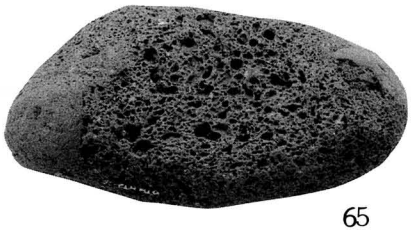

63

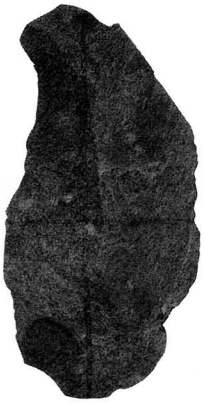
70

66

69

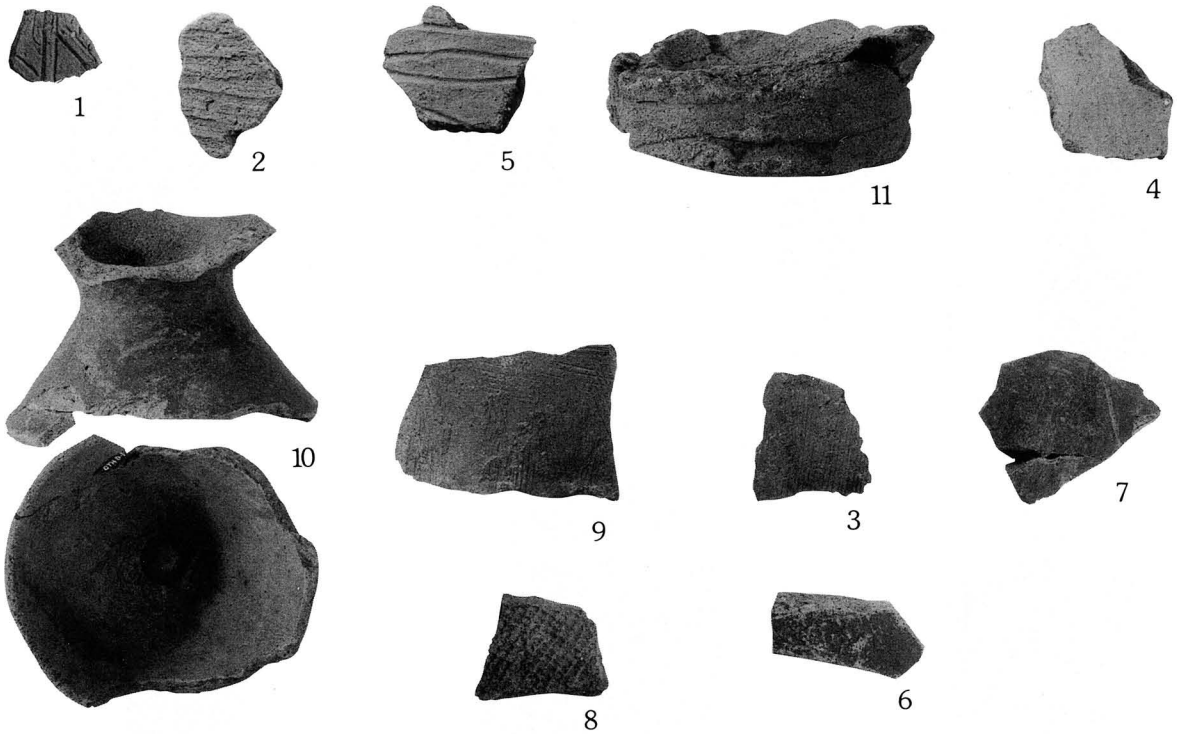
62

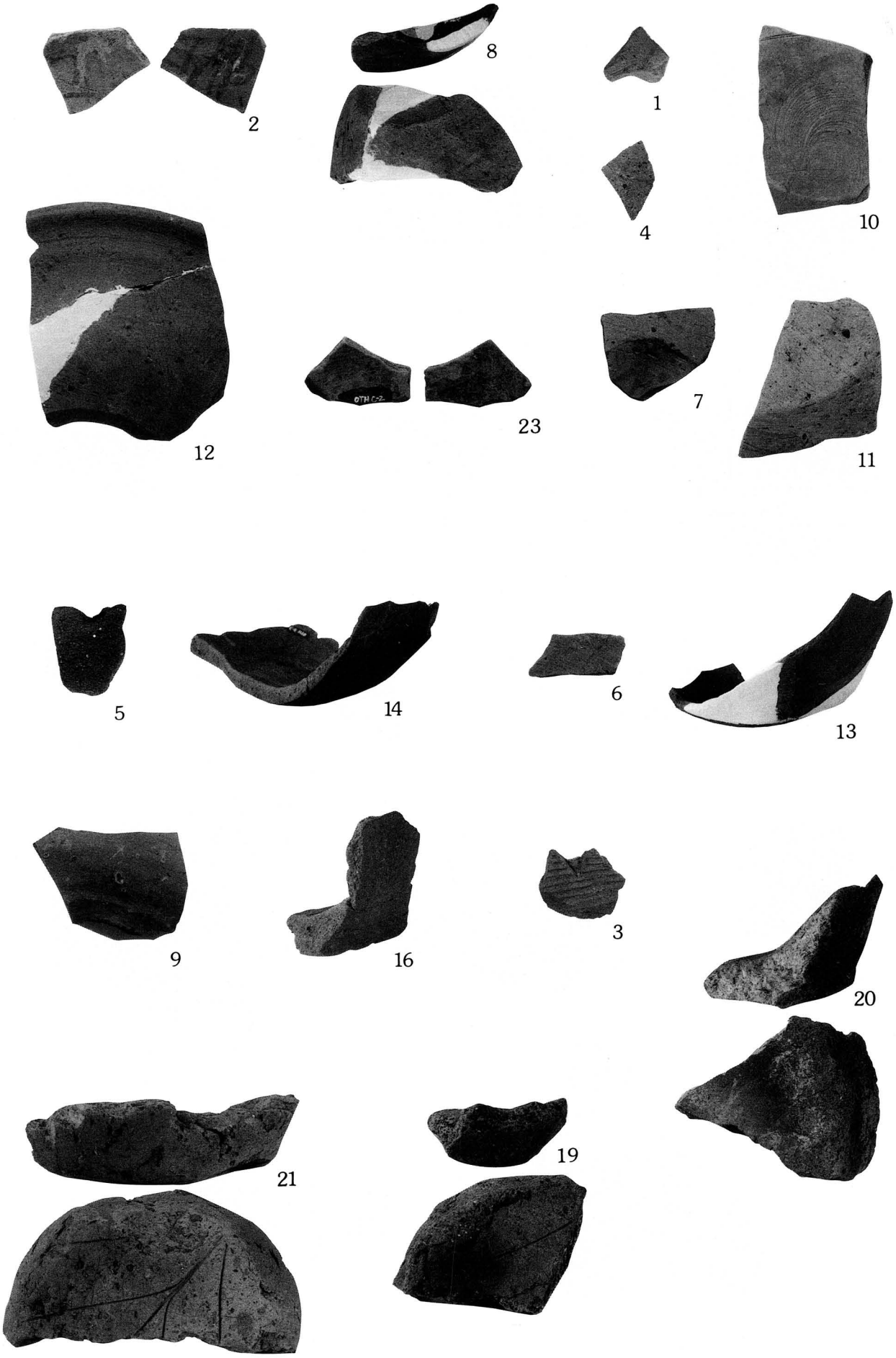

65


72

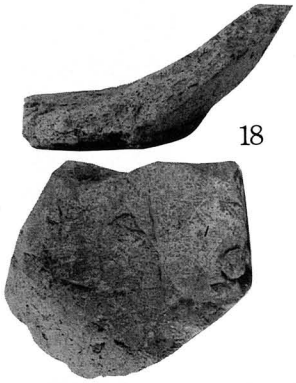
73

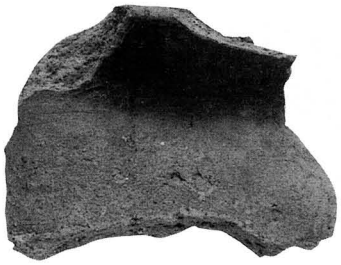
図版 34

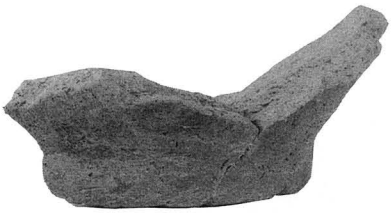


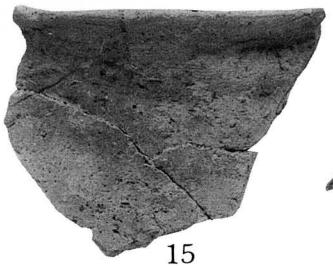

2
8
1
4
10
12
23
7
11
5
14
6
13
9
16
3
20
21
19

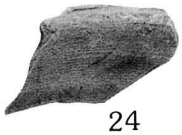
図版 36

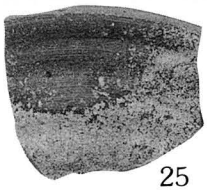

18

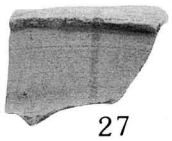

17

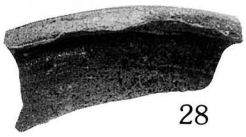

22

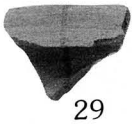

15

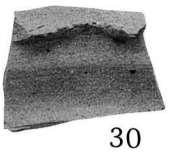

24

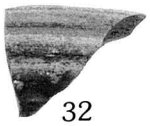

25

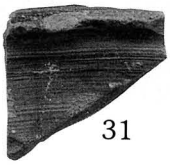

27


28


29


30

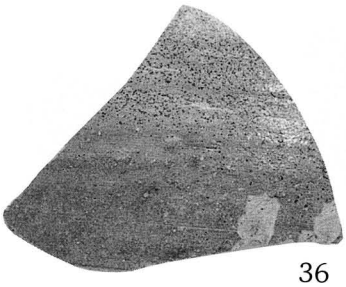

32

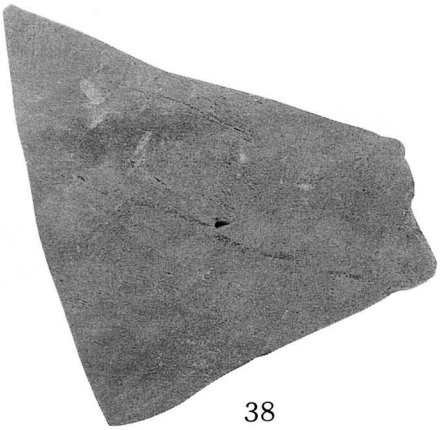

31

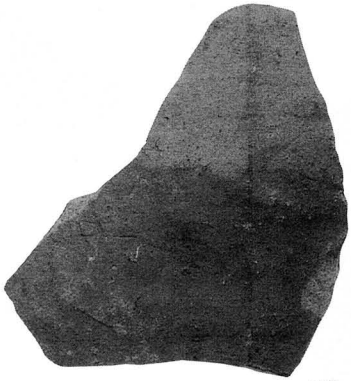
34

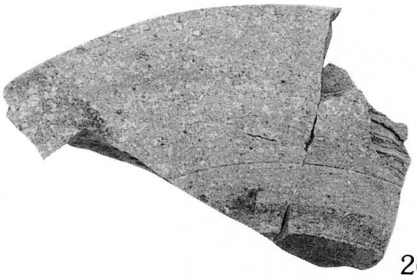
33

35

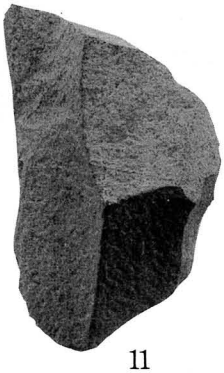

36


38


37


26

10


11

2

3

5

4

6

7

8

9

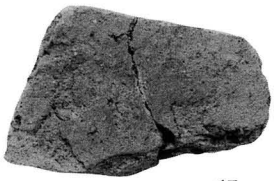
27

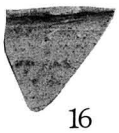
28

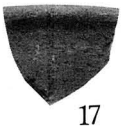
12

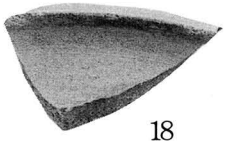
13

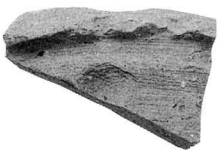
14

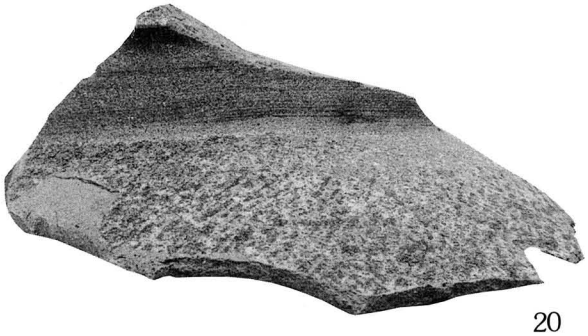

15


16


17


18

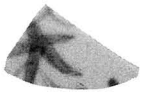

19


20

図版 38

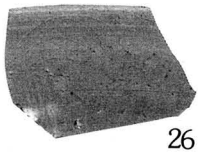
21

22

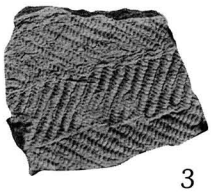

23

24

25


26

1


3

1

2

4

5

6

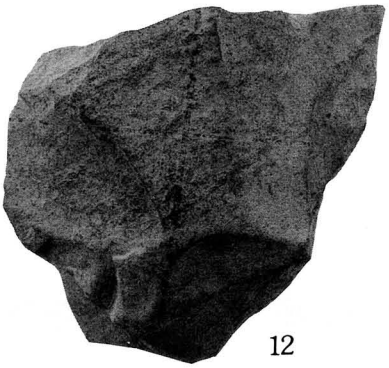
8

9

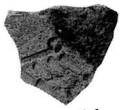
7

10

11


12

13


14

15

報告書概要

ふりがな	おおたがはらいせき				
書名	太田ヶ原遺跡発掘調査報告書				
副題	東京電力株式会社駒橋工務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査				
編著者名	福田正人				
編集機関	大月市遺跡調査会				
所在地・電話番号	山梨県大月市大月二丁目6番20号				
発行者	大月市教育委員会				
印刷所	大月プリント社				
印刷日・発行日	2001年6月				
所収遺跡	所在地				1/25,000地図名
太田ヶ原遺跡	大月市賑岡町強瀬字太田ヶ原1101－2・1101－3				大月
	調査期間			調査面積	調査原因
	平成8年4月25日～同9月30日 平成9年3月6日～同3月31日			4，832㎡	事務所建設
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
	集落	平安	住居跡 穴跡	土師器 鉄製品	

大月市埋蔵文化財報告書

2001年6月30日発行

太田ヶ原遺跡

編集　大月市遺跡調査会
大月市大月2－6－20
TEL　0554－22－2111

発行　大月市教育委員会

印刷　㈱大月プリント社